



唐人踊り (津市)

青く 高く 冴え渡る空
 十三重石宝塔に錦雲がかかる
 咲き乱れるコスモスが風に揺れ
 可憐な彩りを観音様に供える
 ドン ホ〜ヒ〜 チャン チャン
 喜怒哀楽を表したお面をつけた
 赤 黄 白の衣装が飛び跳ねる
 津八幡宮祭礼の「唐人踊り」
 朝鮮通信使を真似たものという
 漂う清浄な静けさの中に
 小さな明かりが時々と輝く
 遠く近くに揺れるこまかな灯^{つと}火
 鈍く幻想的に光り心の奥を照らす
 舞っては消え 消えては舞う
 遙か彼方から恋歌が聞こえてくる

万燈会 (宝山寺)

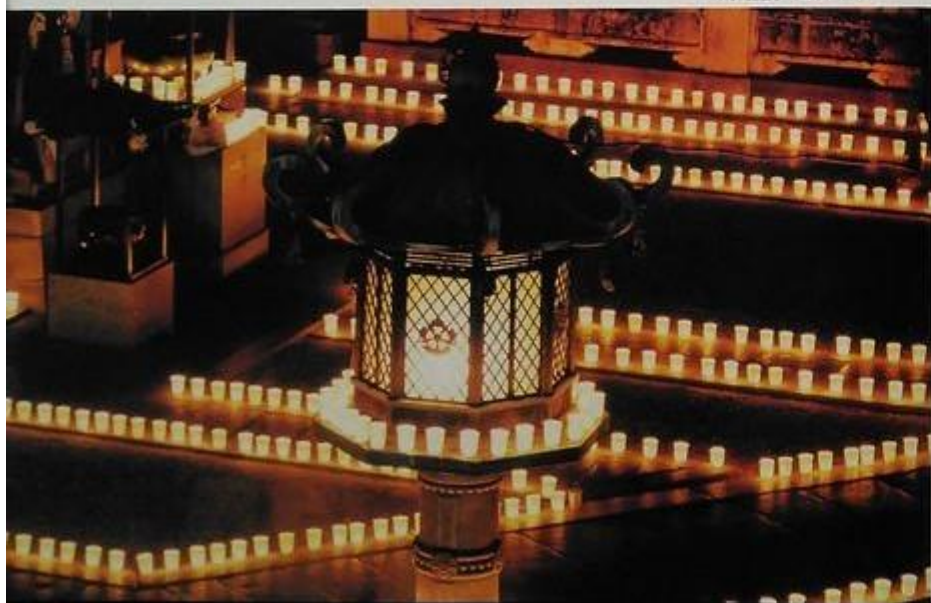


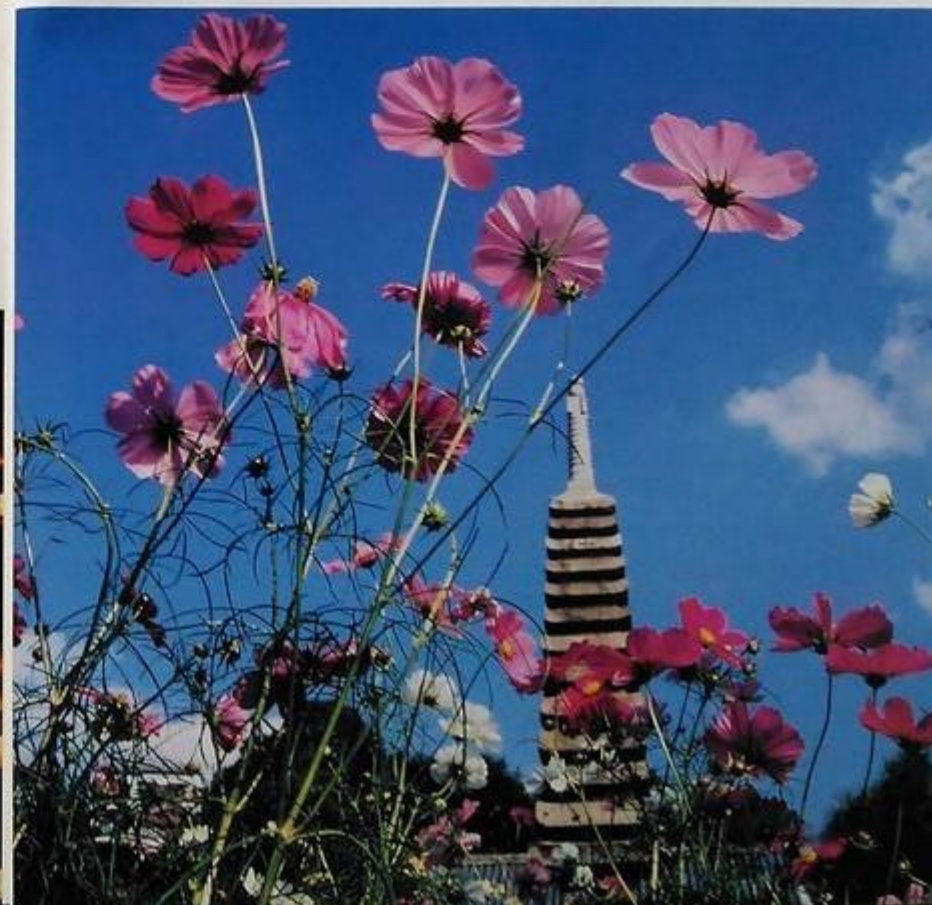
Photo essay

秋の宴



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

秋桜 (般若寺)





カリガネソウ

牧野



季節の



彦根城

実景

琵琶湖周遊

初秋

撮影 武市通治

新旭



尾上





湖沢上部から奥穂高岳（北アルプス） 中川 光郎



初冠雪とみくりが池（立山） 三浦 弘幸

御射鹿池（ハッ岳） 吉沢 栄一

御池岳ゴロ谷を歩く（鈴鹿） 金谷 昭

御池岳ゴロ谷（鈴鹿） 金谷 昭

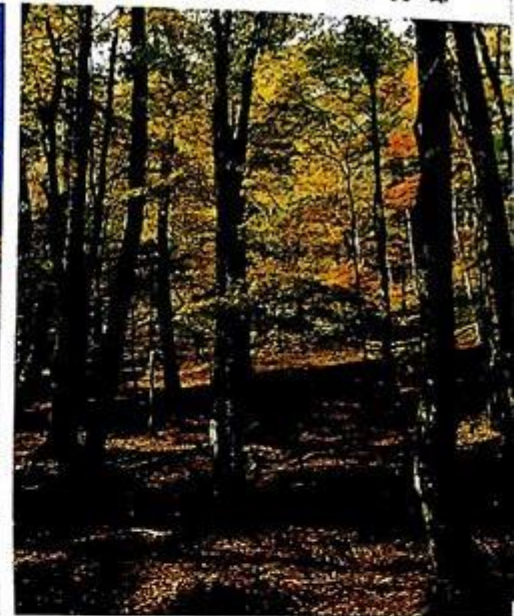


高原の秋 -大台ヶ原にて-

奥田 英一郎



西大台展望所の紅葉一枝



七ツ池跡近くの自然林



孤独な牡鹿

●目次

表紙：松田敏男「初秋の濃ヶ池」(中央アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳作家、山岳部の編纂多数執筆。(京都平安堂、南アルプス山小屋、東京キャリアー百号、他) 京鶴山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新伴ダ 8冊 関西の山 03年9・10月 初秋 第72号

●グラビア	秋の宴……………撮影 由井 収 文 松永 恵一 季節の実景(初秋)「琵琶湖周遊」…………… 武市 通治 (口絵)三浦弘幸 金谷 昭 中川光郎 吉沢栄一 奥田英一郎
●紀行	経ヶ岳(中央アルプス)……………妻鹿ひろ子 摺鉢山(比良)……………小山 誠次 妙高山と火打山(上越)……………鷺見 守康 水ノ山・鉢伏山(信濃)……………田中 明 運載 標高による山の紹介シリーズ12 △△72頁の山 横岳・無名峰・大門山・三池岳……………松田 敏男 安徳帝の二つの小島(鹿児島)……………多摩 雷雄 小富士山から茅渚宮跡(京都)……………木村 太郎 漢翠山に登る(谷川)……………塚元 一彦 運載 三角点を訪ねて②……………純
●エリヤ別徹底研究	高野参詣道を歩く(第一回) はじめに ①大門口(町石道) ②麻生津口……………長坂 文男
●旗振り通信の研究⑩	広島ルートと狼煙リレー……………柴田 昭彦
●藤白山系を歩く 鎌石山から大野城跡(紀北)	……………中村 敏文
●文学歴史探訪ハイク⑦	伊賀上野を訪ねて……………松永 恵一
●山のレポート	山の地名を歩く①「愛宕山」(下)……………西尾 寿一
●山のレポート	▲山・時・夢▲大聖寺・深田久弥……………紀平 龍雄
●山のレポート	2等三角点のある山……………山形 歳之
ガイド	①弥高山(南東北部)……………長宗 清司
②黒尾山・庭戸山(鈴鹿)	……………磯部 純
沿線ハイキングガイド	新ハイ関西山行計画……………83
サービスチェーン	新ハイ関西山行報告……………85
せせらぎ	編集後記・広告案内……………85
	……………89

巻頭言

冬から目覚めた草木が花を咲かせ葉を茂らせ、やがて実をつける秋になろうとしています。山を歩いてみるとそのような自然の移り変わりが手に取るように感じられて季節を実感します。

ただ、雪の山や美しい春の花に感動していたのはつい最近のことなのに、もうすぐ紅葉する木々や熟す実が季節の深まりを覚えるのも間近で、私には時の流れが本当に速く感じられます。なおさら一回の出会いを大切にしなければという気持ちです。

毎日に何の変化も見られないのに、一週間二週間と日置いて山に入ってみると、もう景色が一変していることがあります。まるで違う登山道歩いているかのような錯覚に陥ることもあります。少しずつ変化していきながら付くと大変貌している。山歩きはそのような自然の変化に敏感になり、季節感と一体になれることではないでしょうか。

それぞれの新しい山に登ってその季節感溢れる風物を見ながら歩くことは楽しいものです。そして発見できれば、その山に数年は通いつめることになりました。

新ハイキング関西(代巻) 村田 智俊



支



支

随想

(山のエッセイ)

稲村ヶ岳に生きた 赤井五代松・邦正 父子のこと

奥田英一郎

「ちよっとお嬢ちゃん、スマンケンटनाア、向こうの小舎に牛乳と新聞が届いてるから、取ってきてクレンカイナ！」

山上辻小屋での朝、起きぬけに声をかけられた女性は、えっ、こんな山奥に？……と一瞬とまどったのが、邦正オヤジがあまり真顔なので、ついその気になって出てゆくのである。

かつがれたと知って、半ば自嘲きみに突っている女性に、オヤジは朝食の準備の手を休めずに、「いつもクマくんか、カモシカくんが届けにくるんやが、さきようはサボリヨクटनाア」と、すつとぼけるのである。初めて

小屋に泊まる客のたいがいは、こうしてオヤジの洗礼を受けたのである。五代松爺さんが建てた簡素な小舎が道をまたぐようにしてあった頃の話だった。五代松爺さんが亡くなって、もう30年。邦正オヤジが亡くなったのが一昨年。2人はそれぞれ88歳、83歳、同じ2月に亡くなっている。

洞川の奇人といわれた五代松爺さんが、だれに頼まれたわけでもないのに、私財を投じて鍾乳洞を掘り続けた話はよく知られている。

洞川の村はずれから法力峠を経て山上辻までの登山道は、まるで精密な測量でもして切り拓いたような勾配で、疲れを感じさせない道であるが、実は五代松爺と息子の邦正オヤジの2人が数年かけて拓いた道なのである。これらは五代松鍾乳洞・五代松新道と呼ばれている。夏のある日、私は山上ヶ岳へ

登るべく清浄大橋を指して1人で歩いてきた。母公堂近くの道の中央で這いつくばって手を動かしている老人がいた。道を均していたのは五代松爺だった。「お世話です」と声をかけると「どなたさまでしたかイナ」と目の見えない顔を上げた。長年の鍾乳洞掘りのため煩った眼病のせいで、この時すでに失明していたのである。

稲村ヶ岳のシャクナゲを撮影した婦りに、山上辻の小屋にいた邦正オヤジに伝言を頼まれて洞川のお宅に立ち寄ったことがある。奥さんに用件を伝えて、玄関先でお茶をいただいた。その折、「山には登山者がいましたか」と尋ねられて、「女性の方、4、5人に会いました」と答えた……時、突然奥から「ナニッ！ おやまに女性が登ってトクットオッ！」と怒鳴る声が響いてきた。初め何のことかわからなかったのだが、奥さんが

慌てて「鍾乳洞に女の人が上がってたという話よ」と、すかさずうにとりつろろつた。あとしばらくぶつぶつ言っていたが「女性がおやまに登ると、お山が荒れるデナア！」と言うのが聞こえた。

女人禁制の山上ヶ岳に女性も登らせよ、いや登らせぬと世間で騒々しく取り沙汰されていた頃である。昭和30年(1970年)頃に竜泉寺境内はもちろん、稲村ヶ岳にもすでに女性が自由に登っていたのだが、五代松爺にとっては稲村ヶ岳はあくまで禁制のおやまだった。

爺さんは信念の人だった。鍾乳洞掘りも登山道拓きもオカネが自当ではなかったと、邦正オヤジはいつも語っていた。

大峰信仰に篤い心を寄せていた爺さんにとっては、修験の道に携わる人たちのために、何らかの貢献ができるということが自分の生き甲斐であり、それが

自分に課せられた使命だと思っていたのであろう。でなければだれに頼まれたわけでもない鍾乳洞掘りや道普請などできるものではない。

ちなみに、大峰信仰では鍾乳洞も洞窟も修行の場である。洞川の蟻蜂の窟は一の行場である。鍾乳洞内の鍾乳石には神像・仏像に擬して名が付けられ、信者たちの霊地となっている。大昔賢岳中腹にある壱の窟も、役ノ小角開山以来、数々の名僧たちの参籠所であったことは、日蓮上人・行尊大僧正・西行法師らの詠み遺した歌からもわかる。壱の窟ではつい最近もテントで無言の行を行っていた行者がいた。

私は、樹林と溪谷の美しさに魅せられて、四季折々に大峰、大台の山城を歩いてきたが、稲村ヶ岳では邦正オヤジに随分お世話になった。オヤジの登山姿はいつも、ジャージイのトレバ

ン・トレシャツで、冬の積雪期には長靴にワカンを着けてラッセルするのだった。

ドカ雪の降ったある日、オヤジと2人で山上辻から山上ヶ岳までを一日がかりで歩いたことがある。夜は宿坊を借りたが、寒さの厳しい夜だった。あまりの寒さにととうとオヤジは焚火を始めた。風が強くて戸も窓も開けられず、たちまちもうもうたる煙のなか。シユラフの奥深く顔を埋めながら泣く泣く夜明けを待ったことも懐かしい。

ある年の夏のこと、林間学校の付添いで稲村ヶ岳に登ってきた女性教諭が大日岳とのキレットで転落するという事故に居合せたことがある。キレット前方の岩峰に踏み入って足を踏みはずしたようだ。小屋にいた邦正オヤジは連絡を聞いてすぐ動き出した。幸い訓練登山中の自衛隊員によって遭難者は危なっかしいルンゼ状の谷から引き上げ



支



支

随想

(山のエッセイ)

られたが、残念なことにすでにこと切れていた。麓から駆け登ってきた医師の検死によると、腹部強打による圧迫死で外傷はなかった。

担架に載せられた遭難者の後ろから重い気分分て山をおりたが、ふっと、「女性が山に登るとおやまが荒れるデナァ！」と言った五代松爺の言葉が思い出された。

稲村ヶ岳は新緑も紅葉も樹水もその美しさはみごとだが、シクナゲや、亜高山性の山野草の種類も多く、それだけに、邦正オヤジは心ない登山者の盗掘りには気を配っていた。環境庁の指導員として、時には厳しい指導もしていた。稲村ヶ岳の植物の保存状態のよいのはオヤジのお蔭かもしれない。

個性が強かったから馴染めない人もいたようだが、たいがいの人は、「漢字の読み方はナァ……」とか、「シクナゲは半逆光で

撮るとエエ……」「使った道具は必ず元の所へ戻すモンヤ」「恋愛のしかたはナァ……」といった人生哲学ともいえる話を「赤井大学」の開講だと喜んで聴いたものである。

稲村ヶ岳の魅力は一般登山道のほかに、いくつかの尾根道とバリエーションルートとして山頂に突き上げている溪谷の通行だ。モジキ谷や神童子谷などを通行して小屋でワラジを脱ぐと、邦正オヤジは手を叩いて迎えてくれた。

もう何年も前になるが、稲村ヶ岳を愛する有志によって、五代松爺さんの遺徳を顕彰して胸像が建てられた。ゴロゴロ水と名付けられた鍾乳洞から湧き出る名水場のすぐ傍らにある。名水を汲みに行く人は年々増え続けて絶えることはないが、五代松爺さんについて語る人は年々少なくなっている。

寂しいことである。

日が暮れないうちに

山本 匠造

若い頃、「恋愛と山登りに理屈は要らない」と思いつき、今も我ながら背景にあたってると自負している。「すてきな男性と交際している」「美人の恋人がいる」と聞かされても、しょせん本人がアツくなっているだけである。

あの山はあそこがここが気に入っている、山登りはこうだから良くて好きなのだと言及したところで、他人は「だから、それがどうした」と言う。

ハイキング、あるいは登山はスポーツである。競技の対象にはならないが、スポーツであることは否めない。山を楽しく安全に歩くことにこそ、あらゆる努力と情熱を注ぐことが、真のスポーツの精神ではないだろうか。

か。

だが中高年のグループが山頂に到達した途端、缶ビールをかざして乾杯する姿はおよそスポーツとは無縁である。上方落語の長屋の花見を連想してしまうし、どのようなスポーツなら試合や練習中にアルコールを摂取することが許されているのだろうか。

ならば、ハイキングや登山をスポーツという規格から外せばよいし、物見遊山なのだといくくめてしまえば全ては解決する。だが、そうはいかない。雪が1つも積もればプレーできないアウトドアスポーツの代表格ゴルフと違い、山は悪天候でも川を谷を、ときには岩肌を行くことがある。

ハイキングや登山を愛好する者としては歩いていること自体、それをトレーニングと思込み、ただ例会に参加していっぱしのハイカーやアルピニストになった気分であるだけでは、安全快

適な山歩きを心がけていることにはなりづらい。なぜなら年々、体力は低下してゆくわけで危険率も上昇する。しんどいばかりの山行なんて、競技スポーツなら負け続けるゲームに何の打開策も持たずに挑んでいるようなものだ。

私のいいいいことのコアは体力をしっかりとつけること。次いで要点でよいから技術的なもの、裏打ちを持つことである。

幸い、近年はあちこちに料金の安いトレーニングジムが存在する。せめて週に一、二度は筋力を鍛えたいものだ。そんなことは若い人のやるものだと思っ逆で、中高年齢ほど筋力の鍛え甲斐があることを知ってほしい。

そうして、実際に効果が出たとと思うころ、山を歩いてみれば、自らの体力の回復、若返りに驚くことうけあいである。

自然に親しむ者が安全快適を求めることは願望ではなく、やらなければならない必須条件である。それは競技でないハイキング・登山というスポーツを格調高いものにするはずである。

ちなみに小生の筋トレ歴は約10年。昭和15年生まれなのだが、スクワット70kg、ベンチプレス50kg、レッグエクステンション50kgを10回1セットを楽にこなせる。その結果として雪山のラッセルも、1日10時間以上の山行も楽しいものを感じられ、自分のみならず、同行者の安全も担保できる気分になれるのである。

想いを寄せる人を他人が不細工といったとしても可愛らしいと思いついたとしてもどこか通じていると思いませんか。

展望のよい静かな山

経ヶ岳

「木曾へ木曾へとつけ出す米は、伊那や高遠の涙米……」と唄われた昔、米の穫れない木曾の宿場に伊那から米が運ばれた。大変な遠廻りをして運ぶ苦勞を見かねた牛方の古畑権兵衛が拓いたといわれるのが、今に残る権兵衛峠である。

その権兵衛峠に分断されて独立峰のように見える経ヶ岳も中央アルプスの一座である。標高2296mは全国に数ある経ヶ岳の中で最高峰を誇る。中央アルプスで登り残した山なので気になっていた。権兵衛峠を登りつめれば、北アルプスや南アルプスの眺望が一気に開けるといふ、その古道も歩いてみたい。

前日に権兵衛峠を散歩して、翌朝早く

妻鹿ひろ子

中央アルプス

に経ヶ岳に登るといふプランを立て、20人程で十五夜の日に連れ立って出かけた。残念ながら時間不足で、権兵衛峠はほんの入口しか歩けなかった。胡桃の多い道であちこちにたくさんの実が落ちていたりやぶをかき分け、美しい沢のほとりで拾い集めた胡桃を割ったりしてのんびり昼食を楽しんだ。

その夜は宿近くの羽広の丘でお月見コンサートがあったが、あいにくの曇り空で月のあるあたりがぼんやりと明るいただけである。雨になりませんようにと祈りながら眠りについた。

翌朝はどんよりと、今にも降り出しそうな空模様だった。早目の朝食をとり、

目の展望台の「望郷の丘」まで粗と山頂組の二班に分けた。

五合目までは急登もなくアカマツ林のなかを気分よく高度を上げてゆく。五合目を過ぎると、伊那谷と木曾駒ヶ岳が樹間にちらちらと見え、岩っぽい急登になる。私たちが早朝一番と思っていたが、六合目あたりでマウンテンバイクを担いでいるおじさんを抜いた。中年よりは高年という年代に思えたが、たいした体力

で敬服してしまう。所どころやぶが茂り、クモの巣に朝霧が光る。自転車を担いだおじさんを抜いたので、クモの巣払いの先行者がいなくなり、巣が顔に貼りついて痒くてたまらない。トップを代わってもらい、脇見、道草とサボリながら登る。こんな急登は遊びながらでなくては登ってられない。

ようやく1915分、4等三角点の七合目にたどり着いた。露岩の小広場は休憩にもってこいの場所だ。南に中央アルプスの展望が開けている。木曾駒ヶ岳と伊那前岳の間に宝剣岳が三日月を立てたように、オーバーハングの尖った頭を、少しかじけたおもしろい角度で見える。横向きの宝剣と言えばよいのだろうか。こういう角度から見たことがなかったのが印象深い。伊那前岳の稜線をかき取った所に空木岳の頭が申し訳のように覗いている。何度も登った中央アルプスの、まったく知らない形がとても新鮮だった。

七合目から樹林のなかをくだり、息をきらして望郷の丘に登り返す。2100分を超えた九合目は、「望郷の丘」などという観光地のような名前で呼ぶにはちょっ

望郷の丘より見下ろす伊那谷



7時に宿を出た。羽広の集落から権兵衛峠に続く道を右に折れ、仲仙寺の苔むした石橋の下をくぐる。杉林のなかの道は枝分かれが多く戸惑うが、とりあえず登り坂を選んで行くと間違いなく登山道になった。

きょうは人数が多いので、どうしても脚力に差が出る。帰宅時間を考えると少し忙しい登山になりそうだ。そこで八合

ときつい。眺望はすっかり諦めていたのに、高曇りの空は思いがけないほど遠望がきき、北の端から南の果てまで伊那谷の全景が広がる。

鋸岳から始まった南アルプスが、甲斐駒ヶ岳・仙丈岳・白峰三山・塩見岳・荒川三山・赤石岳・聖岳、その先は山座同定も不可能なほど、はるかかなたにのびている。真横を向いた中央アルプスはおもしろい形で連なり、北には八ヶ岳が見える。堂々とした御嶽山が迫る。伊那谷に育った人には、たしかにここは故郷のすべてを一望できる望郷の丘に違いない。草原の丘の真ん中に、「望郷」と刻まれた石柱が轟しく立っていた。

ササの道をわずかにくだり、御嶽山を道連れに九合目に向かう。露岩の急登を這うように登れば、岩の間にたった一輪、咲き遅れたマツムシソウが、紫も鮮やかに咲いていた。

九合目は樹林に囲まれた小広場でここも小さなコブである。七合目、八合目、九合目と小さなコブが連続している。足弱人は苦戦する所かもしれない。コースタイムではここから山頂まで40分とあり、あともう一仕事だなと、少し疲れた





岳山頂にて
登山道は、やぶのよ
うな樹林帯で
道はすっきり
しない。木々
の切れ目でふ

と顔を上げると、不意打ちのように槍・穂高がそびえていた。眼前におおいかぶさるような近さである。

穂高の山腰のひとつひとつが手にとるようによくつきりと見える。南アルプスと中央アルプスは向かい合わせで近く、北アルプスはやや離れていると、なんとなく思っていたが、ここから見ると、むしろ北に近い。まるでひと並びの山脈に見える。足元ばかり見て先を急ぐ人は、この槍・穂高に気づかなかったとか。なんと気の毒な。山はゆっくり登って、かかった手間ひま諸費用を目的の保養で回収しよう。

山頂まではたいしたアップダウンもなく、あっという間に着いた。あの40分の

コースタイムはなんだったのだろう。全行程中でここが一番楽だ。山頂はまったく展望のきかない少し陰気な広場だった。経文を奉納したという小さな社が建っていた。ここで軽く昼食をとり、30分ほど休憩した。

下りは八合目組と合流しなければならぬ。寒いなかで待っているだろうと思うと、気が急ぐ。一気にくだると、伝令が一人残っていて、他の人は寒いから下山したと言う。望郷の丘はたしかに風通しがよすぎる。

七合目で待っているかと思ったがここにもいない。どこまで行ったのだろう。はやく合流したい。一足先に行こうと急ぐと、後ろもピッチをあげてついてくる。困ったな、あまり急ぐと後ろが心配、前も心配。五合目のゆるやかな林のなかで休憩しているだろうと予測したが、ここにもいない。これは麓まで先行するつもりか。

ここまでくれば道も心配ないし、さらに急ぎ四合目を過ぎたあたりで、ようやく後ろ姿が見えた。林のなかをちらちらとんだか一生懸命歩いている。「ジュンちゃん」と声をかけると「キャー」

と悲鳴が上がリ、いきなり走り出す。一瞬あつけにとられたが、「おのれ逃げるつもりか。そうはさせへんてえ」と、私もピッチを上げる。先頭を行くジュンちゃん「もうだめ、追いつかれた」と、ようやく諦めた。

以前、藤原岳で30分ほど後から下山した私に追い抜かれ、ショックを受けたことがあったという。今回は絶対先に下山して、涼しい顔で待っているつもりだったそう。

いつも屈託なく、笑っているように見えるのに、こんなに勝気な一面があったのかと改めて顔を見た。このくらい根性がなければ、山登りなどできないのかもしれない。

ともかく終わりよければすべてよし。おかげで下山が早まり、温泉でゆっくと汗を流すことができた。

(平成14年9月21日 22日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 羽広仲仙寺(1時間30分) 五合目(1時間)
- 七合目(40分) 八合目(50分) 経ヶ岳(2時間30分) 羽広仲仙寺
- △地形図V2万5千II伊那・宮ノ越

北東尾根登行

摺鉢山

5月24日は曇り空で、降水確率は午前0%・午後10%だった。1週間前の5月16日から18日の金・土・日曜日は、福岡へ出張した。3日間雷詰に近い状態だったので、鬱積した気分を発散させたい衝動には勝てず、かねて計画していた摺鉢山への単独行となった。

出町柳発7時45分の朽木村行き京都バスに飛び乗り、定刻の8時45分坊村に到着した。

明王谷の林道を歩きながら、遠くに霞んで聳立する摺鉢山を目の当たりにして、本日の予定を改めて練り直した。摺鉢山は堂満東稜道とは逆に、頂上近くはなだらかで、裾野の方が急斜面となっていて、

小山誠次

比良

摺鉢の名も頷ける。実際、先の明王谷からの遠景でも、頂上近くまで登れば後は突だろなという判断があった。

摺鉢山の登行記録は、筆者が目にした限りでは、本誌47号の秦康夫氏の「鳥谷山から鞍部を経て摺鉢山に登り返し、後は北北西尾根をくだる」ルートと、もう一つは本誌57号の松田敏男氏の「牛コバから奥の深谷道を経て、西北西尾根(松田氏は北西尾根と称す)を登る」ルートがあるくらいである。しかし、摺鉢山の北面尾根は、先の北北西尾根と西北西尾根のほかに、北東尾根が存在する。昭文社の地図ではややわかりにくいのが、山と溪谷社の地図では明白に前記の三尾根が記

明王谷からの摺鉢山の遠景

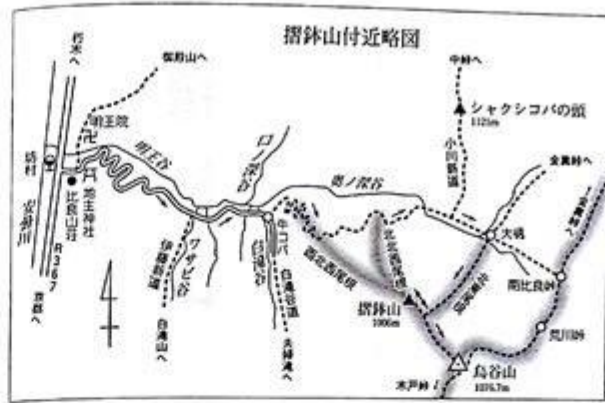


載されている。そこで本日は、鬱積したストレスを思い切り発散させたい意図もあり、摺鉢山北東尾根登山を敢行することにした。ただし、登行するか下行するかはまだ決めていない。

牛コバに到着後、身仕度を整えて9時45分出発した。摺鉢山裾野のジグザグ道をたどる。奥の深谷がはるか左下方に遠ざかり、まず松田氏の登行ルートの取付口かと思われる地点に達した。不確かな高度計は720位を指している。そこからじゅっくりとルートを観察すると、

20m位上方の木にピンク色のテープを見つけた。このルート確認は間違いないだろう。後で、改めて地図を見ると、ジグザグ道自体が西北西尾根の延長上に設けられていることがよくわかった。

そこから約10分奥の深谷道をたどり、今度は秦氏の下行ルートかと思われる地



点を通過した。上方を見上げて特にテープ類は目につかなかった。確定にはいたらないが、この付近だろうと判断できた。

ここからは摺鉢山北面の裾野を高捲く細道がずっと続く。わずかな高低差によるアップダウンの道に注意深く進みながら、本流の奥の深谷に流れ込む小さな支谷の源頭を何箇所も横切る。いずれは将来、木戸峠からクロトノハゲに到るキタダカ谷道のように、木製の小橋を設置する必要はあるだろう。そうこうするうちに、左の奥の深谷の水音が益々近くなり、ついに谷に出合い、立派な木橋を対岸に渡った。

この間、今まで通行して来たトラバース道に対して、直上の摺鉢山裾野の形状を絶えず観察してきたが、先の二地点のように、なだらかにトラバース道に到る斜面はむしろ例外で、たいていは切り立った、あるいは急峻な崖状である。

この観察は、本日予定の摺鉢山北東尾根を登行するか下行するかを決定づけた。もし下行すれば、奥の深谷道に到達するための最後の一步が危険性を帯びるだろう。

先程の立派な木橋を渡ってそのまま奥の深谷の右岸沿いの道を進み、小川新道への分岐点を通り過ぎて大橋に到った。途中、釣り糸を垂れている人を見かけた。

大橋で再び奥の深谷源流の左岸に渡り、まずスリバチの水をありがたく頂戴し、咽を潤した。さあ、いよいよである。取付点はスリバチの水のすぐ東側で、もちろん道などあるはずもなく、北東尾根の上方をそれとなく確認する。といっても、先の松田氏の登行ルートの取付点から大橋までは、標高差30〜40m位しかなく、ここから頂上までは250m位の標高差のはずである。すなわち、道なき急斜面を250m登行すれば、本日のハッピーエンドとなる。

身仕度を整えていると、オバさん3人組が大橋を渡って来て、お喋りしながらスリバチの水を飲み始めた。筆者は第一歩を登り始め、オバさんたちを右眼下に見て、わずかずつ高度を稼ぐ。もちろん最初からやぶ漕ぎであるが、それほど登りにくいやぶでもなかった。ようやく20〜30m程登った所で下を見ると、先のオバさんたちは咽が潤ったのか、さらに冗舌になった様子である。こちらはそのまま



北東尾根からのシャクシコバの頭

ま急斜面をさらに登り続ける。切株と木を支えに両手をフル活用しながら50m程登った。下を見ると、まだオバさんたちがある。今度は地図を広げているようなので、これから先のコースを話し合っているのだろう。登行は相変わらずさほど困難もなく順調に進んでいる。100m位登った所から振り返ると、もうオバさんたちは見えず、その代りに、眼前にシャクシコバの頭が屹立している。武奈ヶ岳やコヤマノ岳は、山の陰に隠れてまだ視界に入っていない。シャクシコバの頭をこの角度で遠望できるのは、摺鉢山北東

尾根のこのコースからだけであろう。なかなか見事な景観である。

さて、登行はさらに続くが、今までの急斜面はやぶ漕ぎとはいっても、下草はあまりなかった。ただ、尾根筋を外さないようにだけ注意していればよかったが、突然シャクナゲの群生地帯に突入した。鳥谷山から摺鉢山に向けての下行時も、このシャクナゲの群生地帯だけが横にのびた枝が足に絡んで歩きづらい。といっても、歩きづらい距離はさほど長くはなかった。

一方、このあたりに来ると、右手上方に摺鉢山山頂が明瞭に視界に入り、何よりの安心材料である。登頂は近い。

まもなく今までの自然林から杉の植林地帯に踏み入るにつれて、明王谷から遠望したなだらかな頂上に近づきつつあると実感した。このまま植林地帯の鬱蒼とした暗がりのなかを通過し、行く手正面を見据えると、再び自然林の疎林帯が広がっている。と同時に見覚えのある鳥谷山から摺鉢山への主尾根を確認した。やれやれである。

登り着いた所は鞍部よりやや東側で、標高1020m位の地点である。そのま

まコースを右にとって鞍部を過ぎ、摺鉢山に登り返して073の石柱にタッチした。時計は12時15分を指している。

ここで、ゆっくりして昼食を済ませた。残念ながら急いで昼食を済まし、そそくさと鳥谷山に向かった。

鳥谷山から縦走路を南下し、下山は木戸峠からキタダカ谷道を選んだ。満開のピンク色のタニウツギを一年振りに楽しみつ、J.R.志賀駅に16時10分無事到着した。満足した摺鉢山北東尾根登行であった。

(平成15年5月24日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 坊村(1時間)牛コバ(40分) 西北西尾根出合(10分) 北北西尾根出合(40分)
 - 大橋・スリバチの水(55分) 鳥谷山から摺鉢山の主尾根(5分) 摺鉢山(3時間25分) J.R.志賀駅
- △地図▼
- 昭文社『比良山系』
 - 山と溪谷社『比良・北山東部』

みょうこう さん ひうち やま
妙高山と火打山

鷺見守康

上越

夜行現地着の山行で、早朝の食事・トイレ・洗面の場所を確保する場合、従来、麓付近の宿泊先に依頼していた。この方法なら比較的スムーズに話がつく。ところが、宿泊が山中の山小屋となると別に確保しなければならず、その手配は災のころなかなか大変である。

早朝の5時や6時に朝食を引き受けてくれる食堂などきわめて少なく、宿泊施設でも泊まりなしに朝食だけを引き受けるところも稀である。たまにあっても、5時や6時という時刻を希望すればけんもほろろに断られることとなる。こうした情報はほとんど皆無である。旅行者や観光協会に問い合わせても、

依頼内容の奇抜さ(？)にびっくりされるのがオチである。山に登る人間が普通の朝食にこだわってはいけず、登山口でそくさと握り飯かパンでも口にできれば十分、という意見もある。それはその通りだ、と思いつながら、一方で私には「心豊かな山旅」への憧れが強く、そのためしつこく探すことになる。

どうやって探すのか。特別な方法などあるはずがない。宿泊施設を一軒一軒当たるのが基本だ。いわばローラー作戦である。ローラー作戦となれば人手がいる。だから、最近では、地元ハイキングクラブのメンバーにも手伝ってもらっている。



妙高山・火打山付近略図

し早過ぎたのだが、私一人「偵察」にとバスを降りた。いくつものホテルや旅館を通り過ぎ、びっくりするほどの急坂を登ると「ホテルあさひや」があった。周囲のホテルや旅館と比べるといささか古びた建物だが、だからこそ、無理な注文も受けてくれたのだらう。玄関で声をかけると人の良さそうな高齢の女将が顔を寄せ、「どうぞお上がってください」と言ってくれた。

食事は広間だった。新ハイのメンバーは総じてせっかちだから、坐るが早いか、すぐ箸をもつ。まだ、卓に並べるべき品が整っていないのに食事が始まってしまい、女将は焼き上がったシシヤモの盆を手におろすと困惑しているの、見兼ねた女性メンバーが手伝

いはじめた。食後、トイレ・洗面を済ませ、身仕度をして6時30分出発。

空は晴れ上がり、大倉谷の川に沿って歩き、北地獄谷の吊り橋を渡る。樹林のなかをジグザグに登って麻平の分岐だ。左は燕登山道で右が燕新道である。右の燕新道に入ると道は少しゆるやかとなり、やがて大倉沢に降り立つ。沢を渡り、急登をこなし、山腹の捲き道を左に廻り込んで黄金清水に出た。

ここでティータイムとする。空は相変わらず青々として、南には妙高がそびえている。「まだまだ遠い！」と声が上が

る。25分ほど休憩して再び出発。大倉池を越えてダケカンバの林に入り、まもなくすると頭上が開き、外輪山と妙高山に挟まれた広い平地に出た。例年、雪解け後にはハクサンコザクラの群落が開花する長助池がある。長助池は小さな池塘が集まった湿原だ。今は枯れ草の風景だが、花の季節には天国のような空間になるのだろう。

妙高や外輪山の中腹はダケカンバの純林だ。このダケカンバを背景にした湿原

黄金清水付近から望む妙高山 (長尾一令氏撮影)



今回、妙高山登山口にあたる燕温泉などの観光協会には、早朝の食事を引き受けてくれる宿泊施設の情報など当然なかった。けれど、「どの宿も登山者には慣れているはず」という情報だけはもらった。その情報を頼りに、ローラー作戦に出た。幸運だったのは、一番最初に電話した旅館が即座に快諾してくれたことである。

がいかにいい雰囲気を感じ出している
ので、自然にカメラタイムとなった。

登山道は湿原の東側を進み、沢状のガ
レを登ると、やがて黒沢池への分岐に出
た。ここからはなかなかの急登で、露岩
もゴロゴロしている。下りの登山者も多
くて、すれ違いに手間どる所もあった。

この岩のゴロゴロする急登で、私は落
石に襲われた。山頂から下山途中の登山
者が足を滑らせたはずみで、道の石を落
としてしまったのだ。人頭大の石が上か
ら降ってきたのは、悲鳴に似た叫び声に
顔を上げたと同時にだった。大きな石は、
左足の甲にあたってから向こう脛にぶつ
かった。出血は驚くほど早く、かつ大量
だった。あっという間にズボンに血潮に
染まった。

「すみません！」石を落とした登山者
が駆けつけ、私の足元に坐り込んだ。私
がザックから救急道具を取り出すより早
く、登山者はザックから消毒薬・ガーゼ・
包帯などを取り出し、必死で手当して
くれた。心配するわがパーティメンバー
の問いかけにも私はうつろで、なんだか
ぼんやりと登山者の行動を眺めていた。
「困った。歩けなくなったらどうしよ

う……」。

事故直後の緊張からか、不思議に痛み
は感じなかった。骨折の心配はないよう
だ。とりあえず、行ける所まで登るしか
ない。応急手当を終え、「すみません」
を連発する「加害者」に「もういいです
よ」と事をおさめた。

負傷した足がどうなるのかわからない
のだから、名刺くらいもらっておくべき
だった、という忠告もあった。正論だろ
うと思う。他のメンバーがこんな事故に
遭遇したのなら、リーダーとして私もそ
う要求しただろう。落石が私の所で止ま
り、ぶつかっただのが足だったのは不幸中
の幸いだった。

山頂には12時30分頃に到着した。途中
から私は右足にこむら返りが起こり、先
頭から脱落。すっかり意気消沈していた。
そんな有様を見かねてか、常連のY・O
さんが本格的に細かく手当をしてくれ
た。その様子は、まるで母親のようであっ
た。

妙高山頂での昼食休憩後、きょうの宿
泊先である高谷池ヒュッテ目指して出発。
まだ足の痛みはひどくない。きょうのと
ころは何とか普通に歩けそうなので、再

度先頭に立つ。

長助池との分岐を過ぎ、大倉乗越への
登りに入る。高度を上げるにつれ、眼下
の湿原と妙高山の景観がすばらしく、大
きな歓声が上がると、妙高山中腹のダケカ
ンバの純林はとくに見事で、白い幹とすっ
かり葉を落とした枝とがとつくる造形美に
は、目を奪われる。

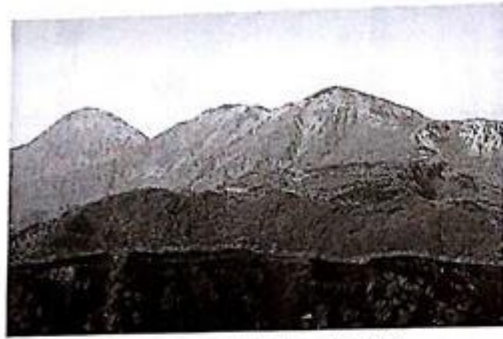
大倉乗越を越えるともまもなく、黒沢池
ヒュッテに出た。時計は15時30分を過ぎ
ているので、小屋泊まりの登山者であふ
れていた。高谷池ヒュッテは、さらにこ
れから茶臼山を越えて行かなければなら
ない。夜行疲れの身体にはなかなか敵し
ない行程である。

16時30分過ぎ、高谷池ヒュッテに到着
した。夜、負傷部分のガーゼ交換をした。
出血はほぼ無くなっているが、明日には
痛みがひどくなるかもしれない。

翌朝は雨だった。出発時間になって雨
脚は弱くなったものの、あたり一帯はガ
スでも見えない。Y・Oさんの手当て
のおかげで、心配した足の痛みはほとん
どない。きょうも先頭に立つこととし
た。

高谷池から火打山へのコースは、全体
にゆるやかな登りだ。高谷池に沿った木
道を行き、池の端で岩場を登り、少しく
だと「天狗の庭」と呼ばれる湿原に出
た。ガスのため限られた範囲しか見渡せ
ないものの、心の和む景色だ。なだらか
な広がり、冬期、山スキーの絶好のゲ
レンデになりそう。

木道が終わり、火打山の尾根に取りつ



火打山(右)と焼山(長尾一令氏撮影)

いた。このあたりからハイマツを見る。
標高は低くても風雪の厳しさで高山帯の
様相なのだ。

広い尾根を登り「雷鳥広場」と呼ばれ
る平坦地を過ぎると、丸木の階段を登っ
て火打山頂に到着。ガスでほとんど何も
見えない。

「佐渡ヶ島が見たい」と楽しみにして
いたメンバーもいたのに、残念至極。寒
さもあって、山頂には20分ほど滞在し、
引き上げた。

高谷池ヒュッテに戻る頃には青空がの
ぞいた。9時45分に高谷池ヒュッテを離
れ、下山を開始した。今朝の降雨でか、
道はぬかるみがひどくて足元に神経を遣
い、黒沢池との分岐の富士見平も気がつ
かないまま通過した。十二曲がりのつづ
ら折の急坂をくだると、黒沢に出た。水
場でひと息つく。

亜高山帯針葉林を抜けて、黒沢あたり
からブナ林に入ったようだ。笹ヶ峰は第
一級の日本海側ブナ林だった。おりしも
紅葉の最盛期で、ブナの葉は黄金色に燃
えている。ノールな白い幹をすらりと
空にのぼし、輝くような黄金に身を包ん
だブナはほんとうに美しい。そんなブナ

たちがどこまでも続いていた。

12時30分頃、笹ヶ峰の大駐車場に降り
立った。バスの窓から眺める笹ヶ峰の紅
葉もまた見事であった。妙高山麓の高原
である笹ヶ峰には、いつかぜひ再訪した
いものだと思った。

(平成14年10月12日〜14日歩く)

▲参考タイム▼

(12日 晴れ) 岐阜駅(バス)
(13日 晴れ) (バス) 燕温泉5・15
(朝食) 6・30―麻平7・10―大倉沢7・
50―黄金清水9・00―25―長助池10・10
―25―分岐10・50―妙高山12・25(朝食)
13・30―分岐14・20―乗越15・20―黒沢
池ヒュッテ15・30―茶臼山16・15―高谷
池ヒュッテ16・40(泊)

(14日 雨のち晴れ) 高谷池ヒュッテ6・
30―天狗ノ庭6・50―ライチョウ平7・
30―火打山8・00―20―高谷池ヒュッテ
9・30―45―分岐10・25―黒沢11・40―
笹ヶ峰12・25―35(バス) 杉野沢温泉13・
10(浴食) 14・10(バス) 岐阜駅19・40
(解散)

△地図▽昭文社「妙高・戸隠」

癒しの心が身にしみる民宿山行

氷ノ山・鉢伏山

田中明

但馬

地元主催の氷ノ山・鉢伏山登山大会の混雑を避けた私たちの例会の日は、あいにくの今にも泣き出しそうな空模様となっていました。

目指す山域は、昭和44年指定の「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」で、氷ノ山を盟主に鉢伏山・蘇武岳・神鍋山・妙見山・扇ノ山・後山・日名倉山などが東西南北にそびえている。

日本海に面しているので、冬は積雪に恵まれ、関西を代表するスキーのメッカでもある。

主峰の氷ノ山は1510mで、中国地方では大山(1729m)に次ぐ高峰である。ガイドブックによると、山と森と

高原と溪谷が魅力的であり、登山の対象としてだけでなく、キャンプ・スキー・釣り・ドライブなどさまざまなレクリエーションスポットとして注目を集めているという。登山とスキの高原散歩と欲張りコースを考え、民宿泊まりの山行を計画した。

あまたある民宿は福定・大久保・奈良尾など、いずれも登山口に近く場所は選ばない。関宮町観光協会に電話してみた。すると「氷ノ山に登るならこの民宿が一番です」と間髪をいれず答えが返ってきた。「山好きのご主人ですよ、いろんな話を聞いてすてきな山旅をお楽しみください」と「喜楽屋」を紹介してくれた。

入ってきた。

この主人がまた親切いっぱい、山の話が続きかけたが、「さっそく氷ノ山登山口まで送ります」と手際よく車で案内してくれた。

「親水公園」と立派な石碑が建てられている登山口からスタートである。「雨模様が悪かったですね、山道に気をつけて無事に下山してください。東尾根避難小屋あたりから電話をくれましたら、下山口でお待ちしております」となんと嬉しい見送りだ。氷ノ山の自然の帯人ともいわれた神戸の登山家多田繁次氏をたたえる「多田ケルン」にタッチした後、

八木川沿いから林のなかの遊歩道を進む。すぐに高さ65mもあるという布滝に到着した。

私は、このすばらしい瀑布と峡谷の錦秋を映す流れもさることながら、民宿のご夫婦のやさしさともてなしの心がうれしかった。滝見の小橋で動くことが惜しい気持ちで、あたりの清流を見るときもなにか眺めていた。

Uさんの「撮りましたヨ」との声で我にかえり、いよいよ急登にさしかかった。不動滝を遠望した後、一気に地蔵堂まで歩を進めた。

このお堂は、兵軍が生んだ、あの単独行で知られる加藤文太郎が泊まったというところで有名だと、山の本を思い出して同行の3人に話す。「そうそう、大正か昭和にかけて、単独ですごい早足で山歩きをした登山家があったが、アルプスの槍ヶ岳の冬山で若くして亡くなった人



鉢伏山から見る氷ノ山



この民宿へ着くなり奥さんが笑顔で出てくれた。車の旅による疲れを心配してか、「まだかまだか待っていたんですヨ、お疲れでしょう。サア上がってちょっと休んでください」と、前もって準備されていたコーヒーをいただいた。ひととき休憩しているところへ、「お客様が見える」と遠方の山行から早朝に帰ってきたという、ご主人が輪の中へ

やてナア」と登山歴の一番長いMさんが、さすがに山のことなら俺にまかせると言わんばかりに説明を続けた。

私はこの「単独行加藤文太郎」とは同郷の但馬(兵庫県淡路町)出身でもあるため、山岳小説の中でもひいきにしている人物である。また高校の先輩でもあった「冒険家植村直巳」(兵庫県日高町)と共に、但馬出身の誇れる岳人として2人の話が多くの人たちの間で語られることは最上の喜びでもある。

ぼつぼつブナ林が現れてきたが、黄葉にはまだ少し早い。「弘法の水」を過ぎ、その次の水飲場でおいしさを確認し、ひと息で立派な避難小屋の建つ氷ノ山越の峰に到着した。

この氷ノ山越は伝説によると、弘法大師が因幡から但馬へこの峠を越えたときに、お布施のヒエが多すぎて持ち帰れなくなってしまう、この山へ捨てたので「ヒエノヤマ」となり「氷ノ山」となったといわれている。

また地形図5万分の1では最高峰が須賀ノ山、この峰の北にある1332峰を氷ノ山と表記しており、2万5千分の1でようやく最高峰を氷ノ山、1332

好峰を赤倉山としている。この「須賀」というのは美しい山という意で、須賀ノ山の山名が生まれたともガイドブックで案内している。

この水ノ山越は昔より交通の要衝であったのかと感慨深くあたりを見渡した。春米から登ってきたという20〜30名の小学生の賑やかな声に、ゆっくりと感傷に浸れる気分ではなかった。

小雨のなか、大休止したのか急に寒さを覚え、急いで避難小屋に入って昼食にした。またまただれかれともなく、民宿喜楽屋のご夫婦2人の心穏やかな振る舞いを話題にした。

水ノ山越を左にとって広い尾根道を行く。この時期残念ながら花らしきものは出会えない。しかし、なぜか気分は春の花山行と変わらないほどにルンルンの自分に気がついた。同行の友に「きょうは花もないのになんでこんな気持ちのいい山歩きやろか、これは温かい人の心にあふれたからやろナア」と思わず口に出したが、前後して「やっぱり俺も同じやねん」の言葉が重なった。

ブナ林を過ぎたあたりで先行した小学生たちを追い越し、コシキ岩を捲いて1

等三角点の水ノ山を踏んだ。

赤い三角屋根の避難小屋の扉を開けると満員状態で早々に退散し、ガスって展望ゼロのなか、古生沼へ向かうことにした。

この沼は高地湿原植物群落で兵庫県指定天然記念物との看板があるものの、この季節、植物たちはすでに冬枯れの様子で一面荒地の広場と化していた。

古千本・千本杉などの原生林を過ぎると神大ヒュッテ広場に到着した。6月の頃にはこの水場はとうとうと流れていたが、今は比べものにならないほどに弱々しい。きょうは4人とも水分の補給はしなかった。

休憩後、東尾根コースを快調にくだった。5月頃の満開時には必ず米ようとうと決めているドウダンツツジの群生地を通過し、東尾根避難小屋のベンチに着き、約束どおり喜楽屋に電話を入れる。「4人さん皆さん無事です、よかったです！主人にすぐ向かわせませうから」と気持ちのよい奥さんの声が耳元に届いた。

水ノ山国際スキー場で出迎えてくれた主人に教えられ、奈良尾キャンプ場の水道水で靴を洗った。親水公園まで車で走

り、4人は記念写真におさまった。福定バス停前の民宿「喜楽屋」へ戻ったのは16時前であった。

夕食は素朴な鍋料理に山菜などの料理がテーブルに所狭しと並び、賑やかな時間がやってきた。食事時に西宮・吹田から来たという2人ずつの合計8人が意気投合して、山の話がはずんだ。聞けばこの女性2人組は共に「昨年に続いて今年も来たんですヨ」と言う。「やっぱり、こんなすばらしい民宿と水ノ山だからネ」と、心が一つになったような感じがして、つい嬉しくなってしまう。

酔いもまわった頃、大型画面で花の百名山「礼文・利尻島」のビデオを観ながら、みんなで声を出し、花合わせの始まりである。レブンアツモリソウ・レブンウスユキソウ・レブンシオガマ・レブンキンバイソウ・レブンコザクラとなんとレブンと冠した高山植物がほとんど登場して来る。

続いてよく見慣れたクロユリ・ハクサンチドリ・ミヤマオダマキ・イワベンケイと、おもに5〜6月に出会える花たちによるファッショショウのような雰囲気、観客8人の顔はどれもこれ以上な

いほころんだ顔・顔である。

それぞれが思い思いにひいきの花に歓声をあげ拍手を送り、まるで子どもの学芸会みたいにキキキや賑やかな夜のひとときとなった。民宿のご夫婦はさりげなく、それぞれのなすがままに遠慮がちに気配りを忘れないでいてくれる。

2日目は鉢伏山の高原散策である。登山口まで主人からコースをていねいに案内していただき、錦秋のススキの原にいつも簡単に立つことができた。

道中にはウメバチソウ(ユキノシタ科)・リンドウ(同科)・ツリガネニンジン(キキョウ科)やキク科のアキノキリンソウ・シラヤマギク・ノコンギク・ヤマジノギク・ゴマナにカニコウモリたちが、冷たい風に吹かれながらも、けなげに咲いていた。

鉢伏山頂上手前では寒冷前線通過による横殴りの雪しぐれに遭うなど、この2日間は天候には恵まれなかったが、心の温まる和みの時を過ごすことができ、今年最高の山行となった。

帰路は道の駅「但馬楽座」の養父温泉に入った。湯が肌に心地よく、山の汗を

私達におまかせ下さい。待っています！

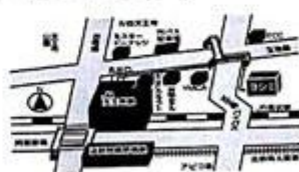


詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

とスキーのヨシメ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

流してリラックスタイム。

できれば毎年でも喜楽屋さんに泊まり、心地よい運動・おいしい空気・豊かな人情、そして素朴な料理を味わい、魅力の尽きない水ノ山を訪ねようかと思つた。(平成14年10月26日〜27日歩く)

▲参考タイム▼

〈1日目〉JR京都駅八条口7:00(車) 民宿喜楽屋9:50〜10:10(車) 親水公園10:15 地藏堂11:00 水ノ山越11:50〜12:30 水ノ山13:20〜35 神大ヒュッテ14:00〜10 東尾根避難小屋14:45〜55 国際スキー場下山口15:10〜15(車) 喜楽屋15:40

〈2日目〉登山口7:40〜10:19 鉢伏山8:15〜25 鉢伏山9:30〜50 下山口鉢伏第一駐車場11:20 喜楽屋11:25 (昼食) 11:55(車) 養父温泉12:30 (入浴) 13:20(車) 京都駅15:50
△地図▽昭文社「水ノ山」
△問い合わせ先▼

* 民宿喜楽屋 1泊2食6500円

☎0796(667)7207

* 養父温泉 入浴料600円

☎079(664)1000

新ハイ関西72号			
標高△△72mの山			
横	無	大	三
岳	名	門	池
(2472m・北八ヶ岳)	峰	山	岳
(1272m・飛騨)	(1572m・白山山系)	(972m・鈴鹿)	

横岳

私の最初の冬山、それは29歳のときの北八ヶ岳だった。学生時代に山岳部に所属していなかったし、そしてまだ社会人の山岳会に入る前だったから、夏山のアルプスや残雪期の山は何度か経験済みだったものの、冬山というものはまったく知らなかった。それゆえこの山行はとて新鮮だった。

真白の樹木の別世界のような美しさに出会えたことや、朝の坪庭に獣たちの足跡が克明に残り、その凹みが青くて、それはそれは美しかったこと、夕日に染ま

る南八ヶ岳の紅色と手前の樹々の長い蒼い影など、とてもロマンチックだった。横岳山荘では、雪を溶かして水をつくることすら知らなくて、どうして水をとるのかを、隣の登山客に尋ねてしまったことなど、本当に懐かしい思い出深い山だ。

- 山頂は360度の大展望で、絵を描く紙が微動だにしないほどの無風だった。(昭和54年1月6日歩く)
- △コースタイム▽
- 横岳山荘(1時間30分)横岳(1時間)横岳山荘
- △地図▽昭文社「八ヶ岳・蓼科」

無名峰

山の会の大山さんと荏川村のおサンババを目標した。この変わった名前前の山は、鷲ヶ岳、鳥帽子岳と共に、1600m台の山々の山塊のひとつで一度は登ってみたい山だった。登山口と予定している地点の近くには池があって、ミズバショウ群生地と地形図に記載がある。その見頃かも知れないということもあり、6月2日に行ってみた。まだ山には雪も残り、地形図を見る限りゆるい斜面なので簡単に登れると思っていた。ところが実際は、夏が足早やに近づいていたのである。緩斜面に雪がないと、道のない山は反対に厄介な山になる。

2時間程登った標高1550m付近にて、地形が複雑なため撤退した。やや見頃を過ぎたミズバショウを見ながら、このまま帰るのはもったいないと意見が一致し、車道を少し登った所の山中峠から峠の東南方向にある三角点を目指そうということになった。これはどちらかといえば私の希望だったが……。



ミズバショウ群生地

ぶをかき分けた。山の会に入って、大山さんからやぶ漕ぎの楽しさを伝授されてから、私はこの世界が好きになった。何

といっても動物的な動と、地形図を読むという知恵の行為と、自然の一員になっている充足感などで、全身が喜んでい

- ひときが過こせる。
- 太い幹のブナが現れると下草もまばらになって歩きやすくなり、山頂の三角点に着いた。(平成8年6月2日歩く)
- △コースタイム▽
- 山中峠(1時間30分)無名峰(1時間15分)山中峠
- △地形図▽2万5千||飛騨大原

大門山

この山行も大山さんがリーダーで、3人で行った。目的の山は大笠山で、ブナオ峠より往復してその日に帰るとい

う強行日程のなか、ついでに大門山にも立ち寄ったというものだった。赤摩木古山の山頂手前で主稜線から西にはずれた所に大門山はあるが、その赤摩木古山との分岐までの登りがすばらしかった。前日の雨が上がり、ブナの純林のなかの急な登りは実に清々しかった。樹林が切れた所からは、北アルプスの連峰がはっきりと確認でき、雄大な景色

三池岳

に出会えた喜びは今でも新鮮によみがえる。(平成2年9月16日歩く)

- △コースタイム▽
- ブナオ峠(2時間)大門山(1時間30分)ブナオ峠
- △地形図▽2万5千||西赤尾

鈴鹿山地は石樽峠を境に南北に分かれる感があるが、その南部の最初の高みが三池岳である。車道を通じるまでは、その八風街道が三池岳のすぐ南の八風峠へ通じていた。しかし、今は人通りの少ない登山道となっている。それへの分岐の八風谷橋に車を置いて、山の会4人のメンバーで登った。山頂直下のお菊池も目的のひとつだったが、茶色に淀んだ小さな池だった。峠から山頂までの短い主稜線からは伊勢湾方面が望め、高度感のある快道な所だった。

- (平成10年11月8日歩く)
- △コースタイム▽
- 八風谷橋(3時間)三池岳(3時間30分)中峠経由、八風谷橋
- △地図▽昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

安徳帝の二つの小島

鹿児島

多摩 雪雄

*ひらやま旅館

099(222) 4489

竹島

2日目、平成14年10月1日(火)、無風・

快晴。旅館からのんびり歩いて20分、南
埠頭十島村と反対側の三島村への待合所
兼乗船手続き棟は着岸波止場前のきれいな
建物である。

1年前の新造船はすばらしいがレスト
ランはなく、小広い休憩室に自販機があ
り、マルちゃんそば類と給湯設備、及び
クッキー、ドリンク類がある。

遅い出港で2時間後の13時50分、竹島
港に着岸。建設会社に交渉してジャンボ



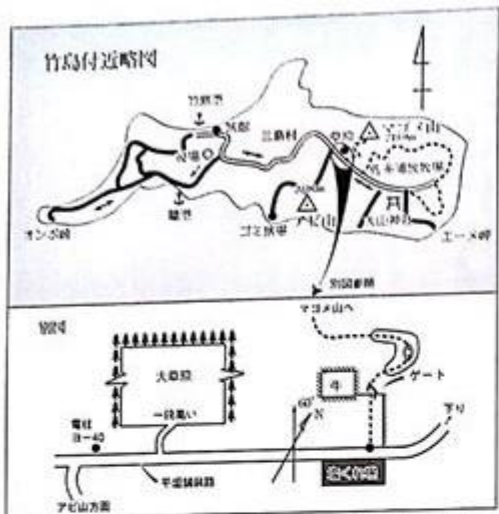
ワゴン車を借り、二往復して取付点を
発したのは15時ちょうどであった。
一回目に降ろされた大草原で奥の樹林
に突っ込む若者を制止するが聞こえな
い。

私は付近を探索して正規ルート(別図
参照)を確認し、一行を導く。

一段上がるると判然とした道はあるが、
密生する琉球竹のなかを徐々に登ってい

く。

20分後に有刺鉄線に行く手を阻まれた
が、やっと抜け出すと左手はやや急峻な
浅い窪状となり、その左岸にしっかりと
た小道がここまで登ってきている。その
窪の右岸(向こう側)にも有刺鉄線があっ
てくれない。左手にくだって探査する
者もいるが、私は右手上方へ草むらに分
けて登り、有刺鉄線の支柱が抜けてゆる
んでいる箇所を発見した。



皆呼び集めてくぐらせると、果して、
その先は大名竹密生のなかにわずかなが
らルートがある。ここで約20分のロス。
稜線の古い竹の伐り口に注意しながら
60〜70度方向へゆっくり登っていく。

樹木に白ベンキが現れて左折し、10〜
20度方へ向かうと「小野田」の石杭を見
る。そこからわずか登ると16時20分、最
高地点・マゴメ山(点名・竹島・GPSに
より平成12年7月21日更新) 1等三角点
(219・90m)に着いた。樹

木と竹に囲まれて何も見えない。
18°の標石の磁北は290度。
暇なし。無風、高層雲3だけ
の晴れ、22度C、少々暑い。

頂上を17時00分出発。今登っ
てきたルートを戻り、有刺鉄線
も通過し、17時35分、入口の舗
装道路に出ると、ちょうど牛を
迎えに来たダットラの人が「送っ
てあげる」というので、好意に
あまえて10分足らずで全員宿に
着いた。

竹島の「いいい旅館」は学校
入口の隣で、看板も案内板もな
いだけの平屋である。

この宿には車がなく、クーラーもなく
て扇風機のみ。浴衣もタオルも歯磨きセッ
トもない。われわれが給湯した浴室は二
ヶ所あり、和式トイレ二ヶ、洋式はない。
頼んでも昼食は出さない。

3日目、きょうは一点の曇もない快晴
で暖かい。8時30分宿発。役場支所上
(南)の十字路から墓記号の実線路を南
西にくだって龍港を見下ろす断崖上に立
つと、狭いコンクリート階段が竹を分け
てある。垂直に400段もくだると風待
ち港であり、海水浴場ともなっている。

なおも20分で西端の雲母崎公園駐車場
に着く。ここから階段の登り10分で頂上。
鉄骨造りの展望台があり、真正面に大き
な硫黄島が薄い白い噴煙を昇げている。
No.109042金属標の4等三角点があ
る。

登って来たルートをくだり、10分で炊
事棟・トイレ棟のある草地のキャンプ場
の駐車場に出た。

ここはオンボ崎。眺めも景観もよいの
で30分も休憩。その後、上部集落墓記号
から東に向かう。佐多浦放牧場には島の
人口を上回る100頭余の牛が放し飼い
されており、この・108m地点から



楢岳（点名黒島1等三角点）にて



たという。その墓が竹林のなかにある。灯台の先にあるN.T.T.の電波塔の突端は、大里全村と港の展望台である。走行中、たびたびイタチを見る。明治初期、増えすぎたネズミ退治のために導入したのだが、現在ネズミはいなくなつたものの、イタチが増え困っているという。沖縄のハブ退治にマンガースを放したが、大した効果目がなく、現在マンガースが増えて畑を荒されて困っている。これと似たような話である。

黒島は蒼茫たる大地のいたる所に清水が湧き出る森林の島で、周囲15・2km、面積15・37平方、人口259人。
* 谷口旅館 09913(3) 2258
△地形図V2万5千ニ薩摩黒島

黒島
15時55分、黒島大里港に着岸。歩いて25分の旅館「谷口」は六室と大部屋の食堂、および二階に二室。クーラーがあり、畳は新しく、浴衣あり。浴室二ヶ所。雨磨きセットなし。

△地形図V2万5千ニ薩摩竹島

南の大山神社へは琉球竹のなかの小道を登っていく。人里離れた辺鄙な場所にまつられているのは、ここには以前、小集落があったからであろう。
東端のエーメ御から実線道をぐるりと一巡してから、アビ山に向かう舗装路に入る。
南に断崖を連ねる突端はゴミ捨て場で、立派な墓石が一基あるが、刻字が掠れだれの墓なのかわからない。
宿に戻って昼食後、付近を歩き廻ってみる。文化財六地蔵・ガジュマルの門・聖大明神社の向かい獅子等を拝し、14時に竹島港を出航する。

竹島は全山琉球竹（太いのは大名竹という）におおわれ、周囲9・7km、面積4・20平方、人口91人（平成13年現在）。
* いこい旅館 09913(2) 2003

乗用車を運転してくれた近所の主人の案内で、いきなり岩石や砕石ゴロゴロの擬木段を登る。沢の左岸道はツワブキの黄花がびっしりと咲き、15分程登ったベンチで5分休む。すぐ上が一段下方の稜線で、右の横岳山（590m）へ判然とした道が分かれている。
われわれは正面にくだつて沢を渡り、左の小さい稜をゆくり登る。
歩きやすくなるとテープや黄杭が頻りに現れる。ゴロツキを渡ると登りがきつくなるが、わりと歩きやすい。

登山口から30分、主峰に出た所の黄杭はNo.28。ここは右へ曲がって5分、島の最高点楢岳（点名黒島・平成11年7月25日更新）1等三角点（621・86m）に着いた。18°の黒石の磁北は10度、瑕疵な

手伝の娘が遅れて港に出迎えに来たが、開け放しの家にはだれもいない。のんきバアさんが、やっと現れて広間で一服。浴槽にはわれわれが湯を入れる。
4日目。無風、晴れ。乗用車と軽トラックを借りて7時50分出発。わずか20分で中里川堰堤の登山口に着く。ここは垂直な断崖下の小平地で3〜4台は駐車できる。

右の海辺道に分かれること5分、片泊港の見える突端に巨大な白衣観音立像がある。海に向いているので、正面像の撮影はできないが、海難者供養の観音である。
岩の観音である。
岩の観音である。
岩の観音である。

南廻りの周回道を進んで、右の海辺道に分かれること5分、片泊港の見える突端に巨大な白衣観音立像がある。海に向いているので、正面像の撮影はできないが、海難者供養の観音である。
岩の観音である。
岩の観音である。
岩の観音である。

低木少々あれど見晴らし良好。長いこと休んでくだり、登山口に着いたのは30分後の10時ちょうど。
二台の車を出してわれわれを案内してくれた日高さんは、登山口下方が新道建設のため、ぐるりと廻って、中里集落から15分程で平家の城跡を見下ろす地点に来る。
平家一族が屋島で敗れてちりぢりに各地に逃れ、それぞれの地に根を下ろして現在にいたっているのは、それらの地を訪れてみれば実感が伴うものである。
この黒島北辺断崖下の平坦地に上陸した平家の一隊は、海岸線に逆茂木を連ねて追ってくる源氏の海族衆に備えた。100mもの垂直な断崖を欠き削った階段によって上部の集落に通じている。風化したその階段が現存しており、中里集落の一軒に逆茂木も残っていて平家の子孫であることがわかっていく。
なおも走行20分、片泊港は増立する断崖に囲まれた波おだやかな良港で、昔は風待ちのわずかな棧橋がある港であったが、現在は海中に張り出したコンクリートの広い波止場に妨げ杭が一行に並んでいる。この断崖は一見の価値がある。

『万葉集』歌枕紀行

小富士山から茅渟宮跡

泉州

木村 太郎

大阪府下の「ふるさと富士」には、河内長野市の旗尾岳と泉佐野市の小富士山の二山がある。天見富士と呼ばれている旗尾岳は、高野街道に沿う金剛山脈前衛の鋭峰として知られている。泉佐野市の小富士山は、他府県の小富士山との混同を避けるために、泉州小富士山と呼ばれている。

ゴールデンウィークが終わり立夏となった日に、大阪で生まれ暮らしてきた私は泉州小富士山へ登ってみようと思った。南大阪の玄関口になるJR天王寺駅の阪和線ホームを発ち、閑空快速と紀州路快速とに列車が切り離される日根野駅で下車、犬鳴山方面行きのバスに乗り換え

る。

日根野駅前のバス停にはツルニチソウの薄紫の小花が花壇からこぼれそうに咲き、初夏の気配を漂わせていた。南海泉佐野駅前から出たバスに乗り、地元で「水呑みさん」と慕われている粉河街道沿いの水呑地蔵に降り立つ。

水呑地蔵の駐車場の奥に、西国観音霊場めぐりへ誘う石仏の道があり、小富士山への登山口になっている。石仏の道のそばに、胡蝶の舞う姿から胡蝶花の別名がつくシャガが群生していた。霧雨に咲くシャガに雨傘の柄も悲しく見えると、宮沢賢治が短歌に詠んでいた寂しい白い花である。



小富士山の頂上

シャガが咲きてきりさめ降りて旅人はかうもりがさの柄をかなしめり
道のまわりを見渡している、一本のスズランの花を見つけた。「聖母の涙」とも「天国の階段」にもたとえられる小さな鈴型をした花は、信仰篤き女人をたたえ咲くのであろうか。
み裾野は雲低く垂れずらんの
白き花咲きはなち駒あり

姫神山裾野の外山牧場で詠まれた宮沢賢治の短歌である。歌がつくられた北上山地の高原一帯にはスズランが目立つ。寒冷地でもない泉州のこのような場所ですズランを見つけた愛しさに、私はデジカメのレンズを向けたのだった。

落葉の一つも落ちていない清められた石段を登り切り、だんじり吉兵衛の額がかかる鳥居を過ぎたあたりから山道に入る。木立につかまりながら急峻な坂を必

死に登り、露岩がむきだしのでは岩角を手掛かりにして登る。全山雑木林の葉しさを感ずる間もなく、見晴らしのいいピークに飛び出した。

景色よりも何よりも間近に小富士山本峰が見え、胸が弾んでくる。南西の方向へわずかにくだり、わずかに登り返すと小富士山(260m)の頂上に着いた。狭い山頂には高木はなく、三角点が薄紅色のモチツツジの低木に取り囲まれてい



小富士山・衣通姫墓付近略図

た。山といふよりは、丘のような盛り上がりにかすかな小富士山だった。山頂が、山頂からの眺望は満足いくものであった。北面に

広がる泉州平野の向こうに、その昔には茅渟の海と呼ばれていた大阪湾の青い海原が輝いている。真下には阪和自動車道、さらには空港連絡橋でつながる閑空の建造物が見える。右方向の遠方には六甲山脈の連なりや、明石海峡大橋まで見通せた。

現在の大阪湾の古称ともいふべき茅渟の海であるが、和泉国という泉州一帯の国名を指す「茅渟」の名は、「古事記」中巻の神武天皇の即位前記に初見されるものだ。

神倭伊波礼毘古命(神武天皇)と兄五瀬命が日向の國から大和の地へ東征した時代に、河内國で登美の地の支配者であった那賀須泥昆古と戦い、難波津へと軍勢を退き返した。曰く「吾は日神の御子と為て、日に向ひて戦ふこと良からず」と考え、改めて熊野から攻め入ろうと大阪湾を縦断した。

その時、五瀬命が手傷を受けた御手の血を洗われたので、大阪湾は「血沼」の海と呼ばれるようになったという。「古事記」に茅渟の地名起源を求めると、血なまぐささと呼び覚まされるが、一方『万葉集』を聞いて引き出すと、茅渟の

名は恋歌に詠まれており、ロマンチックな気分が盛り立てられる。

妹がため目を拾ふと千沼の海に
濡れにし袖は干せど乾かず

(巻七―一四四)

恋人のために貝殻を拾い集めることに夢中になり、衣服の袖がすぐに乾かないほど濡れたという歌意なのであろう。おそらく難波宮か難宮のあった茅渚宮への行幸に従って来た若者が、都に残してきた恋人を思いながら詠んだ歌と解釈できよう。

千沼の海の浜辺の小松根深めて

我恋ひ渡る人の児故に

(巻十一―二四八)

紀貫之「土佐日記」に「ゆけどなほゆきやられぬ」と書かれるほど、昔の泉州灘の岸辺の松原は延々と長く続いていた。その茅渚の海辺の名所松の木根に寄せて、恋心の深さを詠んだ歌である。

茅渚の海辺の松並木は、いまでは二色ノ浜近辺にわずかに残るだけで、昔日をしのばせるものは少ない。だが、かつて泉州路を歩き泉州沖を航海した、昔の旅人が万葉歌に伝えた風景は、写真以上にあざやかな景観で今によみがえるのだ。

古き時代の恋歌の背景となった茅渚の海に感動を覚えつつ、反対側の風景を振り返った。小富士山の南面には和泉山脈が屏風のように連なっている。左手奥の高みに小さく見える塔に似た建物は、和泉宮城山と大鳴山との間に立つ、ハイランドパーク粉河の展望台だろう。

特徴ある三つのコブを屹立させた三峰山、そして城ヶ峰・竜ヶ岳・殿尾山・お菊山と金熊寺への縦走線が中空に浮かび上がる。冬枯れの季節に神通温泉から三峰山へ登り、ササ峠への鎌尾根を通過してラッキーリングを稲倉池へくだったことがある。稲倉池の南岸から眺めた小富士山は、一幅の絵のように端麗な山容を見せていたが、眼下には、稲倉池が眩しく水を湛えている。

山頂からのパノラマを堪能したので、飛び回る蝶の群れに小富士山の後事を託し、南峰への稜線を伝ってコマツの茂るやせ地を急降下し、稲倉池の北端へくだった。大阪みどりの百選の稲倉池を離れて、稲倉谷に沿う雑木林の稲倉林道をろじ渓谷へ歩く。櫻井川にかかる橋を渡り、桜樹一千二百本を数える大阪みどりの百選

の大井関自然公園へ舗装路を進んだ。公園を抜けると和泉園五社の一に列する日根神社に出合う。仲哀帝御世の開創と伝わる古社である。隣接して天武帝御世に草創の慈眼院が建つが、国宝に指定された多宝塔と金堂をもつ古刹である。

きょうのもう一つの目的地的茅渚宮跡を目指す。東上のバス停を後に、母山を過ぎ上之郷への車道をたどる。上之郷小学校の曲がり角に道標を見つめる。お菊山へ登れる滝ノ池と、衣通姫墓のある方向を示している。

【日本書紀】によれば、允恭天皇は皇后の忍坂大中姫が出席で苦しんでいたときに、皇后の同母妹であった弟姫と一夜を過ごした恋の物語が載っている。世に衣通姫と噂された弟姫は、美しい肌の色が衣を通して照り輝くほどの美貌の女性であったといわれている。

允恭天皇と結ばれた衣通姫は、天皇の訪れを待つようになり愛の歌を詠んでいる。

我が天子が来べき宵なりささがねの

蜘蛛の行ひ今宵著しも

(日本書紀歌謡一六五)

ささらがた錦の紐を解き放けて

数多は寝ずにただ一夜のみ

(日本書紀歌謡一六六)

細紋形模様の錦の腰紐を解いて一夜でよいから一緒に過ごそうと、允恭天皇は衣通姫の歌に聴いて情熱的な歌を返している。賢明な女性であった衣通姫は、天皇の皇后に遠慮して宮都から離れ、和泉の地の茅渚宮に移り住んだという。

衣通姫に逢うために茅渚宮に行幸した



衣通姫墓

允恭天皇は、小富士山の麓一帯の日根野の原野で狩猟を行ったとも伝えられている。幾年かの時が過ぎ、皇后に諷められた允恭天皇は、茅渚宮を訪れるのも稀になる。都から遠いひびきた宮での独り暮らしの衣通姫の悲しい気持ちを告げた歌が残されていた。

常しへに君も逢へやもいさな取り

海の浜際を寄る時々を

(日本書紀歌謡一六八)

あなたとの愛は永遠に続かない。あなたにいつまた逢えるかもわからない。波に打ち寄せられる浜際のように何とほかない身の上なのでしょう。

上之郷中村の入り組んだ集落のいずれに、薄幸の佳人が眠る衣通姫墓をたずねあてた。玉垣に囲まれた墓のかたわらには「とこしへの」の歌碑があり、ツツジの花が柔らかな色で寄り添っていた。

児童小公園として整備されている衣通姫墓のある広場の隅に、茅渚宮旧跡の石碑がある。毎年春の彼岸には、衣通姫をしのんで祭前祭が催されているとか。衣通姫はただの伝説上の歌人ではなく、いまでも人々の胸に生き続けているのであろう。

花妙し桜の愛で如此愛では

早くは愛です我が愛づる子ら

(日本書紀歌謡一六七)

衣通姫を桜の美しさにたとえた允恭天皇は、どうしてもっと早く愛さなかつたのだらうと、愛してやまなかつた衣通姫への気持ちを述懐している。

幼い頃には近江国の坂田で過ごした衣通姫は、茅渚の海を眺めて故郷の近江の海を思い出していたのであろうか。衣通姫にたたくずんできると、茅渚の海から運ばれてきた微風が吹き抜けていった。

(平成15年5月6日歩く)

A コースタイム

JR日根野駅(南海バス15分) 水呑地蔵登山口(40分) 小富士山(40分) 稲倉池側登山口(40分) 大井関自然公園・日根神社(40分) 茅渚宮旧跡・衣通姫墓(20分) JR長滝駅
△地形図V2万5千 櫻井

漢拏山に登る

韓国

塚元一彦

山である。

魚介類も豊富で、街には活魚料理の店が並んでいる。島全体がリゾート地であり、大統領と外国要人の会談がこの島で開かれることも多い。

この島の特徴を「三多三無」と表現する。三多つまり三つの多い物は石と風と女。全島火山のため火山岩におおわれていること、季節風が強いこと、男は出稼ぎのため女が多いことを意味する。三無はこの島にないもの。泥棒と乞食と門のことだという。濟州島の気候風土と人情を表す言葉であろう。

御里牧登山口にて



御里牧コースを登る

前日から降り始めた雨は、登山当日になってもやまない。漢拏山は国立公園として管理されており、荒天の場合は登山禁止の措置がとられるので心配させられたが、幸い大雨の予報は出ていない。朝8時にバスで北の登山口・御里牧へ向かう。

市街地を抜けると、道の両側に菜の花

濟州島

濟州島(チュジュド)は韓国釜山の南西約500kmの東シナ海にある。面積は1819平方km、佐渡島の約二倍に相当する。中央にそびえる漢拏山は標高1950mの休火山で、韓国の最高峰である。

この島は、黒潮の分流である対馬暖流に洗われているため、一年を通じて気候が温暖であり、真冬でも海女の潜水漁が営まれている。

平地ではミカン・バナナなど温帯・亜熱帯の果物が栽培され、山を登るにつれて亜高山植物を見ることが出来る。つまり漢拏山は植生の垂直分布をもつ貴重な



畑が現れる。この島の春を長期間彩するため、場所によって種蒔きの時期をずらしているという。その結果、早春から初夏にかけて、菜の花の絨毯がいつでも見られる。

長い裾野を引く火山なので、バスはゆるい坂道をゆっくり登っていく。照葉樹の林の向こうには牧場が広がっていて、朝鮮半島独特の赤牛の群れが遊んでいる。

登山口には駐車場と茶店とトイレがあり、遅咲きのサクラが満開だった。雨は降り続けているが、時折雲の切れ目から稜線が姿を見せる。やさしい山容である。ここは標高約1000mだから、頂上までの高さの半ばまでバスで来たことになる。

トイレを済ませて出発。自然林のなかにつけられた山道に入っていく。2人が楽に並んで歩ける広さの道は、初めのうちは砂利の遊歩道で、小さな沢を渡ると階段の登りに変わる。鉄道の枕木ほどの大きな材木でつくられた立派な階段が延々と続く。古い茶店の残骸が現れると、ようやく石畳の道になるが、再び階段。道の両側はミズナラ・ブナが多く、足元は一面のクマザサでおおわれている。ウグイスの鳴き声は当然のことながら日本と同じ。時どきキジが甲高い声を上げる。坂を登りきると草原に出た。晴れていれば一気に展望が広がる場所だが、ガスのため周囲100mほどが見えるだけ。小さな流れが幾筋もあり、湿原になっていて、幅の広い立派な木道で保護されて

関西の沢登り [2] 大峰の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

近畿の沢登りの中心はここ大峰山系。吉野川水系(上多古川)4、十津川水系(川追川、舟ノ川、旭ノ川、滝川水系)17、北山川水系(白川、又川、前鬼川、池郷川)10、計31の名沢を紹介。

関西の沢登り [1] 台高の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

谷姿美型にして水量豊富。吉野川、北山川、楠田川、宮川、銚子川、往古川の各水系の百を超える沢から32本を厳選して、各谷ごとに詳細通行図付きで紹介する。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
<http://www.nakanishiya.co.jp/>
京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 〒606-8316



入場無料 要予約

海外特別セミナー開催!

海外より講師が来日! 海外トレッキングの魅力についてたっぷり語っていただきます。

ネパール



の指導力を発揮し、数々の成功を収めている。

9/18(木)

10:00~12:00

大阪中央公会堂
第7・8会議室

地下鉄・京阪淀屋橋より徒歩5分

ニュージーランド



現在ニュージーランド南島
ミルフォードトラックの五箇口のテアノウ区住。自然全般に豊富な知識をもつ、人気ガイド。

9/26(金)

13:30~15:30

大阪中央公会堂
第7・8会議室

地下鉄・京阪淀屋橋より徒歩5分

南米



パトリシア・ティサレマ氏
エクアドル山岳ガイド協会 IASEGUMの公認ガイド、アコンカグアなど中米の高峰はもろもろの経験も豊富、日本語も堪能。

9/30(火)

18:00~20:00

大阪中央公会堂
第7・8会議室

地下鉄・京阪淀屋橋より徒歩5分

低酸素室設置!

高山病はこれで解決!

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



●利用料(1日/1時間)
メンバーズ会員 ¥1,000
非会員 ¥3,000

皆様のご参加心よりお待ちしております。お1様人でもお気軽にご参加ください。

中央公会堂案内図



お席に限りがございますので、ご面談ですがお電話等でご予約ください。

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社



アミューストラベル株式会社

国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

☎ 06-6456-3366

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>

E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
FAX 06-6456-3377

いる。国立公園とはいえ、いささか人の手が入りすぎている感もある。
頂上まで2.5kmの地点にみると水場があった。濟州島のミネラルウォーターは韓国で最も評判が高いと聞いたが、なるほどほのかな甘味を感じるうまい水だ。道端にツツジの花が現れた。ミヤマキリシマに似たピンクの花だが、少し早過ぎたようで、チラホラ咲きなのが惜しい。
歩き始めて2時間20分で1700m地点に着いた。避難小屋と監視所とトイレがあり、一般登山者はここまで。ここから頂上までのルートは、落石が激しいため登山禁止になっている。ガスのなかで思い思いに記念写真を撮り、しばらく休憩。
避難小屋でいっしょになった若者たちが、ノリ巻きをプレゼントしてくれた。ただし寿司飯ではなく、普通の白飯というところが韓国風。一橋大学に留学していたという青年が、流暢な日本語でこの山のことを説明してくれた。小屋の壁に漢字山の四季の写真が飾ってある。冬には1層を超す積雪があり、ツツジの最盛期には、山肌が真赤な花で埋め尽くされると聞いた。

霊室コースをくだる
昼食の時間には早すぎるので、登ってきた道の反対側、つまり南へくだることにした。始めのうちは、北側と同じような木道と木の階段が続いたが、途中からやや岩の多い山道に変わった。左に五百羅漢と呼ばれる岩の柱列が現れるが、濃いガスのためボンヤリ見えるだけ。
この道は北側に比べて短いため、登ってくる人が多い。スニーカーにビニールのレインコートという軽装の人がほとんどで、カソリックの尼さんや子どもたちも登ってくる。韓国最高峰の山は完全に観光地化している。しかし北側に比べると、やや道がけわしく、軽装での下りが大丈夫かなと少々心配になる。
草原が針葉樹林に変わり、さらに照葉樹林になると、沢の音が聞こえ始め、終点に近いことがわかる。約1時間10分で、ひょっこり霊室登山口の駐車場に出た。
ここは標高約1200m。売店とトイレがあり、きょう見ることができなかった漢字山をしのぶため、絵ハガキを買った。
バスは入山規制のためここまででは上がった。

て来られない。霊室口の駐車場まで車道を歩く。立派な車道だが、大型車を入れないのは、排気ガスによる環境汚染を防ぐためのようだ。日本ならばマイカーを制限し、シャトルバスを往復させるところだが、韓国流のやり方もあるわけだ。
約30分で霊室口に着いた。ちょうど雨がやんだので、駐車場周辺の小公園で昼食にした。バスが運んできた韓国料理の弁当は黒米混りの飯がめずらしい。暮の内風の弁当には必需品のキムチも入っていた。
昼食が終わって、残りの時間は観光。バスで道の見物や土産物店を廻ってホテルに帰った。
Aコースタイム
第71号(盛夏号) 山行報告P105ページ参照

エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く(第一回)

長坂文男

はじめに

高野山の歴史は、弘仁七年(816)に空海(弘法大師)が、高野山の地を嵯峨天皇から賜り、真言密教の根本道場として開いたのに始まる。以来約1200年、幾多の存亡の危機を乗り越え、今日まで連綿と続く真言密教の霊地である。

高野山は和歌山県の北東部に位置する。高野町は陣ヶ峰(1106m)を最高峰とした、1000m級の山々に囲まれた盆地状の平坦地(平均標高800m)にあり、東西約4km、南北約2kmで東西に細長い。

現在117の寺院があり、うち53の寺院が宿坊を経営している。人口は僧侶と在家人合わせて約4000人、日本はも

ちろん、世界的にみてもこれだけの規模の山上宗教都市は稀であるという。

平成13年4月、高野山、熊野三山、吉野・大峰の三霊場と、それらを結ぶ参詣道は「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコの世界遺産暫定リストに登録された。文化庁の推薦もあり、2004年(平成16年)の世界遺産委員会で、正式に世界遺産として認定される可能性が高い。

高野参詣道は高野七口(登山七路)と呼ばれ、大門口(町石道)・不動坂口・大滝口・龍神口・大峰口・黒河口・相ノ浦口の七つの参詣道がある。また高野山は明治5年(1872)まで女人禁制で

あったため、七口すべての山内入口に女人堂が建てられ、休憩と宿泊の便宜が計られていたが、現在残っているのは不動坂口の女人堂だけである。

昭和初期に電車・ケーブルが開通し、歩かずに高野山へ登れるようになり、これらの参詣道は人々から忘れ去られ、廃道となった箇所も多い。町石道(大門口)・小辺路(大滝口)を除いて、高野七口がガイドブックで紹介されることもほとんどない。

今回、高野参詣道(高野七口)の本街道・脇街道、およびその他の主要な参詣道をハイキングコースの視点から考え、7回に分けてコースガイドを試みた。

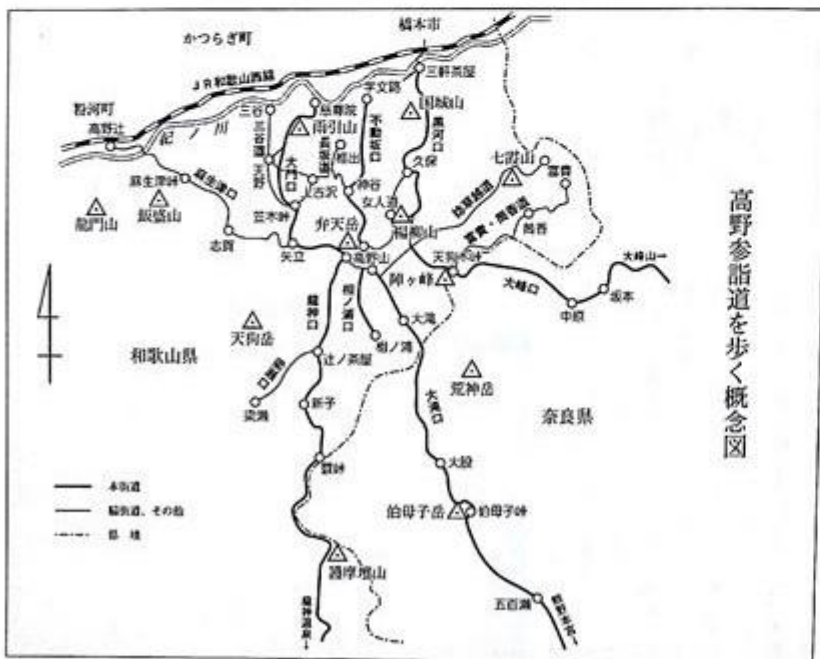
紹介するコース番号の反転数字①は高野七口の本街道を表し、②はその他の街道を表すことにする。

現在参詣道は廃道となっている箇所も多く、やむをえず迂回したりして、厳密には参詣道といいたくない箇所もあるが、お許し願いたい。

1回目の今回は、①大門口(町石道)と②麻生津口を紹介する。



大門(高野山の表門)



高野参詣道を歩く

だいもんくち ちやういし ちか

① 大門口(町石道)

高野山を開山した空海が開いた最も古い高野参詣道で、古代から中世末まで長らく表参道として利用された。

『紀伊国名所図会第三編 天保九年(1838)』に、「大門口(また西口といひ、矢立口、麻生津口、若山口ともいふ。矢立より大門口まで五十八町)、この道当山西方の入口なり。慈尊院の廟を拝し、坤(南西)に向ひて攀じ躋る。これ悉くも帝王の臨幸し給へる道にして、山路迂廻なれども峻ならず。文永年間の町石、今なほ依然として町毎に存す。故に町石道といふ。」とある。

一町(約109段)毎に町石が建ち並んでいることから、一般的には町石道と呼ばれている。現在見られる町石卒塔婆

は、鎌倉中期、文永二年(1265)に、高野山遍照光院の寛教上人が町石卒塔婆の建立を発願し、それに応じて後醍醐天皇をはじめ、貴族、鎌倉幕府の執権、有力御家人らが寄進したもので、完成したのは二〇年の時を経た弘安八年(1185)である。

町石卒塔婆は高さ3段弱、幅30センチ、五輪塔の地輪を方柱状に長くした形状をしている。銘文は町石により多少バラつきがあるが、正面上部に胎藏界の百八十尊、金剛界の三十七尊を表す梵字、その下に町数が契研彫で深く刻まれ、側面に施主名・建立年月日などが刻まれているものが多い。

高野山上の根本大塔から慈尊院までの

一六三町石と紀ノ川



180町(約20段)に180本、根本大塔から奥ノ院の弘法大師御廟までの36町(約4段)に36本、36町毎の里石4本、合計220本が建立され、江戸、大正、昭和の補修で、50本程が再建されたが、それ以外は創建当初のままで、昭和52年7月に国の史跡に指定された。

町石卒塔婆が建立される以前は、木製の町卒塔婆が建てられていた。平安中期、

寛治二年(1088)の『白河上皇高野御幸記』に、「路頭立卒都波札等、注町敷」とあり、木製の町卒塔婆の存在を示す最も古い史料である。

コースガイド

今回は南海高野線九度山駅から慈尊院(町石道の出発点)、高野山上の大門口を経て、千手院橋バス停までのコースを紹介する。約22分、休憩を含めて7〜8時間かかるロングコースなので、九度山駅をできるだけ早く出発したい。



南海難波駅で高野山極楽橋行きの急行に乗車、約1時間10分で九度山駅に着く。駅前の坂道をくだり、五ツ辻を西へ直進する。15分程歩くと、左に不動谷川に架かる丹生橋があり、渡って十字路を直進する。この道は慈尊院へ続く旧道(河内大和街道)で、古い町並が所どころ残っている。やがて立派な石垣と築地塀に囲まれた慈尊院に着く。

北門(表門)をくぐると、正面に多宝塔、左に弥勒堂と拝堂がある。この寺は空海が高野山を開山した折、山麓の拠点

(寺務所)として開かれ、「高野政所」とも呼ばれた。また空海の母公がこの寺で亡くなったと伝えられ、後世「女人高野」と呼ばれるようになった。現在も女性の参詣者が多い。

正面の丹生官省符神社(慈尊院の鎮守社)へ続く石段を登ると、石段の途中右に「一八〇町石」がある。町石道の出発点で、右へ10分程進むと、舗装された細い町石道に出る。

200分程進むと、勝利寺へ続く車道を横切る。寺は十一面観世菩薩を本尊とする古刹で、右側谷を挟んだ尾根末端部に、朱塗りの楼門(仁王門)が見えている。

さらに5分程歩くと、視界が開け、右に農業用溜池の新池、広域農道のコンクリート橋(新池橋)があり、その後方に見えるのはNTTドコモの無線中継塔と、雨引山である。

広域農道を横切り、谷に沿って進むと、傍らに小屋のある三叉路があり、右へ進む。慈尊院から雨引山分岐までは果樹園(ミカン、柿)が広がり、枝道(農道)も多いが、道標と町石を目印に歩けば迷うことはない。一六八町石を過ぎたあたりか



古峠と一四町石

ら視界が開け、一六六町石の少し先の三叉路を、右へ30分進んだ所に展望台がある。

北から東、さらに南東方向にかけてすばらしい大展望が広がる。眼下に蛇行する紀ノ川と流域の町並、その後方に和泉山脈から金剛山に続く尾根、右に音羽三山から竜門岳へ続く尾根、さらに三角形の高見山が遠望できる。南東方向に目

を転ずれば高野山を取り巻く雪池山・楊柳山・弁天岳等が見えている。

三叉路に戻り、尾根の左側(東)を捲いてゆく。一六三町石の少し先で山崎からの車道を横切ると、町石道は舗装道から地道に変わる。200分程登った所で再び車道(NTTドコモの無線中継塔へ続く)を横切り、雨引山山腹を北から西に捲く道となる。しばらく歩くと、左に赤い鳥居と稲荷社の小祠があり、少し先で雨引山(善女竜王をまつる)への山道が左に分岐している。

石がゴロゴロしていて少し歩きにくい捲き道を登って尾根に出る。左に弘法大師坐像石仏を見て尾根道を5分程進むと、右に一里石と一四四町石が並んで立っている。一里石から10分程で六本杉峠に着く。

小さな広場になった峠は、休憩によい所である。また峠は四叉路になっており、直進する道は三谷道の笠松峠へ、左横の道は天野の里へくだる八町坂である。町石道は道標にしたがって左へ大きく曲がる。

小都知峰の西側山腹を捲く道を尾根に出た所が古峠で、右に一四四町石が立つ

ている。古峠から明るくて気持ちのよい尾根道を10分程歩くと二ツ鳥居で、石造の鳥居二基が並んで立っている。

空海が天野の丹生都比売神社(高野山の地主神、丹生都比売大神と高野尊子大神はか二神をまつる)の通拝所として木製の鳥居を建立したが最初で、現在の石造の鳥居は江戸初期、慶安二年(1649)に高野山補陀浴院の叟遍上人が建立したものである。

二ツ鳥居から尾根の左側(東)斜面をくだる道となり、やがて右に紀伊高原ゴルフ場と応其上人の築造した応其池が見えてくる。応其上人は豊臣秀吉の高野山攻めの際、高野山側の使者として、秀吉側と交渉にあたり和睦を成立させた人物で、焼き討ちと殺戮の危機から高野山を救った恩人である。

応其池からゴルフ場に沿って進むと、神田の地藏堂がある。のどかな神田の田園地帯を見下ろす低い尾根上にあり、小さな広場になっていて休憩によい所である。

地藏堂から町石道は、ゴルフ場の東側の尾根に沿って南へ進む。所どころに竹林があり、晩秋の頃は落ち葉を踏みしめ

て歩く気持ちのよい道である。道は東へ向きを変え、右に休耕田を見ながら谷沿いの道に登ると、八六町石があり、その少し先が笠木峠である。

古い休耕田の残る峠の三叉路は、道標にしたがって右へ進む。送電線の下を通り、尾根に沿ってアップダウンを繰り返して進む。途中、道の右に七二町石と三里石が並んで立っている。やがて道は下りとなり、国道370号線を通る車の音が聞こえてくると、ほどなくして六〇町石の立つ矢立に着く。

『紀伊国名所図会』に「矢立茶屋(四軒茶屋または辻の茶屋といふ)この所町石道と若山道との道分にて、茶店軒をならぶ」とある。現在も国道370号線と町石道が交差するほか、高野山道路(国道480号線)、紀伊細川からの道、花坂からの旧高野街道が交わる交通の要衝である。

新しい矢立茶屋の横から道標にしたがって谷沿いの道を進み、少し急登して尾根に出る。尾根の北斜面の捲き道を進むと、道端に弘法大師が袈裟を掛けたといわれる袈裟掛石、手形が残るといわれる掛石等の旧跡がある。薄暗い杉・檜の植林地を

しばらく進むと、四一町石の先で高野山道路に出る。

道路沿いに進むのが本来の町石道であるが、交通事故が心配されるため、現在のように道路を横断、休憩所のあるピークへ急登する不自然なコースになったという。休憩所から少しくだり、高野山道路に沿って杉・檜の植林地のなかを町石道は続いている。時折樹林が切れ、高野七口の龍神口や相ノ浦口の通る尾根が展望できる。

二四町石の所で左に山道(廃道)が分岐する。近世(江戸時代)になり新しく開かれた道で、(長葱と呼ばれていた。ここから少し登り、高野山道路に沿って札の辻(大門と弁天岳の間)に至り、大門へくだったという。現在歩かれている二四町石から大門までの町石道は、近世以前の古道を昭和61年以降修復整備して出来た道である。

平坦な道も二町石付近から胸突き八丁の急登となり、ひと頭張り大門に着く。大門は高野山全体の総門で、創建は平安後期の永治元年(1141)で、現在の建物は江戸中期元禄十六年(1703)の再建である。高さ約25分、間口約

21分の立派な朱塗りの二重門で、国の重要文化財に指定されている。

大門から寺院や商店の立ち並ぶ高野山のメインストリート・大門通りを東へ。途中左に壇上伽藍の根本大塔や金堂を見ながら20分程歩くと、千手院橋バス停に着く。

(平成12年5月3日)

平成14年12月15日歩く

Aコースタイム

南海高野線九度山駅(30分)慈尊院(45分)展望台(1時間20分)六本杉峠(25分)二ツ鳥居(20分)地藏堂(45分)笠木峠(45分)矢立(40分)休憩所(1時間10分)大門(20分)千手院橋バス停(地形図V2万5千橋本・高野山ハコースメモ)

町石道はロングコースであり、体調不良、天候悪化のときなどは無理をせず、各分岐から東側を走る南海高野線の各駅にエスケープするとよい。

古峠(1時間) 上古沢駅

笠木峠(1時間10分) 上古沢駅

矢立(45分) 紀伊細川駅

高野参詣道を歩く

② 麻生津口

『紀伊国名所図会』に「府下(和歌山)より登るものは、麻生津峠より志賀郷を経て、矢立にてこの道(大門口)に合し、大門に入る」と記され、大門口(町石道)の脇街道の一つである。

近世(江戸時代)に入り、町石道に代わって表街道となった不動坂口とともに、最も利用された参詣道である。そのことは江戸時代に参詣者の道中安全を願って、この街道の六ヶ所(麻生津・横谷・麻生津峠・日高峠・梨子ノ木峠・花坂)に六体の地藏尊(六地藏)がまつられるようになったことから明らかである(六地藏がまつられているのは、麻生津口と不動坂口のみ)。

明治中期、麻生津口の東側の谷、四回

川沿いに東浜田から道が拓かれ(西高野街道(現国道480号線)、麻生津峠越の險路をさけて、次第に新道を歩く参詣者が多くなったという。この地域の最も古い5万地形図(粉河、明治43年測図)を見ると、両方の道に(高野街道)の注記があり、どちらの道も利用されていたことがわかる。

現在、麻生津口の古道はコースの前半、特に麻生津から麻生津峠間に旧高野街道の面影を残す古い町並、江戸時代の石道標や地藏石仏、廻国碑等が多く残されている。

コースガイド

このコースは約25km、休憩を含めて7

石道標と道路元標(茶屋町)



8時間かかるロングコースであり、名手駅出発は可能なかぎり早いほうがよい。
南海難波駅より高野山極楽橋行きの急行に乗車、橋本駅でJR和歌山線の和歌山行きに乗り換え、名手駅で下車する。難波駅より1時間30分程である。

名手駅から商店街を北へ5分程歩くと、旧大和街道(伊勢街道)と出合う(左角に

酒屋あり)。左折し大和街道を西へ歩き、名手橋を渡る。すぐ先の三叉路は左へ。

10分程歩くと大和街道の石標のあるT字路があり、左折する。JR和歌山線の路



切を渡って少し進むと高野辻(粉河町東野)に着く。

『紀伊続風土記 天保十年(1839)』に「此所にて道較れて二ツとなる。東は伊勢街道なり。東南は高野街道にて麻生津に至る。故に土人これを呼て高野辻といふ」とある。左角の電柱の傍らに石道標が二基あり、大きい方の常夜燈を兼ねた道標は高さ170cm、江戸後期文化十二年(1815)の銘があり、「右かややみち、左いせ まきのを道」と刻まれている。

高野辻を左折して高野街道に入ると、「大師の井戸」と小祠がある。50分程先の三叉路は左へ進む、国道24号線を横断して南東へ進むのが高野街道で、2万5千地形図(粉河)の藤崎から後田へ南東に続く一条道路がそれである。麻生津橋まで道標等は全くない。

後田橋を渡り、南東へ進むと紀ノ川北岸の堤防に出る。堤防沿いを東へ進むと麻生津橋がある。「麻生津の渡し」があった所で、大正13年に麻生津橋が完成すると、船渡しは廃止された。現在の橋は昭和26年に完成したものである。

橋を渡り、30分先のT字路(左角にガ

ソリスタンドあり)を左折。ここからは麻生津峠まで所要所に道標がある。道なりに進むと、県道橋本和歌山線と出合う。右に六地藏の一番目の地藏尊をまつった地藏堂がある。

堂の前に二基の自然石の道標があり、左側の道標に「右こかわ、左阿ら川(道)」と刻まれている。

県道を横切り、左に曲がると茶屋町で、『紀伊続風土記』に「茶屋町又笹江町といふ。往還なり。川辺にて運漕等よろしく商家多く出来り。旅舎ありて市街の姿をなせり」とあり、現在も古い町並がよく残っている。茶屋町の東端、右に曲がる所に「麻生津村道路元標」の石標と、江戸中期寛政七年(1795)の銘のある石道標(高さ約150cm)がある。「右高野山大門へ五里、右側面「粉川、わか山みち」と刻まれている。

県道上橋酒那賀線を横切り、麻生津川に架かる小さな橋を渡ると、上り坂となる。細い舗装道を進むと得根石がある。得根の駒の形をした板形形の供養塔で、江戸初期寛永十六年(1639)の銘がある。

「かじやの辻」の道標のある所で再び



旧高野街道と石道標(市峠下)

に志賀小学校、右に志賀の毘土神・丹生四社明神がある。
丹生四社明神は鎌倉初期の創建と伝えられ、拜殿の後方に丹生都比売神ほか三神をまつた四つの立派な朱塗りの社殿がある。秋にはすばらしい紅葉・黄葉が見られる。

小学校の横から再び国道へ戻る。上志賀の集落の先で真園川に架かる橋を渡り、

県道を横切る。傾斜地に石垣を築いて家が建てられた横谷の集落をめぐりように入ると、左に六地藏の二番目の地藏尊がまつられた小祠がある。三たび県道を横切り、竹やアカマツの林を抜けると「堂前の地藏」に着く。

再建された真新しい地藏堂とあずまやの休憩所があり、小休止するのにちょうどよい。堂の横に江戸後期文化八年(1811)の路のある廻国碑があり、「奉納大乗妙典日本廻国」と刻まれている。六十六部(書写した法華経(大乗妙典)を全国六十六ヶ所の霊場に納める目的で諸国を遍歴した行脚僧)が奉納した記念に建てた碑である。

送電線を横切り登ってゆくと視界が開け、北から西にかけてすばらしい展望が広がる。紀ノ川の中流域から下流域が一望のもと、淡路島も遠望できる。

赤沼田地区の果樹園(柿、ミカン)のなかを登ってゆくと、左に「大師の井戸」がある。杉の巨木の傍らに、湧き水が少し溜まった井戸と小祠がある。南西方向に飯盛山(746m)と飯盛城(新興宗教団体の教祖をまつる)を見ながら、柿畑のなかを15分程登ると麻生津峠(526m)

に着く。

峠の左側(北)に峠茶屋を営んでいた民家、そして六地藏の三番目の地藏尊をまつた小祠がある。峠の右側(南)の観音茶屋は、最近(平成13年)入口にあった十一面観音石仏をまつた小祠を残して取り壊され、広い空地になっている。この十一面観音は、高野山に納骨する人々が茶湯を供えたことから茶湯観音と呼ばれていた。

麻生津峠からまっすぐ尾根の北側斜面をゆるやかにくだってゆく。峠までの道と異なり、薄暗い杉の植林地の道である。視界が開けると数軒の民家がある清川で、県道高野口野上線が横切っている。

高野街道の取りつきは、県道を左(東)へ50分程進み、右上に見える一軒家に向かって登る。一軒家を過ぎると、618mのピークの北から東側斜面を捲く山道となり、杉の植林地を進む。日も差さず冷気が漂ってくる。道が下りとなり柿畑が見れると、日高である。

山腹の柿畑のなかに、民家が点在する典型的な山村で、細い車道を1000分程進むと日高峠である。細い車道が横切るだけの何の変哲もない峠で、峠から地道に少し歩くとT字路で右折する。植林地のなかを15分程登ると、梨子ノ木峠である。

昔は茶屋があり賑わったというが、現在は国道の左に道路改修記念碑がポツンとあるだけの何の変哲もない峠である。

峠からくだり、数軒の民家がある掛谷からさらに1.5分程南へ国道を進むと花坂で、国道370号線と出合う。江戸時代から続く名物「焼き餅」を売る花坂屋(喫茶店兼業)の前を通り国道を右へ。すぐに貴志川の支流、北川に架かる御室橋があり、渡ってすぐ左折する。5分程歩いてT字路を左折すると、花坂集落の中心地に出る。

『伊勢風土記』に「麻生津よりの高野街道にて、旅舎多く、駅舎の体山家の趣なし」とあり、現在は旅舎(宿屋)こそないが、道の両側に民家が立ち並んでいる。茶屋敷恵美須神社の小祠の横を通り、古い家並の残る旧高野街道を進むと、鴨子川沿いの舗装林道と出合う。林道を横切り、左に宿屋を営んでいたと思われる二階建ての民家の横を通り、谷泊いを通む。民家の庭先を通過して少し登ると矢立で、大門口(町石道)と出合う。

の林道となり、南へ少し歩くと、林道終点の細ノ木峠に着く。

高野街道は左の谷へ山道をくだるが、道標もなく、間違ってもまっすぐ尾根道を進まないよう注意すること。下り始めは少し急坂だが、すぐゆるやかになる。峠から10分程くだると、山道は細い車道となり、左に明治初期(?)に建てられたと思われる石道標が二基ある。

大きいほうの道標(高さ約160cm)の左側面「右 かわまで三里十七丁」、右側面「すぐ高野山大門三里二十丁」と刻まれているが、前後逆に立っている。国道(四国川沿いの高野街道)と麻生津口の高野街道の分岐にあったものを、国道の改修工事でここに移動した際、前後逆に立てられたものと思われる。

石道標のすこし先で国道480号線と出合う。ここは市峠の少し南で、市峠公園のバス停がある。広い国道を南へ10分程歩くと、左に細い車道(旧道)が分岐する。旧道を5分程歩くと下志賀で、再び国道に出る。

国道を東へ進むが、途中で真園川に架かる橋を渡り、町道を歩くほうが静かだよい。しばらく歩くと中志賀で、道の左矢立は五つの道が交わる交通の要衝で、小休止後、紀伊細川へとくだる。不動谷川の支流に沿ってくだり、不動谷川に架かる橋を渡った十字路を右上に登ると、南海高野線の紀伊細川駅がある。

(平成14年10月5日・11月17日歩く)

▲コースタイム▼

JR和歌山線名手駅(30分) 高野辻(30分) 麻生津橋(45分) 堂前の地藏(45分) 麻生津峠(50分) 日高峠(10分) 細ノ木峠(25分) 市峠下(45分) 丹生四社明神(45分) 梨子ノ木峠(30分) 花坂(25分) 矢立(45分) 南海紀伊細川駅

▲地形図▼

2万5千粉河・龍門山・高野山

▲コースメモ▼

JR笠田駅と下新城(かつらぎ町)間にかつらぎ町コミュニティバスが1日6便運行している。(市峠公園) 14時36分・18時16分、(笠田駅) 15時00分・18時40分着

▲問い合わせ先▼

かつらぎ町役場

☎0736(22)0300

広島ルートと狼煙リレー

柴田 昭彦

【広島県内ルート】

★広島県立図書館に依頼して、多数の郷土資料を調査してもらったが、旗振り伝承についてふれている文献は見当たらないという結果となった。桑島一男「倉敷の電信電話」(日本電信電話公社倉敷電報電話局内事業史編集委員会、昭和55年)には、通信ルートとして「福山・尾道」の記述があるので、両市の教育委員会に問い合わせてみたが、関連する資料や伝承地はなく、不明とのことであった。

●尾道青年会議所の記念誌『尾道J.C.三〇年のあゆみ』(尾道青年会議所、1988年)には、「大阪―尾道のろしりレー」についてのレポートが載っているが、そ

の文頭に、次のような記述が見られる。「かつて商都として栄華を誇った尾道で大阪の米相場をいち早く知る手段として狼煙が使用されたといひ伝えられています。しかしいまそれを実証する資料は残されていません。そこで新幹線新尾道駅開業にあたり、大阪から尾道まで実際に狼煙をあげて史実の確認を行なうことにしました。」

★相場通信に狼煙を用いたという伝承は尾道市に残るが、その場所は人々の記憶から消え去ってしまったようである。この狼煙リレーの詳細については、あとで述べよう。

●本誌68号で全文を紹介した「通信協会

雑誌」大正3年2月号の記事には、旗振り信号を用いた相場通信の行われた地点として、「岡山、倉敷、津山、玉島、尾之道」とある。この資料から、尾道においても旗振りが行われたことがわかる。狼煙は、相場の値段を伝える通信としては不適当であり、実際には、夜間に、火振り(火繩または松明振り。「火の旗」と呼ばれる)が行われている。事情をよく知らない報告者が、火振りのことを、狼煙と誤って伝えてきたのではないかと思われる。

★広島県君田村の高幡山(665㍎)の北に判官山があり、愛媛県には旗山(155㍎)と大旗山(1184㍎)がある。これらは相場に関するものではなく、源氏に関わる呼称と思われる。

★広島市安佐南区に畑峠があるが、麓に畑の地名があり、旗との関連は薄そうである。

★中島篤巳氏には、「広島県白名山」「山口県百名山」(霊書房)の著書があるが、その中に相場通信に関する記述はなく、問い合わせたところ、「山口県、広島県では、相場旗振りの伝えが、つかめておりません」とのことであった(平成

13年2月の返信より)。

★筆者は、広島県内に相場通信の山が全く伝えられていないことを残念に思う。

そこで、これは、筆者の完全な推測にすぎないが、可能性のある山を山口県下関市まで列挙して、何らかの糸口をしたいと思います。読者の中で、中国地方、とりわけ広島県下における相場通信の情報をお持ちであれば、筆者までご教示いただければ幸いです(連絡先は本連載第1回の本誌57号参照)。

福山市(彦山・馬背山)、三原市(平家山)、竹原市(朝日山)、安芸津町(蚊無奥山)、熊野町(金ヶ燈籠山)、広島市安佐南区(火山)、広島市佐伯区(321㍎峰)、大野町(怪小原山)、山口県岩国市川西(300㍎峰)、周東町(田尻山)、下松市(鳥帽子山)、徳山市(2003年4月21日に合併して、周南市となった(西無ヶ岳)、防府市(大平山)、秋穂町(日地山)、宇部市東岐波(日ノ山)、小野田市(竜王山)、下関市前田(火の山)

【大阪―尾道のろしりレー】

★シンポジウム「古代国家とのろし」宇都宮市実行委員会／平川南／鈴木靖民

【編】『烽「とぶひ」の道』(青木書店、1997年)は古代ののろしをテーマとするまとまった最初の書物といえるが、この中(150㍎頁、165㍎頁)には、

1988年3月13日(日曜日)に、山陽新幹線新尾道駅の開業記念行事として行なわれた「のろしりレー」のコースが紹介されている(週刊AERA、1988・7・26、朝日新聞社、62㍎63頁にも紹介されている)。のろしと新幹線ひかり211号との競争は、新幹線(新大阪駅9時12分発、新尾道駅1時着)が勝ったが、のろしは、10分遅れの1時間58分で到着したという「烽の道」にひかり111号とあるのは誤り。そのコースは後に示すとおりで、旗振り山が4ヶ所(①②③④)、旗振りの岡山ルートの再現に用いられた山が2ヶ所(⑤⑥)ある。なお、引用のためか、『烽の道』では一カ所が脱落していたので、出典である、尾道青年会議所の記念誌『尾道J.C.三〇年のあゆみ』(1988年)に掲載された「大阪―尾道のろしりレー」(発端・意義・顔末・コース)の資料(108㍎110頁)の資料は青年会議所からは入手できず、尾道市教育委員会文化振興課から戴いたことによって「岡山市吉備中山」を補い、筆

者なりの地名表記も加えた。原資料は簡単な地名(一覧には「で示した」のみだが、NTTの協力を得て自動車に入れる中継電波塔を利用している)なので、ポイントは見つけやすい(本誌64号以降の地図参照)。「白毛」は当初、地点が不明であったが、インターネットの情報から、苦無山の西で、京見山の東北東の215㍎峰に、白毛無線中継所があることが確認できた(2001年9月)。なお、『烽の道』(166頁)によれば、燃料には薪を使い、湿ったオガクズで煙をあげたという。

- ①「大阪城」太陽の広場(大阪市中央区)
- ②「梅田」(大阪市北区)
- ③「尼崎戸ノ内」(尼崎市戸ノ内町)
- ④「尼崎上食漢」(尼崎市食漢)
- ⑤「伊丹第一ホテル」(伊丹市中央六丁目)
- ⑥「金井重妻工業運動場」(岡山市奥畑四丁目)
- ⑦「船板」無線中継所(西宮市山口町)
- ⑧「畑山」(西宮市山口町下山口)
- ⑨「鹿見」山(神戸市北区)
- ⑩「菊水」山(神戸市北区)
- ⑪「シブレ」山(北區山田町西下)
- ⑫「嵯峨山」(神戸市西区)
- ⑬「白沢」(加古川市上荘町)の北

のろしりレーと旗振り再現ルート



- ①「法華」山(加西市下車、一乗寺)の西
- ②「廣嶺」山(姫路市)
- ③「白毛」山(姫路市・太子町)
- ④「的場」山(龍野市)
- ⑤「宝台」山(相生市)
- ⑥「福石」山(備前市)
- ⑦「熊山」山(備前市)
- ⑧「金山」山(御津町・岡山市)
- ⑨「吉備」山(岡山市吉備中山)
- ⑩「種松山」山(倉敷市桂江)
- ⑪「通照山」山(鞆方町)
- ⑫「神島」山(笠岡市)
- ⑬「彦山」山(福山市)
- ⑭「瑞雲山」山(尾道市尾道町、浄土寺山)
- ⑮「向峰」山(尾道市栗原町)
- ⑯「新尾道駅」
- ⑰(大阪府二カ所、兵庫県一六カ所、岡山県七カ所、広島県四カ所)
- ⑱(全長2500m、二九カ所で中継)

【各地ののろしりレー】

★江口春太郎『花火ものがたり』(中日新聞本社、昭和57年)には、昭和56年11月29日に試みられた対馬・志岐から太宰府政庁跡までの狼煙りレーが紹介してある(24、26頁)。

★須玉町歴史資料館(山梨県)のホームページには、「烽火(のろし) 武田氏の通信ネットワーク」のコーナーがあり、町内の烽火台跡について紹介するとともに、尾道のろしりレーのほか、津軽海峡

★坪井清足監修、NHK取材班編『邪馬台国が見える!』(日本放送出版協会、平成元年)には、平成元年(1989年)四月末に、枚方市文化財研究会の宇治田和生氏を中心として、地元考古学関係者が行ったのろしりレー実験が紹介されている(76、79頁)。淀川河畔から枚方市鷹塚山遺跡を起点として、枚方市田口山、八幡町幣原、城陽市森山、田辺町(現在京田辺市)飯岡、山城町城山の各遺跡を経て、奈良盆地の北、木津町灯籠寺遺跡まで、計七地点を結ぶ実験であった。この実験は『烽火の道』の中で、佐原真氏が紹介している(151-153頁)。十時半に最初ののろし(古タイヤの黒い煙)があり、十一時二十六分に最終地点に行った。所要時間五十六分。霧と団地の陰で確認に手間取った第二、第三地点間のロスがなければ、もっと早くなったはずで、全長三十二kmの区間を三十分ほどで伝達できるはずだという。

(北海道・青森)を渡す烽火実験(松前藩が用いた烽火を、平成10年6月30日に再現)等の紹介がある。

★本誌62号で紹介した、伊賀町の旗山についての情報をホームページで公開している池田裕氏は、伊賀忍者研究会を主宰し、謎に包まれた水蜘蛛の実験を上野城の堀で行う(平成12年11月5日)など、忍者の科学的な検証に取り組んでおられる。狼煙の実験については、暮らしの文化探検隊(事務局:三重県伊賀県民局生活環境部)の発行した『暮らしの文化探検隊レポートVol.2』(平成12年3月)や当時の地方新聞等に報告されている。名張市赤目龍口の百地三喜生氏(伊賀忍者の頭領だった百地三太夫の19代目)によると、天正伊賀の乱(1581年)で忍者が狼煙を上げて通信した山が地元であり、それは龍王山であったという。城山の東の峰続き、秋葉山の南東方向にあり、「赤目・俱留尊高原」(山と高原地図、昭文社。2002年版を最後に絶版となった)では、「龍王大神」とある。標高は約560mという。伊賀忍者研究会によって、平成11年11月27日に狼煙実験が行われ、忍者装束のメンバーらが、神社前で発煙筒をたいた

り、杉・檜の葉を燃やしたりして、30分後には、北東のつじヶ丘、桔梗ヶ丘、北方の梅ヶ丘、茶臼山、そして、北方に20m離れた伊賀上野城・伊賀県民局の計6ヶ所で煙が確認された。実験成功の連絡は、携帯電話が用いられた。この実験には小中学生も参加した。池田氏によれば、狼煙は山頂で上げるよりも、中腹から上げるなどして、バックが存在するほうが煙を確認しやすいという。なお、8世紀の「養老令」では、「烽」の間隔は40里(古い里で22km)としている。この間隔は、旗振り通信の場合の一般的な距離(8~20km)よりも長い。

★「伊賀忍者真説49の足跡」(伊賀びとのおもい実現委員会、平成13年12月)という伊賀七市町域の伊賀忍者達の足跡を示すマップがある。伊賀暮らしの文化探検隊長の池田裕氏が解説を担当している。連絡先は伊賀びとのおもい実現委員会事務局(伊賀県民局企画調整課内、TEL0595-2418004、FAX同8010)である。62号で紹介した、伊賀町旗山については「⑨大袖役小角」の項目にあるが、旗振りにはふれていない。

★草川啓三「鈴鹿の山を歩く」(ナカニシ

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

イモック山遊行くらぶ

○9月14日(日) 京都北山歩会 八丁平と峰床山(970m)

○10月19日(日) 大峰山系を歩く

詳細はお問い合わせください。

☆32/☆

カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ

●重量 1550g

●素材 高強度ナイロン

●価格 ¥15,000

☆28/☆

カラー マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ

●重量 1400g

●素材 高強度ナイロン

●価格 ¥13,000



OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK
KOBE

〒653-0029 神戸市東灘区日吉町2丁目1番10号
カナノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

●営業時間/10:00~20:00 ●日曜日も営業

ヤ出版、2003年)にも「旗山・鳥山」が紹介してあるが、旗振りの話題は載せていない。

★日本史小百科の2冊、「通信」(近藤出版社、昭和61年)と「交通」(東京堂出版、2001年)に「のろし」の記事がある。

【のろしは雨天時はどうしたのか?】

★西ヶ谷恭弘編『定本日本城郭事典』(秋田書店、平成12年)は全国六百城を一冊に集大成した好著であるが、巻末に城郭用語事典を収録している。のろしは雨天・濃霧のとき、どうしたのか、以下のような記載がある。

★「狼煙」二雨天の場合や濃霧の場合、使用できないので、鐘を打って合図をした。これが「鐘打山」というもので狼煙台と共に甲州、信州の山々に見受けられるものである。

★「鐘撞山」「狼煙山、狼煙台、貝吹山」などと同じように「伝えの城」「つなぎの城」があったことを暗示する地名である。狼煙の場合、雨天や濃霧のとき、使用不可能だが、鐘の合図はこのような天候の場合によく響くのである。「ただ、

鐘を使用した場合、敵兵に合図が知れることが短所である。」

★「貝吹山」「鐘撞山と同じ意味を持つ。」

「狼煙は雨天の日には使用が不可能であるため、法螺貝を使用したものであろう。このような名の地名は、敵見塚、警固山とか呼ばれているものもある。」

★「警固場」「出城などに付けられている地名で、警固山なども呼ばれている。関東地方に特に多く見受けられ、箱根山中には特に多い。」

★従って、雨天や濃霧のときには、狼煙山(狼煙台)に代わって、鐘打山(鐘撞山)、貝吹山、敵見塚、警固山(警固場)が用いられて合図を行なったというわけである。

【金鳥山の旗振り場について】

●本誌64号で「金鳥山」の旗振り場について紹介した。本山村誌編纂委員会編『本山村誌』(同委員会・委員長 林勇次郎発行、昭和28年)には、北畑の「旗振り場」と題して次のようにある(609頁)。

「北畑のうち金鳥山の東北の山の頂に今火の見櫓のある処を旗振り場と言う。こゝに笹で屋根を葺いた粗末な小屋があり、

金鳥山の登山道 (この右手に旗振り場があった)



その前に望遠鏡を据えて、旗振りが旗を振って合図をしていた。

嘗って電信電話のない時分、堂島の米相場を一刻も争うて遠方へ報導する機関の中継所であった。当時旗降りは北畑に住み毎日山へ上下していたと言う。明治四十年頃までやつていたと言うから、うそのような話である。」

★本誌64号で紹介したように、小屋のあった旗振り場は火の見櫓の約180以南方

にある。火の見櫓の地点そのものを旗振り場と記述しているのは「本山村誌」のミスであろう。

【氷上町の旗振り場について】

★本誌67号で、氷上ルートを紹介した。石戸山の旗振り場から、どこを中継して、氷上町成松に伝達したのかは不明であった。筆者は、霧山の別名が高畑であることから、高畑のことではないかと考え、通信方向から考えて、霧山や権現山の可能性を述べておいた。

●荻野淳一編『成松町誌』(成松町誌編集会、昭和32年)の「電信、電話」の項には次のような注目すべき記述がある(335頁)。

「明治三十年電信事務が開始され、電話の開通は明治四十四年である。当時は郵便局に設置された局用兼公衆用一基であった。通信については古老の語る所によると、電信電信開通以前は通信の方法として旗信号を用いていたこともあり堂島の相場を旗によって各地へ送るのを、成松では霧山に立って三田よりの通信を受け之を町に送った。町の人達はこれを望遠鏡で見て堂島の相場によって商いをした

といわれている。」

●『成松町誌』の「明治期の商業」の項には、次のようにある(377-38頁)。

「米相場を大阪堂島から伝えるのに、三田までは飛脚でそれからは山の峯を手旗で送り、氷上の霧山で之を受信したものである。」

★『成松町誌』の記述から、霧山が旗振り場であることが判明した。これによって、「石戸山―霧山―成松」というルートが確定するのだが、奇妙なことに、成松の古老の間では、霧山で受けた信号は三田から山の峰を経て伝わってきたといひ、食い違いが生じることになる。おそらく、年代や業者により、異なったルートが設置されたのであろう。

★63号では三田ルートを紹介したことがある。畑山(西宮市)、さんしょう山から三國ヶ嶽(70号で紹介したように旗振り地点は山頂の東方の天狗岩と思われる)を経て、多紀連山に通信されたこと伝わっている。多紀連山の小金ヶ嶽、三嶽、西ヶ嶽は畑山三山と呼ばれる。『多紀郡郷土史考』によると、この畑山の呼称は、山麓の畑集落に由来するものだというのが、「三國ヶ嶽―三嶽―霧山」というルートで通信

することは可能である。三嶽(793・4頁)と霧山(372頁)は春日町域の長い谷をはさんで、18を隔てて見通しがきく。旗振り山の通信距離は6・12が多いので、市島町春日町境の妙高山(564・8頁)を中継地に用いた可能性がある。霧山と三田が連絡されていたことから、多紀連山のどこかに旗振り山が忘れられたままになっているのではないだろうか。本誌66号で述べたように、篠山市では旗振り伝承は見つかっていないが、市島町、春日町と篠山市域の旧西紀町(三嶽の北側)での調査が必要であろう。

★成松の古老は、三田までは飛脚が米相場の情報を伝えたとするが、これは江戸幕府時代の禁止令の影響なのだろうか。三田の南東の畑山(旗山、西宮市)では旗振りが行われており、大阪と三田の間でも旗振り通信が行われていたことを証明している(63号)。

【加古川市の旗振り場について】

●本誌65号で、大平山と北山奥山の旗振り場について紹介した。筆者は41号のコーサガイドのための調査でこの2ヶ所を踏



太閤岩



北山奥山の東400m、太閤岩の西150mに位置する城屋敷(標高160.8m)にある「米相場中継所跡」の解説板(ここから姫路へ通信できないので、中継所ではないことに注意)



北山奥山(標高182.8m)(ここに米相場中継所があった)

破した。コースガイドを書いた頃は、北山奥山が旗振り場であるという情報を持っておらず、その後、「大平山旗振り所跡」の碑(65号)が建てられ、インターネットでもこの碑文の内容が紹介されている。そこで、北山奥山の再踏査と、石碑の確認をするために出かけた。
★平成14年12月23日、JR宝殿駅前から加古川市西神吉町辻を抜けて、志方町横大路に抜ける峠の集落に着く。「志方町誌(昭和44年)」には「鴉峠・鳥峠(鳥が多く棲んでいたのでつけられた名前であろう)

とある。峠の東側には地蔵堂がある。西側から巡視路を上がると、すぐ鉄塔に出る。左の縦走路に入り、鞍部から登り返すと見晴らしのよい太閤岩に着く。秀吉が志方城を攻めた時、ここに本陣をおいて采配をとったという言い伝えが残る(志方町誌)。ここから西に進むと踏み跡が二本になるが右の方をたどると、「米相場中継所跡」という案内プレートがあり、右に入ると、志方町誌に基づく中継所跡の解説板がある。ここは「城屋敷」と呼ばれていて、山城跡の削平地があり、標高は160・8m、太閤岩から西へ約150mほど上がった地点である。しかし、ここは、東側(明石金ヶ崎山)はともかくとして、西側(姫路)を見通すことはできない立地である。次の通信地点は姫路米穀取引所であるが、姫路市内はもちろんのこと、大平山中継所すら見ることとはできない。ここは条件に合わない場所である。なぜ、ここに「米相場中継所跡」の表示があるのだろうか。それは、出典として掲げている「志方町誌」の次の記述からであろう。
「相場中継所 横大路南方山頂の太閤岩から峯続きを少し西へ歩くと、通称大谷

から登り着いたところに、六畳敷き程の僅かに土盛りしたあとがある。小松が繁って、注意せぬとそれと判りにくい。ここは昔、米相場中継所の小屋が建てていた場所である。」

★横山晴明『はりま歴史の山ハイキング』(神戸新聞総合出版センター、2003年)の「播磨アルプス全山縦走」においても、次のような記述があり、誤りを広めることとなっているのは残念なことである。「山城があったことから城屋敷と呼ばれるヒークは、電話が普及するまで米相場を伝える旗振りの中継点。説明板があります。」

なお、この本では「桶居山」を旗振り山として紹介している。「升田山」「城山(中道子山)」「地徳山(北宿大平山)」「小富士山(麻生山)」「鳴尾山」も旗振り山であるが、その話題にはふれられていない。

●太閤岩は、通称「小谷」という横大路集落所有の山の頂きにあり(志方町誌)、通称「大谷」はその西の大きな谷を指すものである。したがって、「大谷から登り着いたところ」とは、太閤岩から西へ約550mにある北山奥山(標高18

2・8m)である。ここからは姫路市内も、大平山中継所も見通すことができ、旗振りの条件にびびったりである。

★木谷幸夫「姫路付近の旗振り山について」(歴史と神戸)163号、1990年12月)には次のようになっている。筆者の考えと一致する。

「信号所跡(は(中略)峠集落から登ることができ。(中略)太閤岩にでる。

この地点から、さらに五〇メートルほど尾根筋を進むと、西に北宿大平山、東に金ヶ崎山を望見できる平坦地がある。相場中継所と推定される所である。」

★木谷氏は、北山奥山を中継所と考えていることがわかる。現地の案内板は『志方町誌』の「太閤岩から峯続きを少し西へ歩く」という表現に惑わされ、立地条件を無視して誤った場所に設置したものであろう。正しい場所に設置されることを希望するものである。

★筆者は、北山奥山の山頂から鉄塔の立つ中塚山(165m)から西へ象頭山(88m)の象の頭のような岩場がある。山名絵地図は、本誌41号参照)を経て、北山の鹿島神社(下り)、地徳の鹿島神社から山上公園の峠を抜けて、姫路別所高校の南の横池

の南東畔にある石碑を確認した。碑文は次のように刻まれている。



大平山旗振り信号所跡の碑(姫路市別所町北宿)

「大平山旗振り信号所跡の碑 明治二十七年頃から大正六年まで、この東の大平山頂上に、堂島と兵庫の米相場を姫路に伝達するための手旗信号所が置かれていた。その信号の経由は、堂島―尼崎―御影山―一の谷―魚住金ヶ崎山―北宿大平山 姫路で、北宿の村民三名がこれに従事していた。 平成十一年九月吉日 別所町北宿自治会」

その後、鹿島神社に戻り、バスでJR加古川駅に向かった。(つづく)
(平成13年5月12日成稿・11月13日補訂)
(平成14年9月1日追補・12月28日追加)
(平成15年5月21日追加訂正)

連載

滝谷山

湖西

磯部 純

滝谷山は2万5千分の1の地形図「熊川」に載っている、三重県の東南に位置する山である。平成14年4月に金谷さんリーダーの新ハイ例会でこの山を歩いたときは、今津山上会の人たちによってルートが整備された後だった。しかし、私たちが三角点探索のため、この三角点峰を訪れたその前年の9月は、踏み跡がまだやぶにおおわれたやぶ山であった。

使用していた「熊川」の地形図がポロポロになり、最新の平成11年に部分修正測量の地形図を購入して見ると、滝谷山が三角点峰から標高点に変わっている。一部の人が「三角点亡失」と言うのを聞いていたので、それで地形図の三角

点が標高点へ変わったのかと思ひ、三角点病重症の友人に訊いてみると、「三角点が標高点に変わるのはおかしい。三角点はあるはずだ」との返事。それを聞いて、国土地理院に問い合わせする前に「三角点亡失」が本当かどうかを確認するためにこの山へ登ることにした。また、「20数年前、滝谷山の北方の尾根にすばらしいブナ林があった」と金谷さんが言っている。そのブナ林を見ることも目的の一つだった。もちろん、私にとっては初めて訪れる三角点峰である。

7時15分、京都市堀川御池で金谷・高坂両氏を乗せ、今津へと向かう。花折峠から安曇川沿いを北へ走ると、時折フロ

行くときには連絡してほしいとのことだったので、一応、電話は入れたのだが、槍ヶ岳から月曜の夜遅く帰ったばかりで、まさか来るとは思ってもいなかった。これでこの日の山行メンバーは、サンデー毎日の4人になった。

以前は、滝谷山三角点に登ろうとすると、この山の南、東西の斜面が急なので、北から尾根をくだって行くしかなかった。それが最近、天狗岩へ登る遊歩道が整備されたので、南から簡単に登れることになった。今回の計画はこの遊歩道を利用して尾根に登り、尾根を北上して三角点



を探した後、北のブナ林を散策し、近江坂へ抜けようとするコースである。広場の東から谷へくだる。谷を四度渡り返し、左の斜面に取りつく。斜面には階段が切られているが、傾斜が急で足を踏みはずすと転げ落ちてしまいそうにも思える。150以上の標高を一気に登ると、息は切れはや汗が下着はポトポト。額からは玉のような汗が流れ落ちる。やがて、尾根がゆるくなると道は山腹を巻き、左からの尾根に合うと遊歩道は左の支尾根をくだって行ってしまった。ここから先の尾根に道は見えない。

杉林の尾根を北へたどる。仕事道らしい踏み跡はあるものの、下駄いされた枝や茅におおわれ登るのに苦労の連続。雨の名残か、かき分ける茅の露でズボンが濡れてきて、下

亡失したと言われていた滝谷山三角点



ントガラスに水滴がつく。天気は全く気にせず、スバツも持ってきていない、雲が山にかかり少なからず心配になる。市場を過ぎ保坂から右折して、箱館山の下を通り、ピラデスト今津への道を登っていく。川上平から処女湖を左に見て登山口の淡海広場まで来ると、見覚えのある車が一台止まり、そばに守山市の谷さんが立っているではないか。彼から山へ

の方はドロドロ。スバツを持ってこなかったことを後悔するがもう遅い。

標高点665mを確認し、小さな二つのピークを越えて登りきった所が滝谷山平坦な山頂は杉の林で、あたり一面ササでおおわれている。まずは、4人が分かれて三角点標石探しにかかる。林の中央部を探すが見つからず、台地の南縁を探していくと、斜面ぎりぎりの所に標石が埋まっている。思わず「アッタ！」の声を上げてしまった。間違いにせよ、地形図で標高点に変わっていた山頂で、3等三角点を発見した感動の一瞬だった。

三角点標石の周りはササにおおわれ、見つけにくかったのは事実だが、「三角点亡失」と決めつけた人たちは地形図をしっかりと読まず、探さなければならぬ。しかし、すぐそばの木に、同じようなマニアが付けた赤や黄色のテープがぶら下がっていたのである。皆んな集まり、三角点標石の周りをササを刈り取り、広場をつくった後、記念撮影とする。

落ち着いたところで、標石とゆっくり対面。滝谷山標高735.6m、点名川上である。標石は北を向いているが15度



獣の臭いがブンブンするブナ林のヌタ場にて

早くも「出来上がったときには飲ませてほしい」と予約が入る。

13時ちようど、下山にかかる。この近江坂を北へたどれば大御影山へ行けるが、今回は南へくだる。道はしっかりととしていて、先日の台風で落とされたのか、道には木の葉やヤマボウシの実が散乱している。春には道脇に、イワカガミ・カタクリ・オオバキスミレやバイカオウレン

も顔を出し、シヤクナゲの花も楽しめるのに、この時期に花の姿はない。所どころで上方にナナカマドの赤い実を見るだけだった。展望はほとんどなく、両側は雑木の林、ササのやぶ、ブナ林と目まぐるしく変わっていく。やがて、左からの尾根が近づくと、ピークを左に捲いて斜面を横切る。その尾根にのる手前には絶好の展望台があり、琵琶湖に浮かぶ竹生島がすぐ目の下に見えていた。ここで最後の休憩をとり、残っていた飲み物で喉を潤す。何にも例えようもなく、ただ「ウマイ！」の一言。

ジグザグに道をくだり、川上平の林道へ出る。川上平は小盆地になっていて、中央部に平池と呼ばれる湿地帯の池がある。季節に応じカキツバタ・サギソウ・リンドウ・トリカブトが咲くと聞いているが、それらしい花はどこにも咲いていなかった。

長い林道を歩き、淡海広場へ戻る。道は舗装されていて、道脇にはノリウツギが花を開いており、早や、ガマズミも実を赤く染め始めていた。足元に咲く青色のツユクサ、淡ピンクやボタン色のゲンショウウコの花が可愛らしい。

▲コースタイム▼
淡海広場(25分) 尾根(25分) 滝谷山(1時間10分) 近江坂(20分) 標高点8744m 西近江展望台(1時間30分) 川上平林道(35分) 淡海広場
▲地形図▼2万5千 熊川

三角点が存在していることは間違いないので、次回の熊川の2万5千分の1の地形図発行時には、滝谷山の所に、△の印が確実に載ることだろう。それにしても、滝谷山の「三角点亡失」と国土地理院へ連絡したのは良かったのだろうか？
(平成13年9月13日歩く)

15時5分、長い林道歩きを終え車に戻った。休憩所で残り物を飲み食べ、残品を整理した後、解散。16時前、石田ダム經由で帰途についた。

早速その翌日、国土地理院近畿測量部に「滝谷山に三角点がある」と連絡した。その後国土地理院から「3等三角点(川上)の基準点台帳を正常に戻し、次回の地形図修正までに確認を行い、その結果に基づいた表示をする」との返事をいただいた。

細尾根を過ぎると尾根は広くなり、やっとすばらしいブナ林が目前に広がった。直径50〜60cmもある太いものから細いものまで、大小様々な太さのブナが点在している。金谷さんの記憶通り、間違いないブナの自然林が残っていたのである。そのピークから北へくだると、池と見間違えるような大きなヌタ場があった。その周りには何の動物か足跡が無数につい

東へ振っている。頭の大きさは正規のものより少し大きく15・5cm四方。北西の角が欠けているのが惜しい。

三角点から楠道までのササを刈って道をつくる。まだ時刻は10時25分。30分も雑用で過ごしてしまっただけ。食事は早速過ぎるので、先へ尾根を進むことにする。尾根を左方向へ進み、次のピークまで来ると杉の林は切れる。そのまますすぐに進みたくなるような地点だった。ここでストップをかけ、地形の確認をして右の尾根にのる。尾根は細くシヤクナゲの群落。右に左にその木を避け、くぐって進んで行く。あたりを見てもブナの木は見当たらず、金谷さんの言っていたブナ林はなくなっているのではないかと半ば諦めの境地だった。

北へ続く尾根はゆるやかで、情緒あるブナ林。足元にはベニタケ・テングタケ・ムラサキアブラシメジモドキ・ムラサキフウセンタケと、多くのキノコが顔を出している。フウセンタケはあまりにも黒茶で食べる気にはならないが、ムラサキアブラシメジはおいしい。晩のおかずに使って帰ることにした。もちろん、料理するのも食べるのも自分だけだが、ゆっくりとあたりの雰囲気を楽しみながら、尾根を北へと移動して行く。歩くと左手の木々の間から、三重嶽が大きく黒々と見え隠れしている。やがて、二つのヌタ場を過ぎ、登りにかかるると近江坂へと飛び出した。

近江坂は箱館山山麓の酒波から福井三方五湖南方の能登野に越す長い峠道である。織田信長が朝倉氏を攻めた時代、山手米という一種の税を課したが、酒波寺では納税できなかった。それで、このあたりの山を三方に与え、三方から山手米を酒波寺へ寄進させた。それといっしょに三方の成願寺開神社にあった大般若経599巻が酒波寺へ納められた。それ以来、三方の成願寺から近江坂を通過して

酒波寺へ経巻を拜みに通う慣習ができたと言われている。それは、昭和の初め、自動車を利用されるまで続いていたというから、近江坂は古くから続いた由緒ある古道だといつてよい。ただ、現在では、ピラデスト今津への道が出来たので、酒波から平池のある川上平の間の古道は消えてしまっている。

この近江坂を北へ登り、近江坂のなかで展望が最高である場所の一つ、標高点8477mの南の広場で昼食とした。萱や藪木が大きくなり、展望が失われつつあるが、立って見るぶんには東から西南への景観はすばらしい。西の林の間から三重嶽を覗き見し、その左手に湖北武奈ヶ嶽が、今、踏んできた滝谷山との間から二ノ谷山が頭を出している。遠くには比良の山々が頭を雲の中に突っ込み、それに向かっているかのように近江坂の尾根がうねっている。左には琵琶湖が光り、竹生島がすぐ目の前に黒く浮かんでいる。

ゆっくり飲んで食べて、至福のひとつきを通す。周りを見渡すと、ヤマボウシが点々と赤い実を付けている。果実酒をつくるつもりでその実を採り始めると、

東へ振っている。頭の大きさは正規のものより少し大きく15・5㍍四方。北西の角が欠けているのが惜しい。

三角点から袖道までのササを刈って道をつくる。まだ時刻は10時25分。30分も雑用で過ごしてしまつた。食事には早過ぎるので、先へ尾根を進むことにする。尾根を左方向へ進み、次のピークまで来ると杉の林は切れる。そのまままっすぐに進みたくするような地点だつた。ここでストップをかけ、地形の確認をして右の尾根にのる。尾根は細くシクナゲの群落。右に左にその木を避け、くぐって進んで行く。あたりを見てもブナの木は見当たらず、金谷さんの言っていたブナ林はなくなっているのではないかと半ば諦めの境地だつた。

細尾根を過ぎると尾根は広くなり、やっとすばらしいブナ林が目の前に広がつた。直径50㍍60㍍もある太いものから細いものまで、大小様々な太さのブナが点在している。金谷さんの記憶通り、間違いないブナの自然林は残っていたのである。そのピークから北へくぐると、池と見間違えるような大きなヌタ場があつた。その周りには何の動物か足跡が無数につい



獣の臭いがブンブンするブナ林のヌタ場にて

早くも「出来上がったときには飲ませてほしい」と予約が入る。

13時ちようど、下山にかかる。この近江坂を北へたどれば大御影山へ行けるが、今回は南へくだる。道はしっかりとしていて、先日の台風で落とされたのか、道には木の葉やヤマボウシの実が散乱している。春には道脇に、イワカガミ・カタクリ・オオバキスミレやバイカオウレン

ていて、獣の臭いがブンブン。

北へ続く尾根はゆるやかで、情緒あるブナ林。足元にはベニタケ・テングタケ・ムラサキアブラシメジモドキ・ムラサキフウセンタケと、多くのキノコが顔を出している。フウセンタケはあまりにも黒紫で食べる気にはならないが、ムラサキアブラシメジはおいしい。晩のおかずに採って帰ることにした。もちろん、料理するのも食べるのも自分だけだが、ゆっくりとあたりの雰囲気を楽しみながら、尾根を北へと移動して行く。歩くと左手の木々の間から、三重嶽が大きく黒々と見え隠れしている。やがて、二つのヌタ場を過ぎ、登りにかかる近江坂へと飛び出した。

近江坂は箱館山山麓の酒波から福井三方五湖南方の能登野に越す長い峠道である。織田信長が朝倉氏を攻めた時代、山手米という一種の税を課したが、酒波寺では納税できなかった。それで、このあたりの山を三方に与え、三方から山手米を酒波寺へ寄進させた。それといっしょに三方の成願寺開見神社にあつた大般若経599巻が酒波寺へ納められた。それ以来、三方の成願寺から近江坂を通過

も顔を出し、シクナゲの花も染しめるのに、この時期に花の姿はない。所どころで上方にナナカマドの赤い実を見るだけだつた。展望はほとんどなく、両側は雑木の林、ササのやぶ、ブナ林と目まぐるしく変わっていく。やがて、左からの尾根が近づくと、ピークを左に捲いて斜面を横切る。その尾根にのる手前には絶好の展望台があり、琵琶湖に浮かぶ竹生島がすぐ目の下に見えていた。ここで最後の休憩をとり、残っていた飲み物で喉を潤す。何にも例えようもなく、ただ「ウマイー」の一言。

ジグザグに道をくだり、川上平の林道へ出る。川上平は小盆地になつていて、中央部に平池と呼ばれる湿地帯の池がある。季節に応じカキツバタ・サギソウ・リンドウ・トリカブトが咲くと聞いていたが、それらしい花はどこにも咲いていなかった。

長い林道を歩き、淡海広場へ戻る。道は舗装されていて、道脇にはノリウツギが花を開いており、早や、ガズミも実を赤く染め始めていた。足元に咲く青色のツルクサ、淡ピンクやボタン色のゲンノショウコの花が可愛らしい。

酒波寺へ経巻を拝みに通う慣習ができたと言われている。それは、昭和の初め、自動車を利用されるまで続いていたというから、近江坂は古くから続いた由緒ある古道だといつてよい。ただ、現在では、ピラデスト今津への道が出来たので、酒波から平池のある川上平の間の古道は消えてしまつている。

この近江坂を北へ登り、近江坂のなかで展望が最高である場所の一つ、標高点847㍍の南の広場で昼食とした。萱や藪木が大きくなり、展望が失われつつあるが、立って見るぶんには東から西南への景観はすばらしい。西の林の間から三重嶽を覗き見し、その左手に湖北武奈ヶ嶽が、今、踏んできた滝谷山との間から二ノ谷山が頭を出している。遠くには比良の山々が雲の中に突っ込み、それに向かっているかのように近江坂の尾根がうねっている。左には琵琶湖が光り、竹生島がすぐ目の前に黒く浮かんでいる。

ゆっくり飲んで食べて、至福のひとつを過ごす。周りを見渡すと、ヤマボウシが点々と赤い実を付けている。果実酒をつくるつもりでその実を採り始めると、

15時5分、長い林道歩きを終え車に戻つた。休憩所で残り物を飲み食べ、残品を整理した後、解散。16時前、石田ダム經由帰途についた。

早速その翌日、国土地理院近畿測量部に「滝谷山に三角点がある」と連絡した。その後国土地理院から「3等三角点(川上)の基準点台帳を正常に戻し、次回の地形図修正までに確認を行い、その結果に基づいた表示をする」との返事をいただいた。

三角点が存在していることは間違いないので、次回の熊川の2万5千分の1の地形図発行時には、滝谷山の所に、△の印が確実に載ることだろう。それにしても、滝谷山の「三角点」失」と国土地理院へ連絡したのは良かったのだろうか？

(平成13年9月13日歩く)

Aコースタイム

淡海広場(25分) 尾根(25分) 滝谷山(1時間10分) 近江坂(20分) 標高点874㍍南、西近江展望台(1時間30分) 川上平林道(35分) 淡海広場

△地形図√2万5千熊川

藤白山系を歩く

かがみいしやま おおのじょう
鏡石山から大野城跡

コースとコースタイム JR海南駅(60分)〜森林公園雨の森(30分)
 別所茶屋跡(30分) 鏡石山(40分) 熊尾寺山(35分) 大野城跡(60分) 藤白峰(45分)
 JR冷水浦駅(徒歩13分約5時間) 先達白川家治氏

中村敏文

① 幡川山禪林寺(海南市幡川)
 JR天王寺駅8時13分発で和歌山駅で乗り換え、9時33分に海南駅に着く。駅から東へ弁田児童会館前を経て30分で海南高校前へ着く。500ほど東へ進み、右折して川を渡って薬師谷川沿いに10分も行くと、禪林寺へ着く。

日方川南側の低い丘陵の麓にこじんまりと整った高野山真言宗の禪林寺は、聖武天皇の勅願で唐の僧、為光上人が開いた薬師如来を本尊とする名刹である。寺伝には鎌倉時代に幡川谷一帯に僧坊一二をもつ大寺であったとある。室町時代には紀伊国守護所が府中より大野郷へ移され、当寺は守護の祈願所となり、守

護の保護をうけて寺勢を張っていた。戦国末期の秀吉の紀州進攻には根来寺にくみして攻撃され、方六間半の金堂を始め、伽藍を焼失し寺傾も没収された。近世以降は時を重ねて復興し、唐山隨一の薬師如来を安置する寺として近郊近在から薬師院と呼ばれ親しまれている。

② 森林公園雨の森(海南市幡川)

禪林寺から薬師谷川沿いに南へ続く鏡石山自然歩道に入り、20分ほどで森に囲まれたコッテの滝へ到着する。落差は低いが人気のある滝で、森林公園の中心となっている。森林浴をする人の憩いの場であるハイキングの中継地となっている。

③ 別所茶屋跡(別所)

北の幡川から別所越えて茶屋跡に至り、南の西光寺越えて引尾村へ向かう道筋には茶屋跡を示すものは何もないが、草が刈られて休憩できるよう、付近一帯が整備されている。

茶屋跡から15分も行くと左手に西光寺



鏡石山・大野城跡付近略図

跡があつて、さらに10分ほど進み、右へ折れて尾根へ上ると下津町域である。鞍部から15分も南へ山坂を上ると、金屋・下津町に跨がる鏡石山の頂である。



鏡石山自然歩道

④ 鏡石山(下津町引尾・金屋町)
 自然林におおわれた山頂の550以上の三角点付近は草の生えた広場で、北側に山名の由来となった鏡石という岩がある。昔、この岩がピカピカ光って魚が寄りつかないで、大崎の漁民が墨をぬったという。海の見える西方は見晴らしがよいが、三方は樹木に遮られよくない。

鏡石山自然歩道を引き返し、熊尾寺山へ通じる尾根道に入る。山頂から北へ2分足らずの尾根道は東と西側の見晴らし

がよく、鏡石山山頂から鞍部を経て30分ほどで熊尾寺山の山頂へ上がる。

⑤ 熊尾寺山から大野城跡

(海南市・下津町境界)

543以上の山頂には三角点が短い草の生えたやや広い広場の中央に置かれ、広場周囲の自然林が展望を遮るので大野城跡へと西北へ向かう。左手の440以上の飯盛山を廻るよう歩き、藤白山系の海南市との境界をなす尾根道を西へ30分も伝うと、藤白山系最高所の大野城跡へ着く。

400年前後の藤白山系の一番高い大野中と鳥居の境界の峰が大野城東城跡で500以上の鳥居と藤白境界の423以上の峰が西城跡である。「紀伊名所図会」には東の城が大野城、西の城が藤白城と記載してある。

東の城は430以上の峰に東西23以上南北28以上の曲輪跡が残り、東北側の2以上の段に12以上四方の付曲輪らしい跡がある。さらにその北側に20以上四方の曲輪が空堀を挟んで二つも残り、南北朝の山城では規模も大きくて立派である。

疎林のなかを歩いて西の城へ上がると

鏡石山山頂



公園から鏡石山自然歩道を20分も伝うと、左側に大野城主の立派な墓がある。このあたりは別所集落の西側山地で、自然歩道を数分南へ行くと茶屋跡へ着く。

新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/B6判368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を取めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/B6判360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド** (東日本編) 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/
第16巻 (西日本編) 川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9刷発売中/A5判320頁/定価各1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷B6判354頁/定価1680円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/
松本浩 共著
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編
B6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/
川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判313頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判288頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 第22巻 **阿武隈の山を歩く** 新ハイキング・ペンクラブ 著
A5判204頁/定価1680円 阿武隈の山115座の紀行とガイド
- 第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著
B5判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社**

●価格は消費税込み ●書籍でのご注文は送料当社負担

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13

電話/Fax 03-3915-8110

振替00130-9-146915

曲輪跡・空堀らしい場所は見当たらない。



大野城主の墓所

南北朝時代に南朝の紀州の拠点が仁義にあったので北方の攻撃に備え、藤白の峰々にはいくつもの砦が築かれた。建武元年から南朝方の浅間入道沙弥覚心・忠成が紀伊国守護として在城し、その後、保田山城判官宗兼が守護として在城していた。

北朝方の紀伊国守護となった山名義理が大野城を占領して城主となり、その後には室町幕府の紀伊国守護は大内氏、畠山

氏と動き、大野城主も入れ替わっている。南北朝後期に紀伊国守護所が現和歌山市域の府中から大野郷に移り、大野城主は守護か守護関連の人が在城している。その後、大内義弘が大野城へ逃げこんだ山名義理を攻撃した騒乱もある。

西の城から尾根と山腹を伝う山道は、車道が下津町域に平行して完成したせいか荒れたままで、藤白峠までは2・5kmの距離だが、歩きづらくて小1時間もかかった。

⑥ 藤白峠 (藤白、下津町橋本)

熊野街道は藤白神社近くの藤白王子から有間皇子の殺害された藤白坂を登り、熊野道の難所藤白峠を越えて橋本の橋本王子へくだった。峠のすこし南に藤白山延命院と号する地藏峰寺がある。

重文の本堂の正面側柱に「永正十」の銘が残る室町中期の建物で、重文指定の本尊は石像地藏菩薩で背銘に「勸進楊柳山沙門心静」「三三三三年の元亨三十年月二四日」と、大工藤摩守行経の銘文がある。南北朝の兵乱で本堂と本尊は残り、羽柴秀長・浅野幸長が寺領十石を保護し、紀州藩も寺領を安堵している。近世は熊

野詣での旅人から峠の地藏さんと親しまれ、現在は観光の寺となっている。

地藏堂の裏は御所の芝といわれる景勝地で、花山院の熊野行幸時の頓宮跡である。紀淡海峡と淡路・四国が眺望でき、眼下に藤白浦・冷水浦を見下ろす休憩地である。

⑦ 冷水 (海南市冷水)

地藏峰寺境内に残る塔下王子跡を見て、藤白山地が海に迫る傾斜地を西南方向2km先のJR冷水浦駅へくだる。急坂のある難儀な下り道で、健脚者は30分余りで駅へくだったが、後尾は30分も遅れた。

藤白山地の西斜面に張りついた冷水浦駅は駅前に駄菓子屋が一軒のみ。明治までは藤白と塩津間は陸路がなく、藤白峠越えが紀州縦走の唯一の道筋であったが、現在はJR線と国道42号が海沿いの冷水で多くのトンネルが掘削されて通じている。

海南市の冷水浦や藤白浦の景勝地の海岸は陸路造成で埋め立てられ、藤白山中から眺めた住友鋼管・関西電力・和歌山マリーナシティの埋立による自然破壊が気になる。

伊賀上野を訪ねて

松永恵一

月見の献立

自然に恵まれたわが国では、人々は樹や花を愛で、自然の美しさに心を驚かして生きてきた。古来慣れ親しみ、感動してきたものの一つに月がある。明治までは、月の動きを中心とした暦（太陰暦）を使っていた。今でも旧暦と呼ばれ使われている暦は、一日がツキタチつまりついたちで、わずかに月が見え始め、三日月となっていく。十三日は十三夜として、その美しさを愛し、十五日が十五夜で満月となる。俳聖芭蕉は元禄七年（1694）8月15日、伊賀門人衆の出席で成った新庵（無名庵）で月見の会を主催、門人多数を招き、みずから「月見の献立」を記した。

八月十五日夜

一、芋煮

酒

のつべい せうが ゆ

一、煮物 ふ 吸物 つかみたうふ

こんにやく しめじ

ごぼう めうが

木くらげ

里いも

中ちよく

もみふり くるみ

かうの物

肴

にんじん

焼初茸

しぼり汁

「俳聖殿」



す すり山ノいも

しやうゆ

くわし かき

吸物 松茸

冷めし

とりざかな

竹とケシの花を書き散らした反古の裏に書かれ、诗情を添えている。

自然に感動できる豊かな心を持ち続けるためにも、自然を守りたいものです。

芭蕉翁生誕の地

「正保元甲申の年（1644）、此国上野の城東赤坂の街に生る」と『蕉翁全伝』は記す。芭蕉が生まれ、育ったと伝える家が赤坂町に残る。通りに面した格子構えの古い町家で、「古里や晴のをに泣としのくれ」の句碑が建てられている。寛文二年（1662）19歳の時、藤堂藩伊賀付侍大将・藤堂新七郎家に奉公に出る。台所用人とも料理人とも伝える。京都の北村季吟に俳諧を学んでいた2歳年上の嫡子良忠（俳号蜂吟）に触発され、俳諧に足を踏み入れる。

廿九日立春なれば、

春や来し年や行けん小晦日

寛文六年四月、良忠が他界、藤堂家を離れる。寛文十二年一月、処女撰集・三十番発句合「貝おほひ」を上野天神宮へ奉納、俳諧師として世に立つ決意を示し、伊賀を去り江戸へと旅立つ。江戸へ出てからも故郷伊賀上野へは旅の途中たびたび帰郷している。

生家の裏庭には釣月軒と呼ばれる建物がある。文机と行灯が置かれた質素な部屋に、若き日の芭蕉の姿が時を超え蘇ってくる。

忍者の里

四方を険しい山に囲まれた伊賀は「忍者の里」と呼ばれる。密偵、情報収集、後方擾乱、謀計、暗殺などゲリラ的戦術を得意とする忍者と呼ばれる集団が育った。黒覆面に黒装束、細梯子、手裏剣、まさき、鎖鎌、携行食、俊敏な動き、木遁、火遁、土遁、金遁、水遁と呼ばれる五つの逃げ出す術「五遁の術」。超人的な技で敵と戦う忍者の姿は、「立川文庫」の猿飛佐助や霧隠才蔵などと重なって心を引きつける。

「音モナク、臭モナク、知名モナク、勇名モナシ。ソノ功、天地造化ノ如シ。」江戸前期に伊賀忍者の血をひく藤林保武が記した忍者の秘伝書「万川集海」は、優れた忍者をこう表現した。伊賀流忍術の根本は「気を見て虚を突け。恐れるな、侮るな、考えすぎるな。」臨機応変に神出鬼没するのが極意とされる。食・香・薬・氣・体の「忍者五道」は、ストレス社会を生き抜くヒントであり、忍びの不文律「治にいて乱を忘れず」も現代に通じる教訓である。

忍者の町ならではの食品「かたやき」、「養肝漬」が今に残る。

上野（白鳳）城

黒沢明監督作「影武者」のロケにも使われた上野城は、「白鳳城」と呼ばれる美しい城。関ヶ原の戦いの後、目前に迫る大坂の陣に備えるため、家康が交通の要衝伊賀上野の地に、城造りの名人津藩主・藤堂高虎に築かせた。高虎は慶長十六年（1611）、筒井氏の城を大改修し高き日本一を競う30計の高石垣を築き、五層の天守閣を築こうとした。翌年、大暴風雨に見舞われ、竣工直前の天守閣は倒壊。以後、豊臣家の滅亡、城普請の禁止などで再建されることはなかった。

昭和十年（1935）上野市の政治家・故川崎克氏は私財を投じて木造白亜三層の天守閣を再建した。一、二階は郷土資料を展示し、三階は横山大観ほか名士の色紙46点が天井に飾られ、伊賀盆地の展望を楽しむことができる。

上野城跡は上野公園として市民の憩いの場となり、俳聖殿や伊賀流忍者博物館、芭蕉翁記念館などがある。

鉄砲町や忍町という城下町らしい町名が残る。現存する武家屋敷は赤井家・入江家の二屋敷となったが、街角では城下町の名残を見つけることができる。



「上野城」

コース概観

伊賀流忍術や旅に生き、俳聖・芭蕉の故郷で有名な伊賀上野は、山に囲まれた小さな盆地の城下町。街の北側の丘には、白亜三層の上野城が端麗な姿を見せている。銀河鉄道999などで有名な松本零士デザインの忍者列車に乗り、季節の美しさ、街角に秘められた歴史の声、旅に生き旅に死んだ漂泊の詩人を訪ねてぶらり散策に出かけてみた。

近鉄大阪線伊賀神戸駅乗り換え、もしくはJR関西線伊賀上野駅乗り換えで上野市駅下車。駅舎は大正ロマンを伝える西洋風のモダンなスタイル。北方面へは地下道をくぐる。市庁舎前に「自然 注日 従天 謂道 従道 謂自然 矣 東野 芭蕉 菜門」の碑が建つ。伊賀・信楽古陶館には、室町から江戸時代にかけての伊賀・信楽の名品古陶が展示されている。裁判所・学校などの公共施設が立ち並び、北側の小高い丘には上野城の緑に囲まれた美しい静かな上野公園がある。

三重県立上野高等学校は、明治三三年に旧三重県第三尋常中学校校舎として竣工した。白いモダンな校舎は、現存する数少ない明治の中学校建築。作家・横光利一が通い、小説「雪解」に登場した旧制三中。登校前の着替えの最中、下宿の庭を隔てた家に榮子を見つけた卓二は、シャツの石鹸の匂いに恋心を重ねる。

旧崇徳堂は国史跡。文政四年(1821)に、十代藩主藤堂高堯が津の藩校有造館の支校として創建した。正面の御門は赤門として親しまれている。白鳳門をくぐり城内へ入る。藤堂高堯が築いた天守台に木造建築による模倣復

興された上野城は、「昭和の城は、攻防作戦の城塞ではない。攻防の城は滅ぶことがあっても、この産業の城は人類の生活のある限り不滅である。」という復興者川崎克氏の理想をもとに、「伊賀文化産業城」という別名がつけられている。芭蕉の句碑は城の裏側に建立されている。さまざまの事もひび出す桜かな

上野城の石垣の上から上野高校が見える。校舎を見下ろす石垣の上に「横光利一青春碑」が建立されている。

「若き 横光利一君 ここに 想ひ ここに 歌ひき 川端康成」

裏階段を下りる。俳聖殿は芭蕉翁の旅姿をあらわす聖堂で、昭和十七年(1942)芭蕉翁生誕300年を記念して故川崎克氏が私費を投じて建設した。屋根は旅笠、八角形の扉は袈裟、回廊の柱は行脚する翁の杖、「俳聖殿」の木額は顔を表す。堂内には川崎克氏作の伊賀焼の芭蕉翁の等身大座像が安置されている。芭蕉翁の命日である10月12日に芭蕉祭が盛大に行われている。

忍者屋敷は、伊賀国友生村高山にあった土家屋敷を移築したもの。一見普通の農家と変わらないが、驚くような仕掛け

に出会う。ドンデン返し、隠し階段など、忍者装束の「くの一」の案内で体験できる。地下の忍術資料館は、潜入から脱出までを実際に忍具に触れながら体験でき、ワクワクさせてくれる。

芭蕉翁記念館は、鉄筋コンクリートのモダンな高床式平屋造。昭和三四年俳聖松尾芭蕉の偉業を後世に伝えるため建設された。芭蕉の資料などが展示され、館内の芭蕉文庫には芭蕉の真蹟や俳諧関係資料が収蔵されている。

上野城の見所は、何といってもお城の



西側にある高石垣。「井楼積み」という工法で積まれた高石垣は、水面からの高さが30層にも及ぶ。

堀越しに高石垣を眺めた後、旧小田小学校本館の見学に向かう。明治一四年に建てられた洋風の小学校で、現存する小学校校舎として三重県で最古のもの。正面ポーチは円柱、玄関入口上部には竜の彫刻、窓にはギヤマンの色ガラス。二階には初等教育資料を展示している。

日本三大仇討の一つ「伊賀越健屋の辻の仇討」で知られる健屋の辻に足をのばす。寛永十一年(1634)7月、荒木又右衛門が義弟の渡辺数馬を助けて、宿年の仇、河合又五郎を討って本懐をとげた地。

健屋の辻から昔の鉄砲台の高台をつなぐ塔西坂を上り、西大手門へと向かう。この辺りが昔の「西の丸」で侍屋敷が並んでいた。今は静かな住宅街。上野城の表門として使われていた西大手門跡から旧崇徳堂に戻る。赤門・上野城天守が正面に見える。旧上野警察庁舎の明治の洋館建築に出会い、市役所前を通り芭蕉翁生家へ向かう。芭蕉の遺髪を納めた故郷塚に詣で、芭蕉が処女句集「貝おほひ」

を奉納した上野天神宮に参る。10月23日から25日にかけての上野天神祭は400年の伝統をもち、笛や太鼓のはやしのおかげで、神輿や百数十体の鬼行列、楼車の練行などが荘重華麗にくりひろげられる。芭蕉がよく訪れた服部士芳の養虫庵は、「みのむしの音を聞にこよ草の庵」の句から名付けられた。上野市駅の旅姿の芭蕉翁は夕日のなかに立っていた。

▲コースタイム▼

近鉄上野市駅(10分) 上野城(5分) 俳聖殿・伊賀流忍者博物館・芭蕉記念館(10分) 上野城高石垣(10分) 旧小田小学校本館(30分) 健屋の辻・数馬茶屋・伊賀越資料館(15分) 旧崇徳堂・上野高校(15分) 芭蕉翁生家・芭蕉翁故郷塚(30分) 養虫庵(25分) 近鉄上野市駅 ▲地形図▼2万5千1:1上野 ▲費用▼JR京都駅〜近鉄上野市駅

近鉄上本町駅〜近鉄上野市駅 1330円
1260円

△問い合わせ先▼
上野市観光案内所 0595(24)0270

〈山のレポート〉

山の地名を歩く①

「愛宕山」(下)

西尾 寿一

では慶俊は何をしたのだろうか。

「慶俊は鳥辺野の死者の後世安穩を祈る愛宕寺の開祖とされている。この愛宕寺のちに珍皇寺と念仏寺に分離したものである。そして珍皇寺は小野望を開祖とし、念仏寺は千観上人を開祖とする(大正二年にこの念仏寺は愛宕山麓に移された)。したがって愛宕と慶俊とのかわりには、この愛宕寺であったことに注意する必要がある。ところが愛宕の読みが混同しやすく、これは愛宕山の開祖を慶俊と誤った第一の原因であると思ふ」とあって、愛宕山開山の慶俊説を誤りとする。ここで過去の愛宕山に関する由来説の大半がふるい落とされることになる。京都には風葬の習俗があったことは古文獻に明らかであるが、東が鳥辺野で西が化野であった。風水思想で葬地は鬼門をさけて西北の愛宕下の化野であり、反

対側の東南には鳥辺野があった。化野(あだし野)は葬地一般の名であったから鳥辺野もあだし野であった。

その鳥辺野に愛宕寺があったために問題がややこしくなったのである。そして前述のように後世愛宕寺が分割され愛宕下に移されることによって、あたかも慶俊が愛宕山を開山したかのような説が流れてしまったのだ。

次にアタゴの意義について、「あだしの意義は(はかない・かなしい)ということであるから、やがて墳墓地帯を指すことになる。そこで「アタ」の語幹は、アタシ・オタシからアタゴ・オタキへ変化したとすると、あたこの山とおたぎの郡(鳥辺野付近)はともに葬地に関係があるために同様に称されたと考えられる」とある。

あだし野は死霊の集まる場所であった。その地に寺を建立し供養するのは後年のことである。仏教以前の京都には人が住み死者をとむらう装置があったはずである。それが祖霊崇拜であり、死者の霊を供養するために聖火をともなったのであろう。その後死者と家族の間に特別の役割をする行者・山伏が入って山中に常住

することになるのは成り行きである。

「これは後に愛宕火になったり、火の神阿彌突智神をまつるようになった基であろう。また仏教が伝来すると、原始宗教の基礎であるこの祖霊信仰に基いて愛宕山は世界救済の地蔵菩薩を本地とする(中略)そこで開山とされているのは役行者と雲上人泰澄である。この二人が山に初めて踏み分けた所に、大天狗が群々と現れたが、行者の験力に降参して、大峯の前鬼後鬼のように従者になったという」とあって、開山以前に愛宕山にはたぐさんの山伏がいたことがわかる。彼らに従えたということは新しい制度に組み入れることを意味するので、この時代を平安京の発展過程と重ねてみるとおよそその時代が算出できる。

平安初期には鎮国家道場とされ、他の有名山岳道場と共に山岳霊場・修験道場として貴族たちの寄進、または出家の場ともなったことは十分うなずける。

先に「延喜式」の「……今山城国也」を取り上げたが、これは愛宕信仰が丹波から山城へ移転したことを告げていることと前にも述べた。それは因分と原にあった愛宕神社がどう考えても現在の愛宕山

ではなく、地蔵山を想定した配置になっていることにある。地蔵山には現在、何の遺物も残されていないが、この山の風格は現愛宕山をしのいでいる。この山にはたしかに何かがあったのだ。その遺構がそっくり京側に移されたか、完全に破壊されたかはいっさい闇のなかである。

論文は「この山中ののぞき岩とかごまの谷とか修行場を思わせるような地名の伝承を原村で聞くことができた。したがって地蔵山は丹波の住民の山の祖霊信仰をあつめ(中略)死霊ゆかりの本地地蔵菩薩の名を後から受けたのであろうと思われる。この説を採用すると丹波から山城への愛宕信仰の移動が理解できる。この現象は平安京の建設にもなっており、山城側に人口が密集し、その宗教活動が盛んになったからだろう」と述べている。

愛宕山はたしかに移動しなければならぬ理由があったのだ。一つは地理的にこの位置しかないのだし、都の方位の問題もある。この戌亥も「白猪」となってシンボルとなる。愛宕五山(朝日峯・大鷲峯・高雄山・龍上山・賀茂山)は明らかに中国の五山を意識したものである。愛宕山は、死霊信仰に始まり、仏教と

習合し、勝軍地蔵の時代と三区分できるが、それぞれが新しく信者を獲得することに成功したが、現在が最も不遇の時代であるかもしれない。ことに勝軍地蔵は戦国時代の花形であって、有名な丹波の主であった明智光秀が本能寺に向かう前に愛宕山に登ったことになっているが、本来は丹波側里宮だったのだろう。戦国時代に最も多く愛宕信仰が全国の山に勧請されていき、地方の武将の頼みとすることとなったが、それが各地に残る結果となった。

最後に愛宕山の地名・由来をもう一度整理しておくことにする。

- 一、山頂に愛宕神社があり、アイヌ語・レプチャ語の説をあげる(「コンサイス日本山名辞典」)。
- 二 アタゴ・オタギは峡間の地形用語であり、オタギらしい地形による(地名辞典多数)。
- 三 京都の東西にオタギ郷があり、山城と丹波に共通する愛宕信仰があった(「古代地名を歩く」吉田金彦)。
- 四 アタゴの地名は裏側を示すアテが元で命名者からみて裏に相当する

位置の意味から丹波側の信仰が原因(地名の歴史)柳田国男。

五 アタゴは山城の東西にあった葬地、あだし野からアタシ・オタシを経てアタゴ・オタギとなる。鳥辺野の愛宕寺が分離し愛宕山麓に移ったことから、また愛宕信仰の元は丹波の地蔵山であるとされる。その他古文書・文献多数を研究し実証的に調査されている(「愛宕山の山岳進攻」アンヌ・マリ・ブツシイ(山岳進撃)アンヌ・マリ・ブツシイ(山岳進撃)アンヌ・マリ・ブツシイ)。

以上みてきた愛宕の山名由来はむろん五が最も正確かつ実証的である。愛宕研究はこの論文につけるのだが、小生は四の柳田説も捨て難いのである。アテが命名者の彼方にあるという洞察力はすばらしく、これによって、この山の形状など、いわば土地観のある小生の直感が働き、愛宕移説もすんなり納得できる。むろん直感などより実証的な研究が正道であるにちがいないが、ある程度まで進んで壁に当たった場合、この直感が救ってくれることが多い。今度の件では、五を採用するとして四を加えたものにしたのである。

〈山のレポート〉

〈山・詩・夢〉

大聖寺・深田久弥

紀平 龍雄

「日本百名山」の著者で、山の文学者深田久弥はたびたび故郷のことを書き、そこから仰ぎ見る白山をしきりに自慢している。だれの話でも自慢話はあまり感心しないが、なぜか故郷の、まして山の自慢はいやみがなく、聞いていて楽しい。「日本百名山」の「白山」の項はこんな書き出しである。

日本人は大ていふるさとの山を持って
いる。……私のふるさとの山は白山であ
った。白山は生家の二階からも、小
学校の門からも、鮎釣りの川辺からも、
泳ぎに行く海岸の砂丘からも、つまり
私の故郷の町のどこからでも見えた。
真正面に気高く美しく見えた。それは
名の通り一年の半分は白い山であっ
た。

さらに「雪の中の新年」という随筆で
は小学生時代を回顧し、もう少し具体的
に故郷と山を自慢している。

男子は玉を練るが如く心身を練り、女子
は鏡を磨く如く情操を磨く、後輩への
深田の願いだらう。
小学校の隣に江沼神社があり、久弥の
少年時代の恰好の遊び場だった。ここ
に深田の文学碑が建てられている。深田の
死後、郷里の知人たちの口から建碑の話
が出た。「そのようなことには批判的
であった故人の意向を痛に辞退しました。……
(しかし)東京嫌いの人の碑を転変の激し
い東京に建てるのはナンセンスだけれど、
生涯を前向きな姿勢で貫いた一人の男の
碑が、愛した故郷の片隅に知己の善意に
よって出来るなら、意義があるのではと
考えるようになりました」(志げ子夫人)。

山の西を顧みて
一つの山を終りけり
何の浮のわが心
早も急かるる次の山
本を半開きに立てた形の御影石の碑で、
その右頁の肩に詩が焼き付けられた陶板
がはめ込まれている。少し雪が積もり、
供えられた花がまだ新しくあった。

その近くに深田の生家があり、実弟弥
之介氏、ご子息へと継がれて、今も文具
店と印刷店が営まれている。三上さんの

に故郷と山を自慢している。

小学校では(元旦に)四方様の式があっ
た。まだ羽織・はかまの時代であった
から、私たちはシャツから、つまがけ
のかかった足駄まで新しいものづくめ
で、式に並び、一包みの菓子をもらっ
て校門を出ると、真正面に純白の白山
が神々しく輝いていた。

1910年(明治43)頃、石川県大聖
寺(現加賀市)町立錦城小学校の話であ
る。当時、正月になると子供たちは真
新しい服装で登校し、四方拝という儀式に
出たらしい。帰りにもらう紅白の饅頭
も嬉しかったが、校門を出た久弥少年に
は真正面に純白に光る白山が一段と神々
しく見えた。どんな光景なのだろう、今
も神々しく輝いているだろうか。それに
深田久弥の「山の文化館」というのがで
きたらしい。これも見てみたい。

温泉保養と北国の雪景色見物をかねて
大聖寺へ出かけた。前日の天気予報では
北陸地方は大雪が報じられ、少し心配し
た。そしてJR湖西線を走る頃、サンダー
バードの窓からの眺めは激しい吹雪だ。
しかし福井県を過ぎ、石川県に入っても、
それほど積雪でないのは予想外だった。

同級生がここに嫁いで若奥さんになっ
ているというので、案内してもらった。弥
之介氏の奥さんいろいろな話をうかがっ
た。深田を偲んで今も多くの人がここを
訪れるらしく、その都度ご夫妻が対応さ
れた。「山の文化館ができて、大聖寺を
訪れる人が増えるでしょう、楽しみです
もうわずかしかありませんが、これをど
うぞ」と「ふるさと—深田久弥遺稿より」
という小冊子と「深田久弥を愛する会」
の機関誌「丸山山房」をくださった。

帰りのJR北陸線の車中で読んだが、
3年前に弥之介氏が発行されたもの。い
かにも身内(妻・子供・弟)だけで編まれ
たものらしく、心温まる冊子だった。

深田久弥・山の文化館は昨年末にオー
プンした。土地の古い織物工場が改装さ
れたもので、深田好みの落ち着きを感じ
られる。門と玄関の間に見事な大イチョ
ウの樹があり、しばし見とれていたが、
カメラにはとても入り切らない。「樹齢
六百年を越します」と受付の人が教えて
くださった。「まだ資料などが完全に整
理しきれておらず、3月までは無料にし
ています。二階は畳敷きの談話室ですか
ら、寝転ぶなり、食事されるなり、夏な

「近年、このあたりも雪は少なくなりま
した」と宿の人が話してくれた。

錦城小学校の正門からは今も白山がくっ
きりと見える。ただし建物が増え、電
線が交差して、久弥少年が感じたような
神々しさには少し欠ける。小学校の裏山
の錦城山は、むかし山城のあった70坪足
らずの低い山だが、10坪ほど積雪した山
頂から見ると雪の白山はすばらしい。

案内してくれた三上さんはこの小学校
の出身で、ここに立つと急に話が活発に
なった。「私の頃は運動場の周囲には
柵などなくて出入り自由、それにこんな
道路もありませんでした。錦城山は運動
場の続き、私らの遊び場で、短い休み時
間にも、時間を惜しむように裸足で山に
登って遊んだものです。用務員さんの鳴
らす鐘が聞こえると大慌てに崖を降り降
りました」

1943年、深田が母校のために作詞
した校歌は今も歌い続けられている。

白山の峰はさやかに
強き子らここに集いて
玉とねり鏡とみがく
ああ錦城 かがやくほこり
「白山を仰ぎながら、錦城の強い子らが、

からお休みも、どうぞご自由にしてくださ
い。やさしい接待である。

深田愛用の登山服やテントやスキーな
ど、とてもいまどきのものとは比べよう
もなく粗末なのも展示されていて、深田
の人柄が伝わる。二階から眺める白山は
晴れているともっと神々しいだろうが、
この日はどんよりと曇りだだった。

(平成15年1月15日、17日歩く)

(付) 錦城小学校は少なくとも3人の著
名人を卒業させている。「雪の博士」中
谷吉郎がその1人であり、大聖寺の近
く片山津の柴山湖畔に「中谷吉郎・
雪の科学館」(1994年)がある。「深
田久弥・山の文化館」は先述のように昨
年12月末に開館された。その館長は山に
関する作品の多い作家高田宏である。高
田宏も錦城小学校の卒業であり、「海と
川の物語」(1996年、学陽書房)や最近
出版された「北国のこころ」は北国、と
りわけ大聖寺への愛着に溢れている。

* 深田久弥・山の文化館

JR大聖寺駅から徒歩20分

月曜日休館 入館料310円

☎ 0761(72)3313

〈山のレポート〉 2等三角点のある山

山形 歳之

三角点に関しては、いまさら説明の必要もないと思うが、測量の基点として設置された三角点には1等から4等までの等級がある(5等も1、2ある)。

最初に1等三角点が設けられ、その中間に2等、さらに3等・4等と設定された。当然1等より2等・3等、さらに4等点のほうが格段に多くある。

今では著名な山はもちろん、ほとんどのピークで三角点が見られる。測量の基点だからピークでない平地でも三角点は存在する。山に登る者にとって、最初から三角点は目標ではなく、山に登っているうちに見かけた三角点に興味を持ち、それが測量の基点で国が設置管理していること、そして等級が付けられていることを知る。また登山者にとって三角点は、自分のいる位置が確認できる重要な基点ともなる。

等級があるならやはり1等が一番に気

になるもので、どこに1等三角点の山があるのだろうか、その山を探すことになる。そうして探し出したなら、次は登りたくなるのは当然である。

調べてみると、1等三角点は全国に973点設置されている。先に記した通り、三角点は測量の基準点なので平地にもあり、登山に値いしない所もある。それなら標高何メートル以上を山と見るかは難しいところで、人それぞれ。本誌に連載された私の先輩の坂井久光氏は500メートル以上とされ、私の崇拜する故今西錦司博士は、400メートル以上にされていたようだ。

人というものは数に弱く、日本百名山の登頂にしてもそうだが、定まった数にこれを征服しようとし、数の定まっていなものはその数を増やそうとする。私もその中の一人にほかならないが、1等三角点に魅せられてからは、その数を増やすために日本全国を走り廻ることになった。しかしそれも終わりに近づくと、さて次はどのような山を目指そうかと考えた。だがやはり三角点とは縁が切れず、ならば1等の次は2等と、調べてみると、何とこれが全国に五千点に上る。こんな数の三角点にかかわっていたら、それ

の所在はすぐに判別できるだろう。もっとも、国土地理院の「点の記」をインターネットで調べれば確実である。

私はここ10年来本誌に、「2等三角点のある山」のガイドを発表してきた。発表は登山の結果であるが、よく知られた山やガイドブックがある山はなるべく除外した。「近畿百名山」や「関西百名山」に入っている山々は、いまさらガイドの必要もないからである。もちろんそれらの山々も登頂はしている。しかしそのため、発表してきたガイドは知名度の低い山々が多く含まれ、マイナー的になったと思われる。またコースガイドの基本から、あまり古い記録は参考に成りにくいので、過去2年くらいに限定した。知名度の高い山々は、私の登山歴の初期の段階で登頂を済ませているため、記述したくても掲載できなかった。もともと趣味の登山でもあるし、ピークハンターの登山をすることもあり、同じ山に登ることは少ない。

本誌に発表した数は100山に近いが、登った2等三角点はすでに500山に近づいている。地形図には三角点マークと標高だけで、

そ命がいくつあっても足りない。そこで近畿地方だけでもと調べると、左記のようになった。

(府県)			
	1等	2等	3等
滋賀県	11	41	275
京都府	7	70	424
大阪府	4	27	186
兵庫県	21	109	814
奈良県	8	50	332
和歌山県	14	66	490
計	65	363	2521

山行に使用する地形図は、府県に関係なく経緯度順に区切られ、一枚の地図に府県が跨がって記載される。このことは、使用する上で府県別より20万分の1地勢図で区別したほうが扱いやすい。そこで、近畿地方の六府県を含む20万分の1図を基準にして選び直してみた。

20万分1図	2等三角点
1 岐阜	83点
2 名古屋	87点
3 伊勢	55点
4 木本	7点
5 宮津	38点
6 京都及大阪	85点
7 和歌山	73点

山名もなく点名だけ。当然登山路の記載などない山々は、参考にするのは「点の記」(国土地理院所管の三角点の戸籍)のみ。ところが1等三角点ともかく、2等三角点にいたっては古い記録ばかりで、記載された登山路は荒れ果て道も定かでない。最近GPSが主体となり、徐々に三角点の必要性が少なく、測量に入らなくなっている。そのような山は、頂上に達しても山名表示も登頂板もなく、登山者の残影は何一つない。ただ無傷の苔むした標石が静かに眠っているだけ。展望もきかないやぶ山では、三角点マニヤはともかく、一般の登山者には登る価値はないに等しいと思う。

山麓に住む人たちでも、登ったことがないと言っこれらの山々では、もうガイドの必要も感じられない。そこでいちおう連載してきた「2等三角点のある山」を終了しようと思う。もちろん今後山行は続けるので、良い山があれば随時投稿します。長らく掲載していただいた新ハイン西誌と、読者の方に感謝します。

(平成15年春)

8 田辺	49点
9 鳥取	34点
10 姫路	77点
11 徳島	43点
計	631点

府県としては、福井県・岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・鳥取県・兵庫県・岡山県・香川県・徳島県の14府県に及ぶ。

近畿地方には高山が少なく、「日本百名山」に選定されている山は数山に過ぎない。しかし山のすばらしさや登行の難度は山の標高とは無関係で、高い山は知名度も高く登山者も多いので道も整備され、道標も完備。時間こそかかったとしても、登路に何の苦労もない。

しかし、数ある500点程の低い山では、登山路の記入のある所は数えるほどしかなく、地形図には山名もない。ただ△マークと標高が記載されているのみ。登山口を探すだけでも大変である。山は標高だけでは登路の難易度は測れない。

20万分の1図に△マークのある所は1等か2等で(2万5千分の1図には4等点まで記載されている)、地図には等級の記載がない。1等は数が少ないので、2等

特選コースガイド

湖東北部

(里山シリーズ16 伊吹)
寺と城跡で花に出会う

弥高山

一般コース(★)
長宗 清司

高天原伝説のある弥高山山上には、かつて弥高國寺があった。地元では弥高百坊と言われ、現在は、かつての院坊の内、西麓の上野に茶地院のみが残っている。往時の隆盛ぶりを物語る寺跡が今も山上一帯に存続して、昭和60年(1985)度、寺の跡地を調査したところ、本坊跡をはじめとして60有余の坊跡が確認された。東西約250m南北約300mの範囲内に、標高714mの位置にある本坊跡(土塁を含め東西の最大幅8m南北の最大幅59mの台形状の不正方形)を頂点として南面に広がっている。また、北東には行者谷と呼ばれる所に、役行者の陶製像が安置された入定窟(石窟)が

山腹にある。
一方、藤古川上流に位置する上平寺跡は、標高660mの山中にあり、東方には上屋敷。南の一の御門を経た城下町には武家屋敷・町屋敷・店民屋が建ち並び、河戸川から水路を引いて堀をめぐらせてあった。
さらに、西へ尾根筋を北へ登って本丸・二の丸・三の丸と小屋敷があり、主尾根の道は、北の伊吹社から南へ城下町を貫いて、越前道(北國脇往還)へとつながっていた。
古くは、南北朝期。南朝方のこの地方の拠点になった太平寺は、その後京極氏によって城郭化され、上平寺や弥高寺は太平寺城の付属施設として有事の際には城塞として利用されていたとみられる。
現在目にする土塁広場は、当時の寺院跡そのものでなく、京極氏により山城として造り替えられたもので、寺院を利用して構築された居城(上平寺城)と山麓の館跡群と谷を隔てた西方の弥高寺跡を含め、弥高上平寺城塞群と呼ぶ場合もある。伊吹山上に連なる尾根上には数十の遺構が確認されている。このあたり伊吹の三合目と同程度の標高だが、地質が異

弥高山上は土塁の草原(弥高寺本坊跡)



なるので、伊吹山では見られない草花に出会えてうれしい。

この弥高山へは、JR北陸本線長浜駅と、東海道本線近江長岡駅から、それぞれ「伊吹登山口」行きのバスがある。

バス停から、まず伊吹山登山口の三の宮神社に立ち寄ろう。そのあと山腹を東の弥高川沿いの道に向かう。川の上流には八重桜が美しい悉地院がある。採鉱場

へ行き交うクランプ街道のような道の脇にありながら落ち着いた雰囲気のある寺である。

採鉱場を過ぎ、百坊林道に入ると、早やこのあたりで白やピンクの小花を見受ける。水場をすぎ、峠状の展望台地をあとにすると、両側に樹木を見るあたりで林道を交差する山道に出くわす。左頭上

に小さな祠がある。弥高集落にある平野神社から来る古道だが、林道を大きく廻り込んだあと、この山道は吸収合流して、あとは林道の終点まで続く。左手に上る旧参道を登ると本坊跡に出る。礎石が点々と現れる。
広場は土塁の草原で山野草の宝庫。緑のなかにきらきらと輝く小花の群れと

大展望が楽しめる。
東側の下り道を進むと、杉木立のなかに行者窟があり、やがて尾根道と合流する。上平寺城本丸跡に出ると伊吹山ドライブウェイを望むすばらしい景観が、弥高寺跡からはまた違った味わいで展開する。



急な尾根道をくぐって伊吹神社に出る。泰澄が上平寺を建立したとき

鎮護の神として勧請し、京極氏は当地に城館を設けてから神領を寄進し、社殿を修造するなど尊崇した神社である。

帰路は、広城農道を伊吹登山口バス停まで戻る。季節によっては4kmのアスファルト道を歩くのが厳しい向きは、藤川の集落に出るとバス便があり、終着の「ジョイ伊吹」にて栗草風呂で汗流すのもよい(ただしバスの便数が少ないので注意)。(平成14年7月21日歩く)

▲コースタイム▼

伊吹登山口(45分) 悉地院(30分) 山道との十字路(25分) 林道終点(20分) 弥高寺本坊跡(15分) 行者窟(20分) 上平寺城本丸跡(50分) 伊吹神社(15分) 藤川バス停(7分) ジョイ伊吹(バス10分) 近江長岡駅

*伊吹神社(50分) 伊吹山登山口バス停 ▲地形図▼2万5千1閣ヶ原

▲問い合わせ先▼ 湖国バス 長浜西

伊吹町地域振興課	☎0749(64)	1224
悉地院	☎0749(58)	1121
	☎0749(58)	0531

特選コースガイド②

鈴鹿

一繞・近江側から登る鈴鹿の山々⑩
佐目子谷から

黒尾山・庭戸山

健脚コース(★★★)
磯部 純

黒尾山は鈴鹿の三角点を訪ね出して間もない頃、岩野さんの例会に参加して初めて登った。そのときは、銚子ヶ口から庭戸山へ至る長大尾根を歩き、その途中で黒尾山へ立ち寄ったが、今回の例会では黒尾山が目的である。一般に登られている菅尾の大流神社からではなく、佐目子谷の中河原から取りついて登るルートをとった。ここから黒尾山へ登るには確たるルートがなく、地形図を見ても銚子ヶ口からの尾根を除けば急勾配の連続で、落石の危険がある箇所が多い。また、下山路は黒尾山から庭戸山への尾根をくぐるので、紅葉尾のひろせ酒店前あたりへ置き車が必要になる。

佐目子谷入口に駐車して、広場から広い道を上流へ向かうが、やがて細い道に変わる。以前はこの谷を廻行する場合には谷筋の道がなく、山を登り尾根(鬼坂)を越えたと聞いているが、今では崖崩れの迂回路があるものの、谷に沿って道が開かれている。送電線の下をくぐり、兩岸の狭まった谷を過ぎると道は河原へくだる。その河原を上流へ歩くと、レリーフが埋め込まれている大岩を見る。その前には祭壇? が設けられていた。この谷で亡くなった人の慰霊のレリーフだという。日本コバの笠松尾根を登っている途中で聞いた救急車のサイレンを、きのうのことのように思い出す。

その先、谷が右に曲がった所から右岸へ渡る。北東に広くなった所が中河原と呼ばれている場所である。右手には高く尾根がそびえ、その谷奥の両側の斜面は切り立つような壁で、いったいどこから取りつくのかと思えるほどの急斜面が立ち塞がっていた。

中河原から左手の杉林へ入る。その杉林の急斜面に取りつき、次第に右手へ捲くように登っていく。やがて杉林は切れ、雑木に変わる。斜面には小石がゴロゴロ

も過言ではないほどの急勾配だ。浮石が多く、落石にも余程の注意が必要だ。

大きなモミの木が立ち並び、イワカガミの群落がある吊り尾根でひと息入れ、最後の登りにかかる。右手から尾根が近づき、斜面がゆるくなると、銚子ヶ口から続く主稜線にのった。稜線上の木々の葉は落ち、南方にはカクレグラ・タイジョウのピークが、さらにその間には綿向山の頂も顔を覗かせていた。北方には、木々の間から不老堂・C(約)930坪のピークがすぐ目の前にそびえ立ち、その左奥に、竜ヶ岳・静ヶ岳、遠く藤原岳や御池岳が霞んでいる。そこから稜線を北西へ歩く。はじめはシロモジの落ち葉を踏んで、次は雑木が立ち枯れ状の林だ。所どころ、茶色になった栗のイガも落ちてい

る。尾根に木もれ日が差し、実に明るい尾根へと変わっていた。尾根をいったん下り登り返すと黒尾山山頂。山頂は東西に細長く、三角点はその中央に立っている。黒尾山、点名



黒尾山・庭戸山付近略図
黒尾山 標高948・7
萱尾

黒尾山への尾根から永源寺ダムを見下ろす



していて足が滑って登りにくい。その斜面を登り切ると、大平谷東にある支尾根の鞍部にのった。相当高い所まで登ったつもりで地形図を見たが、ほんのわずかしが登っていない。この急勾配の登りが、ほんの手始めの足慣らしにすぎなかったのである。

そこでひと息入れ、細く急な尾根を登り始める。尾根の上方には大岩が立ち塞

山の本紹介

「熊野古道」をてくてく歩いて書き上げた随想的紀行文第二巻発行。
蟻さんの奮闘に感動! ぜひ熊野紀行I・IIと続けてお読みください。この秋からは「熊野古道」を歩いてみてください。

山村茂樹著

発行 ナカニシヤ出版

「熊野紀行I」

「熊野紀行II」

A5版・230頁(本体1800円)

最新7月刊

蟻さんの熊野紀行II

「新大辺路を行く」

(田辺半本・新宮・雲取越え編)

A5版・228頁(本体1900円)

○この本は、新ハイキング関西が編集しました。新ハイ会員には特別価格の各冊1600円(送料込み)で頒布します。書名を記入して本誌綴じ込みの振替用紙でお申し込みください。なお、書店でも購入できます。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄
▽近鉄・南海・朝日合同企画「葛城山麓の屋敷山公園から吉祥草寺へ」 9月7日(日)小雨決行(荒天順延) 12月7日(日)または14日(日)
〈集合〉御所線新庄駅9時〜10時
〈コース〉新庄駅→新庄町役場(受付)→屋敷山古墳→葛城山麓公園→九品寺→一言主神社→長柄神社→宮山古墳→條ウル神古墳→日本武尊白鳥神社→孝安天皇玉手園上陵→吉祥草寺→近鉄御所駅(約17分) 参加自由・無料(拝観料別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(67775) 35666
▽飛鳥京ルネッサンス「繁華の道」 9月21日(日)雨天中止(集合) 桜井駅南口9時〜10時(コース) 桜井駅→土舞台→阿倍文殊院→安倍寺跡→山田寺跡→飛鳥寺→仁徳天皇宮跡→石舞台→「奈良美」鑑賞(約7分) 参加自由(定員500名)
無料(拝観料別途) 奈良県文化観光課飛鳥京ルネッサンス係0742(22)1101
▽眺みふれあいハイキング「車窓呼の里を訪ねて」 9月28日(日)小雨決行(集合) 天理駅9時30分〜10時(コース) 天理駅→石上神宮→天理観光農園→竹内環濠集落→

長岳寺→天理市トレイルセンター→黒塚古墳→大和神社→藤の棚→天理駅(約15分) 参加自由・無料(拝観料別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(67775) 35666
京阪・叡山電車・江若交通
▽こうやくMtハイキング「若狭三十三間山」 9月4日(日)雨天中止(集合) J R安曇川駅9時(コース) 安曇川駅(バス) 倉見(バス) 安曇川駅(約8分) 中級(申込先) 江若交通本社077(573) 2701
▽スポニチファミリーハイキング「貴船・アマガ谷」 9月7日(日)小雨決行(集合) 叡電貴船口駅9時30分〜10時(コース) 貴船口駅→貴船神社→奥宮→奥貴船橋→アマガ谷→旧花背峠→峠下→扶桑橋→くらま温泉→鞍馬駅(約11分) 中級参加自由・無料 京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702
▽比良遠征アタック「蓮花岳・シヤ

クナゲ尾根」 9月14日(日)小雨決行(集合) J R比良駅8時45分〜9時45分(コース) 比良駅(バス) イン谷口→堂崎坂登山口→ノクナゲ尾根→金堂峠→シヤクナゲ尾根(北比良峠)→山上駅(ロープウェイ・リフト) 山麓駅(バス) 比良駅(約6分) 健脚向参加自由・参加費大人1700円 小人850円(往復バス代ロープウェイ・リフト代含む) 京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702
▽北山ウィークデーハイキング「静原・箕栗ヶ岳」 10月1日(日)雨天中止(集合) 叡電鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅→藤土坂→静原(コスモス)→村松分岐→箕栗ヶ岳→繁茂坂→尾根道→木野駅(約12分) 参加自由・無料 叡山電鉄鉄道部075(781) 5121
▽こうやくMtハイキング「秋空の野坂岳」 10月9日(日)雨天中止(集合) J R安曇川駅9時(コース) 安曇川駅(バス) 登山口→トチノキ地蔵→ノ岳→野坂岳→ノ岳→トチノキ地蔵→登山口(バス) 安曇川駅(約10分) 健脚向電話申込制(1ヶ月前から) 参加費



黒尾山山頂

この山頂から西の尾根をくだれば、大滝神社へ降りることができるが、われわれは北の尾根をくだる。岩野さん独特のルートである。尾根を1000m程くだると、左の傾斜面をくだり出す。下りの取りつき地点がわかりにくかったが、「くだる地点は大きな楡が二本あるから、それが目印だ」と岩野さん。果たしてこの木がいつまで残っているか疑問だが、岩野さんが話す説得力があるから不思議だ。

尾根にのると楡の林は切れ、椎木の急斜面尾根の下りとなる。登りのときとは比べものにはならないが、それでも急勾配であることには変わりない。慎重にくだったつもりでも、足を滑らせ何回か転んでしまうような急斜面である。く

だる尾根の正面には、日本コバの姿が徐々に大きくなっていく。ゆるい小ピークでひと息入れ、腰越谷と不動谷に挟まれた岩稜の尾根を庭戸山へ向かう。その両側は切り立つような斜面だ。腰越峠を過ぎ、登り返すと庭戸山山頂には送電線鉄塔が立っていて、ここからの景観は抜群だ。南には黒尾山の北斜面に、今くだった急な尾根がうねっていて、その左には、釈迦岳から御池岳へ続く鈴鹿の山並が連なっている。御池岳の手前には天を突くような天狗堂も姿を見せていた。

ここから巡視路をたどって紅葉尾根へくたつてもよいが、この例会では丸山経由でくだった。丸山は庭戸山の北にのびる尾根にある標高点676mのピークで、そこまでは小さなアップダウンがあり、策ではない。山頂は林に囲まれていて、展望は全くなかった。丸山から、さらに北へ尾根をくだり、尾根が急になる手前から楡林の右斜面をくだる。ここではどんな目印があったのか、聞きもらしてしまつたが、尾根分岐の中間斜面をくだり、北の蓼畑へのびている尾根へくだるのだ。のった尾根には巡視路が付けられている。

観光バスなら 确实第一の
太陽観光開発株へ!!

- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

4000円(申込先) 江若交通本社077(573)2701
 ▽比良運送アタック「カモシカ合・カラ岳」 10月13日(祝)小雨決行(集合) J.R.比良駅8時45分→9時45分(コース) 比良駅(バス)イン谷口→大門口→カモンカ台→北比良峠→山ノ上駅→カラ岳→カ岳(リフト) 山麓駅(バス)比良駅(約9・5*中級回) 参加自由・参加費大人12000円/小人6000円 京阪電鉄ハイキング担当06(6947)3702

▽「こっぴやくMtハイキング」紅葉の養生ブナ原生林散策 10月16日(休)・30日(休)雨天中止(集合) J.R.安曇川駅9時(コース) 安曇川駅(バス) 若走路出合→ナベクボ峠(三國峠)長治谷作業所→栃の木→地蔵峠→生杉(バス)安曇川駅(約8*中級回) 電話申込制(一ヶ月前から) 参加費4000円(申込先) 江若交通本社077(573)2701

京都バス・比良ロープウェイ
 ▽京都北山三角点トレック「萱子山」 9月6日(休)・13日(休)大雨等中止時は9月27日(休)に延期(集合) 出町柳駅コンコース8時→8

時30分(コース) 出町柳駅(バス)足尾谷橋→足尾谷林道終点→萱子山→大岩→寺ヶ橋→平(バス) 出町柳駅(約8・5*健脚回) 電話申込制(一ヶ月前から) 各日共定員200名・参加無料(バス代別途)(申込先) 京都バス運輸部営業課075(871)75221・75222

▽京都北山三角点トレック「廣村八丁・タキノタニ」 10月4日(休)・11日(休)大雨等中止時は10月25日(休)に延期(集合) 出町柳駅コンコース8時→8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 菅原→タンノ峠→P847→廣村八丁→ソトバ峠→タキノタニ→ソトバ峠→小塩(バス) 出町柳(約12*健脚回) 電話申込制(一ヶ月前から) 各日共定員200名・無料(バス代別途)(申込先) 京都バス運輸部営業課075(871)75221・75222

▽ネイチャー・トレッキング「紅葉の武奈ヶ岳西南稜」 10月15日(休)・21日(休)・23日(休)・27日(休)雨天中止(集合) J.R.比良駅8時45分(コース) 比良駅(バス) 山麓駅(リフト) 中峠→ワサビ峠→(西南稜) 武奈ヶ岳→イブルキのこ

▽神戸電鉄
 ▽神鉄ハイキング「逢山峽・小川谷ハイク」 10月5日(休)雨天中止(集合) 有馬口駅9時15分(コース) 有馬口駅→逢山峽→茶園谷→小川谷→六甲カンツリーハウス(六甲・摩耶カーニバル参加)(約8*一般回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽木曜ハイキング「正法寺山と天王山ハイク」 10月16日(休)雨天中止(集合) 聖山駅10時5分(コース) 聖山駅→粉喰坂→正法寺山→小和田神社→大村駅(約9*一般回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽神鉄ハイキング「ひよどり越え源平ハイク」 10月26日(休)雨天中止(集合) 藍那駅10時20分(コース) 藍那駅→相談ヶ辻→泉和台→

鴨越基園→義経馬つなぎの松路(富原山)→蛙石→鴨越駅(約8*一般回) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽山陽電車
 ▽山陽ハイキング「明石海峡を望みし明石公園ハイク」 9月21日(休)雨天中止(集合) 東垂水駅下車(平磯芝生広場) 10時(コース) 平磯芝生広場→マリニピア神戸→アジュール舞子→大蔵海岸公園(昼食)→明石港→明石公園→西新町駅(約11*一般回) 参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078(731)25220

▽これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

せせらぎ

題字・小林玻璃三

5月4日、今細口〜近江展望台を往復。谷川はコンロンソウの花で真っ白。オドリコソウやホウチャクソウの花も美しい。鹿村今細ではシヤガの大群落、カノコソウ・クサノオウが。笹峠付近にはウラシマソウがたくさん咲いていた。

山頂部への一番険しい登りの途中にはホタルカズラの青い星形の花。これが見たかった。5月というのにミスミソウの花も多く、クサボケ・イチリンソウ・ニリンソウも、登りの辛さを忘れさせてくれる。琵琶湖が視界に広がるころ、落合の家が淵か下、新緑のなかにのぞいていた。カルスト台地を渡る5月の風は、どこまでも心地よかった。

5月24日、木ノ実ヤ塚へ。昨年は工事のため林道歩きで終わったが、取りつきまで車で行けた。

しかし、天気は霧雨。ブナやカエデの新緑とたくさん銀竜草に見とれつつ、何とか目的地に着く。ブナの大樹の下で雨をよけ、蘇岳から来たらしい先客と言葉交わす。シヤクナゲのことを尋ねると、「きれいに咲いていた」との答え。「蘇まで行ったら」と勧められたが、雨も止みそうにないため止めておいた。ブナの木陰での昼寝と蘇岳は、また次の楽しみにとっておくのも悪くないだろう。(松阪市 数木伸人)

越前の浄法寺山を歩いた。1000級級の山なのに山頂近くには大きな雪渓が残り、5月中旬というのにタムシバやマルバマンサクがたくさん咲いていた。浄法寺山青少年旅行村から歩き出す。ツツドリがさえずるなか、花たちが咲き乱れ急峻な山道がちとも苦にならない。冠岳からはイワウチワやトキワイカリソウやチゴユリがずっと見られた。目撃人はシュンランやササユリの蕾も見つけた。2等浄法寺山(1052・8m)からは雲間からの展望しかなかったが、下山の途中、後方に丈鏡山から浄法寺山がよく見えた。

ツツジャ原から岩場(シシ岩)を下山するとミツバアケビやゴウアケビがぎっしり咲いていて、匂いも堪能し合計40〜50種の開花植物を見た。(向日市 湯浅康夫)

当方、サラリーマンを終えて15年。偶然の節目だろうか、このたび昭文社の地図とも縁が切れた。これからは、真に悠々自適をと思いきや、健康保険の自

○新ハイ關西サービスチェーン

- 名峰・二岐温泉 小島山 大白山 甲子・那須への観光基地。名でも緑谷の観光地。(観光予約) 露天風呂と内湯
- 福島・二岐温泉 上庄
- 日観連 大和館
- 富士登山・富士五湖 東海遊歩道
- (石川山・ハリモミ 緑林)
- 三國山の麓
- ペンション コットンテール 千401-10502
- 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555-6518515
- 大分県津久井町から松尾根分岐点 備前・岩屋あり
- JR中央線山崎下車タクシー40分 バス20分登山口下車徒歩徒歩時間
- 山小屋 福ちゃん荘 千404-10022
- 山梨県山梨市上坂町3-2-2
- 電話(山小屋) 0553-133-4633
- (山小屋) 0330-14179215
- 尾崎 平ヶ岳探検と約りの山小屋 緑後三山見聞(指定公園内)
- 清四郎 小屋 ほんもの手打そばと売店は
- 樹海
- 千46-10000 新所原北魚沼(新所原の果(奥山))
- 電話(樹海) 0257-50028
- 期間外(11月5日) 0428
- 0257-92150026

己負担率アップとか、年金給付金の低減発言とか、とかく、この世が絶すくみ状態を呈しているのは困りものだ。そのせいでなかろうか、私自信の山歩きも、より低くよりゆっくりとなり、一方、里歩きや町歩きは、より熱心な歩てきた。

先日、近鉄・高の原駅の西側団地を、晴れ間をみて訪ねた。

ローソン前から「ふれあい橋」を渡り、どんだん閉地の中の坂道を上っていく。専用歩道はカラー舗装、並木は左右とも手近くに新緑がしたたて、とても快適。そして、そのサミット(頂点)は、「万葉の小径」と名付ける万葉植物を集めた小公園に行きつく。「石のカタラ古墳緑地」のすぐ南、地続きの所である。

話は飛ぶが、以前、本誌の51号で、室生火山群の倶留尊山の南峰、「二本ボン」の山名のことを記した。そのとき、ホウソウのことがうまく書けなくて、その後も悔みは残っていた。いま、小径を歩き、ハハソと書かれてはいるが、まきれもないホウソウ

の説明文を読むにつけ、ぜひ周知せねばと、くだんの補足説明のつもりで、以下、引用略記させていただく。

ははそ(コナラ)
作(ははそ)は、コナラを指すともい、またクヌギをも含む総称ともいう。コナラもクヌギも落葉高木である……

「作の森」は、精華町の祝園(ほうその)神社内にある。作(ハハソ)はコナラの古名であるが、作の森は紅葉の名所としても知られている。などなど。

(上野市 高田榮久)

70号のこの欄で書いた花「オキナグサ」の本物を今年見ることができた。山ではなく、兄の自宅でした。四国の人から戴いた木を昨年栽培して、80日程離れた他家の庭でも今年咲いているのを見たそうで、兄の所から種が飛んだのだろうと聞いた。

初見ではないが、今年二度目の幻のランを見ることができた。そのランは12年前に見付け、花と名前を確認したくて3週同じところへ通って、やっと花が見

ていた身には傲しかった。特に、標高773分のピークをいったんくだった後、723分のコルからの登り(標高差317分)は実に傲しかった。このコースは直登の連続で、何とか頂上へ出て尾根歩きに移ったときはホッととした。

残念ながら、そうして到達した頂上から期待していた後方羊蹄山の展望は完全なものではなかった。中腹から上方が雲で隠されているのである。1時間ほど頂上に留って、雲の晴れ間を待った。一瞬、雲が切れて山頂が姿を現したことが二度あった。3年前に、反対側のニセコアンヌプリ頂上から、晴天下に後方羊蹄山の全容を眺めているし、何よりも未の年に、前方羊蹄山から後方羊蹄山を眺めたいという望みを実現したことが、深い満足感を持つことができた。

帰途、中山峠にて、奇跡的に全く曇りがなくなっていた後方羊蹄山の麗姿を眺めるというすばらしい成果もあった。

(枚方市 東谷 宏)

6月26日、Nリーダー他6名

られ、名前も分かったものである。その後花は咲かず、今年また花が付いたのだ。

3年前、花の好きな京都の人に場所を教えておいたので、今年もその方が三度通い、咲き出したと教えてもらったので、次の週に行ってみることができたのだ。もう一つの「ベニバナイチヤクソウ」は長野・岐阜県境の山で6月21日に見た。

小生の山行例会「鈴鹿百山」も今年12月で50回となり、予定通りだと百山を超すことになる。来年は再訪を含め、参加者希望の山を歩く予定です。希望があればどんどん言ってください。

(南濃町 山田明男)

6月下旬、北海道の尻別岳(別名前方羊蹄山・標高11107分)へ登った。今年の干支に關係する「未年の山」として生駒登峰氏が本誌で紹介されている。

喜茂別コースと留寿都コースがあるが、標高差457分と少なく、コースタイムは3時間10分と長い方の後者を選択した。しかし1ヶ月も山歩きを怠け

どんな伝統行事があるのか気になつてはいたのだが、下山時には終わってしまったで見られないものとあきらめていた。

だが、思わぬ出会いがあった。集落の人がわれわれの入山を覚えていて「かんだき」50人分を用意してくださっていたのだ。地鶏のタタキやお神酒をいただく者もいて、いたれりつくせりのもてなしをうけた。

殺伐としたニュースの多いなか、心の通う出会いであった。毎年11月3日、地元では秋の登山大会を行っているので、ぜひとも参加とお誘いをいただいている。

後日、但馬へ入山中、お礼の品を持参し、出会いの早く来るのを約す。

(姫路市 須藤岡 輯)

山行短歌
5月1日 鈴鹿鎌ヶ岳
帰らざる惜春の鎌の地に立てば
流星生まれのアカヤシオ燃え
5月6日 泉州小富士山
海の光に惑わされた丘の上で
もうひとりの僕が翔び立ちぬ
5月15日 紀北矢野岳

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-12100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉
電話 0255-1861226

休養食入浴も歓迎
10人以上マイクロボスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電話 0460-419041

四季織りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日観連
温泉旅館 けやき山荘
温泉旅館 けやき山荘
〒390-1500
長野県南安曇郡乗鞍高原
電話 0263-9312555

さわやか信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
電話 0269-3313578

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高嶺自然保養林
ハイキングにXCSキー
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電話 0267-2512000

ハイキングにノ スキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯温泉床下車
電話 0269-342421
東京本社・東京都新宿区新宿3
120-15(新光第2ビル)
御スポーツサービス
電話 03-33341021

梅池高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全線で送迎します
スノーシュー&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴェイヴアルティ
〒399-0930
長野県北安曇郡白馬村梅池高原
電話 0261-172555
http://www.vivall.com/

塩の道 千両街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬プランシエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村
電話 0261-7214452

幸福と不幸は隣り合わせにて
 山の花ひらき雨たちこめる道
 5月20日 播州三笠山
 ずっと昔から母なる山に生きたる
 恋人のブナに頬ずりしよう
 5月24日 但馬水ノ山
 友は逆コースへ決り歩いてゆく
 兵庫槍で出会おうと言ひ残し
 5月31日 伊豆万三郎岳
 天威越える踊子のよう咽び泣き
 雨にふるえてシャクナゲ開く
 6月5日 但馬水ノ山
 燃え上りくるもの魂揺するもの
 君と眺めた兵庫アルプスよ
 6月10日 播州明神山
 マンモスの背を渡れば石獣は
 風を呼び雨を生み憤怒吐く
 6月14日 丹後山良ヶ岳
 汐波みの安寿と胡弓主包みこむ
 優しい海霧の山路を行けり
 6月15日 丹後依延ヶ尾山
 あれが軽々脚を海果てしなく
 打ち寄せる海潮音を聞け
 6月15日 丹後太鼓山
 風を受けて風車よ回れ生まれくる
 山の想い出外海へ飛ばせよ
 (吹田市 木村太郎)

さんと陽を浴びて花開く野草の
 可憐さでしようか。
 なかでもカタクリやニリンソ
 ウなど、スプリングエフェメラ
 ルと呼ばれる春植物は人気が高
 く、これらの花を訪ねる例会山
 行は、多くの「花博士」が登場
 し、ワイワイとにぎやかです。
 いつからか、私はスミレにひ
 かれました。特に、昨年信州の
 戸倉山で初めてアケボノスミレ
 に出会ってから、今年の春の山
 歩きは「スミレに始まりスミレ
 に終わる」ことになりました。
 新ハイ例会でも4月の舟伏山
 とフンゲン、守屋山と戸倉山、
 5月の高ボッチ、御坂山系、6
 月の霧ヶ峰と、スミレを求めて
 歩きました。
 開花時期との折り合いが悪く、
 多くの場合目的を果たすことは
 できませんでしたが、それでも
 エアオイスミレ・アカネスミ
 レ・サクラスミレ・シロスミレ
 など、およそ20種のスミレに出
 会うことができました。そして
 幸運にも、守屋山では全く未知
 であったクロバナアケボノスミ
 レに出会えたのでした。
 (各務原市 鷺見守康)

山行短歌
 5月5日 近江カルスト花の山
 ヒメレンゲ・ヤマシヤクヤクに
 ウラシマンウ
 ヤマブキノウにエビネも咲いて
 新緑の杉坂の道花の道
 シヤガシヤガシヤガにホタル
 カズラも
 5月11日 笠松山
 新緑はみどりの雨に鳥の声
 シキロの滝夢幻に映えて
 5月20日 津田山
 霧雨にウグイス鳴いてホトトギス
 フタリシズカが可憐に咲いて
 5月25日 雨乞岳・七人山
 新緑のいいなのコバの源流は
 鈴鹿の良さが凝縮されて
 淡みどり大バノラマの雨乞は
 ざわざわと崖原ないて
 6月8日 能登ヶ峰
 絶景は鹿の草原淡みどり
 馬酔木のみどり峰の黒松
 6月14日 湿原(ひみつ)
 湿原は夢まぼろしかトキの花
 花園に酔いしをわすれて
 6月22日 ヒキノ・旭山・岳
 もこもことどこまで続く山並は
 鈴鹿の良さに随所で酔って
 (近江八幡市 岩野 明)

八ヶ岳北麓北線走の中心地
 59年秋新築完成金剛堂
 木の香匂う新築養生水炊釜
 オールレシ小屋
 1泊2食付き 6000円
 4月末・11月末開設
 〒391-0213 小車勇夫
 茅野市豊平2-720 小車勇夫
 電話 02666-7211279
 02666-7211279
 北八ヶ岳の登山葛尾 冬はスキー
 J.R.茅野駅・北八ヶ岳登山口ま
 で送迎します
 観光高原
 ブチホテル カナール
 〒391-0301
 茅野市北山新築高層世丸平55
 13の1
 電話 02666-6712258
 日本百名山の宿
 信州戸隠山
 森の宿めるへん
 高梨山・黒草山登山口まで送迎
 コロン・コロコ山内
 〒388-14100
 長野県戸隠村越水ヶ原
 電話 0266-2541208
 日本唯一の女人禁制の山「大
 峰山」(百名山)の登山口、
 稲村ヶ岳女人コースもあり
 温泉・名水の里
 旅館 紀の国屋甚八
 1泊2食付 7,000円から
 〒638-0431
 奈良県生野町天川村河川
 電話 07476-1410309

山行計画 (9・10月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記して
 あるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往
 復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに判
 首するように申込み先に申し込んでください。電話・F
 AXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参
 加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。
 山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してくださ
 い。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。
 例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点降の際、係
 に保険料日額50円と救済対策費日額100円(夜行日帰りの
 場合は2日になり200円)を支出していただきます。
 傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円
日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに
 係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①
 ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参す
 ることを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を
 目的とした山行 ④宿舎前内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行申し込み書
 山行名 (正確に記入すること)
 期日
 住所 〒
 氏名
 会員番号
 (会員でない方は会員外と記入)
 電話番号
 生年月日
 緊急時の連絡先 TEL
 (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自
 分の住所氏名に「様」を必ず記
 入しておいてください。

北摂・弥十郎ヶ岳(一般向き)
 期日 9月7日(日) 日帰り
 集合 ①JR名古屋駅中央改札
 口6時15分②能勢電鉄
 日生中央駅10時20分
 コース 日生中央駅(バス) 杉生
 新田・竜坊温泉―農文塾
 コース―ハカベ山―弥
 十郎ヶ岳―吹越峰―薬師
 ヶ原(解散)―波々伯部神
 社前(解散)―バス―JR
 園部駅か篠山口駅へ
 費用 約3370円(書費18き
 ぷ使用・名古屋から)
 地図 昭文社『北摂・京都西
 山』
 係 ◎小出良春
 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *集合駅を明記ください
 北摂最深部の山というより、丹
 波の山が本当なのでしょう。下山
 の波々伯部神社で京都方面と大阪
 方面のバスに別れて帰ります。
 雨天中止
 京都北山・滝谷から愛宕山
 (中級向き)
 期日 9月7日(日) 日帰り

九州の最高峰・日本百名山
 宮之浦岳に一番近い宿
 屋久島安房登山口
 屋久島グリーンホテル
 〒891-4311
 鹿児島県鹿野町安房
 電話 0997-4613021
 御在所登山口
 愛知川渓谷沢歩きに
 山好き仲間集う宿
 朝明茶屋
 山小屋 朝明茶屋
 〒510-1251
 三重県三重郡菟野町草
 電話 0593-9311789
 那岐山山麓の近くに百名山の大山
 二百名山の水ノ山・上野山などあり
 三百名山 那岐山のみもと
 岡山県 那岐山荘
 〒708-1307
 岡山県勝田郡奈義町高円
 電話 0868-364154

山行例会の実施について
 山行例会は保険を掛けたり、
 登山届けを提出しますので、実
 施日の7日前までに上記記入
 例の通り、必ず往復ハガキで申
 し込んでください。

集合 JR山陰線八木駅8時30分
コース 八木駅(バス) 越前一芦見峠(若狭分館谷合) 滝谷(旧スキー場) 中山翁胸像台座(三角点) 愛宕神社(スカイライン) 七合目(つつじ尾根) 保津峡(解散)

費用 約13000円(京都駅から)
地図 2万5千 京都西北
昭文社 『京都北山』
係 ◎金谷 昭 ◎藤部 純
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

期日 9月11日(日) 日帰り
集合 水間鉄道水間駅バスのりば9時30分
コース 水間駅(バス) 高原一春日橋(和泉高城山) 五本松(林道) 大鳴トンネル(大鳴山) (バス) 南

近畿百名山に登る(第62回)
兵庫丹波・小金ヶ岳と三岳
(中級向き)
期日 9月14日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース 京都駅(バス) 丹波(バス) 大淀(バス) 西ノ瀬(バス) 西ヶ岳(薬納口) (バス) 京都駅(解散18時30分頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 宮田・村雲
係 ◎村田智俊 ◎奥比谷美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
*定員40名
まず岩峰の小金ヶ岳を往復し、三岳に登ります。西ヶ岳から薬納へ縦走します。雨天中止

鈴鹿百名山47
鈴子ヶ口・風越山(龍崎向き)
期日 9月14日(日) 日帰り
集合 ①三岐鉄道大安駅8時15分/②紅葉尾神崎9時00分
コース 紅葉尾(北尾根) 鈴子ヶ口 紅葉尾(三角点) 鈴子ヶ口 紅葉尾(北尾根) 鈴子ヶ口 紅葉尾(三角点) 鈴子ヶ口

海晏佐野駅(解散16時頃)
費用 約24000円(南海難波駅から)
地図 昭文社 『金剛・葛城・紀東高原』
係 ◎西上利和 ◎中村英雄
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 井上由紀晴
コース 尾根歩きコースもありますが、今回は小滝を見ながら溪谷沿いを歩きます。雨天中止

自然観察山行127
奥美濃・鷲ヶ岳(一般向き)
期日 9月12日(日) 13日(日) 前夜発日帰り
集合 ①0分 JR岐阜駅23時00分
コース (12日) 岐阜駅(バス) (13日) (バス) 一色園 際スキー場(ゲート) 登山口(ジャンクショップ) ビークル(登山) 鷲ヶ岳(最低) コル(一服) 鷲ヶ岳(スキー場) (バス) 岐阜駅(解散)

費用 約9000円(岐阜駅からバス代等)
期日 9月15日(日) 日帰り
集合 鈴鹿峠燈籠広場8時00分
コース 広場(車) 安楽越(霧ヶ岳) 四方草山(三子山) 鈴鹿峠(車) 安楽越(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社 『源在所・雲仙・伊吹』
係 ◎岩野 明 ◎山田三三

費用 約26000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千 塩見岳
係 ◎奥野ひろ子
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 9月18日(日) 日帰り
集合 新大阪駅(階止) 門口構内7時30分
コース 新大阪駅(バス) 宮津天橋立(インター) (バス) 登山口(依連ヶ尾山) 2等三角点(登山口) (バス) 丹後温泉(バス) 新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千 丹後平・瀬野
係 ◎木村太郎 ◎中村友昭
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 9月20日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば22時00分
コース (20日) 京都駅(バス) 車中泊 (21日) (バス) 上高地(明神) 徳次(樽尾) 湖沢(山小屋) (泊) (22日) 湖沢(樽尾) 山荘(奥穂高岳) 岳尾根(前穂高岳) 岳尾根(ヒュッテ) (泊) (23日) 岳尾根(上高地) (バス) 平湯(入浴) (バス) 高山(バス) 京都駅(解散)

期日 9月13日(日) 14日(日) 泊2日
集合 (13日) JR大津駅8時00分
コース (13日) 大津駅(バス) 鳥倉林道(三伏小屋) (泊) (14日) 三伏小屋(木谷山) 塩夏岳(三伏小屋) 鳥倉林道(バス) 大津駅(解散20時頃)

費用 約26000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千 塩見岳
係 ◎奥野ひろ子
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 9月18日(日) 日帰り
集合 新大阪駅(階止) 門口構内7時30分
コース 新大阪駅(バス) 宮津天橋立(インター) (バス) 登山口(依連ヶ尾山) 2等三角点(登山口) (バス) 丹後温泉(バス) 新大阪駅(解散)

費用 約42000円(京都駅からバス)
地図 昭文社 『槍ヶ岳・穂高』
係 ◎岩野東彦 ◎飯坂利明
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

週末ハイイク51
北アルプス
奥穂高岳から前穂高岳
(やや健脚向き)
期日 9月20日(日) 23日(日) 前夜発泊3日
集合 (20日) JR京都駅八条口団体バスのりば22時00分
コース (20日) 京都駅(バス) 車中泊 (21日) (バス) 上高地(明神) 徳次(樽尾) 湖沢(山小屋) (泊) (22日) 湖沢(樽尾) 山荘(奥穂高岳) 岳尾根(前穂高岳) 岳尾根(ヒュッテ) (泊) (23日) 岳尾根(上高地) (バス) 平湯(入浴) (バス) 高山(バス) 京都駅(解散)

期日 9月13日(日) 14日(日) 泊2日
集合 (13日) JR大津駅8時00分
コース (13日) 大津駅(バス) 鳥倉林道(三伏小屋) (泊) (14日) 三伏小屋(木谷山) 塩夏岳(三伏小屋) 鳥倉林道(バス) 大津駅(解散20時頃)

期日 9月18日(日) 日帰り
集合 新大阪駅(階止) 門口構内7時30分
コース 新大阪駅(バス) 宮津天橋立(インター) (バス) 登山口(依連ヶ尾山) 2等三角点(登山口) (バス) 丹後温泉(バス) 新大阪駅(解散)

期日 9月14日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央本線(番ホーム) 6時17分
コース 名古屋駅(電車) 須原駅(鹿島神社) ショップ(丸屋) 鳥屋(山居) 鳥屋(赤瀬山) 往路(須原駅) (電車) 名古屋駅(解散19時28分)

費用 約31800円(会費ラリ) (バス使用) (名古屋から)
地図 2万5千 木曾須原
係 ◎小山良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 9月20日(日) 23日(日) 前夜発泊3日
集合 (20日) JR京都駅八条口団体バスのりば22時00分
コース (20日) 京都駅(バス) 車中泊 (21日) (バス) 上高地(明神) 徳次(樽尾) 湖沢(山小屋) (泊) (22日) 湖沢(樽尾) 山荘(奥穂高岳) 岳尾根(前穂高岳) 岳尾根(ヒュッテ) (泊) (23日) 岳尾根(上高地) (バス) 平湯(入浴) (バス) 高山(バス) 京都駅(解散)

期日 9月13日(日) 14日(日) 泊2日
集合 (13日) JR大津駅8時00分
コース (13日) 大津駅(バス) 鳥倉林道(三伏小屋) (泊) (14日) 三伏小屋(木谷山) 塩夏岳(三伏小屋) 鳥倉林道(バス) 大津駅(解散20時頃)

期日 9月18日(日) 日帰り
集合 新大阪駅(階止) 門口構内7時30分
コース 新大阪駅(バス) 宮津天橋立(インター) (バス) 登山口(依連ヶ尾山) 2等三角点(登山口) (バス) 丹後温泉(バス) 新大阪駅(解散)

期日 9月13日(日) 14日(日) 泊2日
集合 (13日) JR大津駅8時00分
コース (13日) 大津駅(バス) 鳥倉林道(三伏小屋) (泊) (14日) 三伏小屋(木谷山) 塩夏岳(三伏小屋) 鳥倉林道(バス) 大津駅(解散20時頃)

期日 9月18日(日) 日帰り
集合 新大阪駅(階止) 門口構内7時30分
コース 新大阪駅(バス) 宮津天橋立(インター) (バス) 登山口(依連ヶ尾山) 2等三角点(登山口) (バス) 丹後温泉(バス) 新大阪駅(解散)

* 定員18名(会費に限り)
* 9月5日まで

ザイテングラートから奥穂高岳へ登り、尾根を前穂高岳へアルバイトし、重太郎新道を岳沢へくだります。穂高岳山荘から奥穂高岳への登りは鎖とハシゴの連続です。雨天決行(コース変更あり)

中国自然歩道6
英作・ダルガ峰(一般向き)
期日 9月21日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅西口7時35分

コース 西明石駅(バス)大茅一
ダルガ峰一駒の尾山一南
尾根一東葉倉(バス)西
明石駅(解放19時頃)
費用 約4500円(西明石駅
からバス代等)
地図 2万5千。坂根・西河内
係 ◎古賀慶一 ◎岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上681
の33・17A403
古賀慶一まで
* 定員22名

ダルガ峰は大きな平原状の山、
初秋に訪わてみます。雨天中止

金剛・旗尾岳から府庁山
(一般向き)

期日 9月21日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②南海千早口駅10
時30分
コース 千早口駅一登山口一旗尾
岳一府庁山三差路一田山
一クスギ峠一千早口駅
(解放15時40分頃)
費用 約5300円(名古屋か
ら)

地図 昭文社『金剛・葛城・
紀伊高原』
係 ◎小山良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

天見富士と言われる旗尾岳から
自然林も多いクスギ峠までの明る
い尾根道を歩く。雨天中止

京都北山歩き110
機敷ヶ岳から城丹園尾根
(一般向き)
期日 9月21日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅南8
時30分
コース 北大路駅(タクシー)祖

父谷林道車止一機敷ヶ岳
一ナベクロ峠一城丹園境
尾根一飯盛山一天皇山一
茶臼峠一カモチ谷一周山
(バス)京都駅(解放17
時頃)

費用 約3000円(北大路駅
からタクシー・バス代)
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎中西信行
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

機敷ヶ岳から秋の城丹尾根をの
んびりと歩きます。雨天中止
鈴鹿を歩く177
三池岳・釈迦ヶ岳(健脚向き)
期日 9月23日(日) 日帰り
集合 紅葉尾の神崎川橋広場8
時00分
コース 広場(車)八風谷広場
(留車)石神峠広場一三
池岳一釈迦ヶ岳一赤坂谷
源流一センコウ谷一八風
谷一八風谷林道一広場
(解放)

費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・雲梯・
伊吹』

◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

4月に雨のため中止した山行で
す。大パノラマの稜線も歩き、赤
坂谷から八風谷へくだります。
雨天中止

北山ちよつと歩き49
大尾山から横川中堂(一般向き)
期日 9月24日(日) 日帰り
集合 JR京都駅正面京都バス
のりば8時00分

コース 京都駅(バス)大原一川
追谷一勝林院一音無滝一
大尾山一御木峠一横川中
堂一横高峠一登山口バス
停(解放)

費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎奥山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
大原から大尾山に登り、横川中
堂を自指して尾根道を歩きます。
雨天中止

平日ふれあいハイク40
京都北山・小野村割岳
(一般向き)

期日 9月25日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅京都バスの
りば7時40分
コース 出町柳駅(バス)下ノ町
一ウツ谷一小野村割岳一
P911P832一佐々
里峠一オバナ谷一広河原
(バス)出町柳駅(解放
19時11分頃)

費用 約2100円(出町柳駅
か)
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎寺井恒夫 ◎川上久堅
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
芦生酒林の南に連なる静かな
稜線を佐々里峠へ歩きます。
雨天中止

コース (26日) 岐阜駅(バス)
(27日) (バス) 野妻峠
お助け小屋(朝食・バス)
野妻集落一岳谷滝上部一
剣ヶ峰一雲平(泊)
(28日) 雲平一肩ノ小屋
一乗鞍高原(バス)岐阜
駅(解放)

費用 約2500円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 昭文社『乗鞍高原』
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市藤原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
* 定員20名(8月30日ま
で)

昨年雨でコース変更した野妻峠
から乗鞍連峰剣ヶ峰のコースに再
挑戦です。雨天決行

三重の山69
紀南・長尾山(一般向き)

期日 9月27日(日) 日帰り
集合 海山町「道の駅海山」9
時15分
コース 道の駅海山(車)札立峠
一長尾山一ノ水峠一赤

倉一札立峠(車)道の駅
海山(解放17時頃)

費用 1500円
地図 2万5千。本木
係 ◎尾崎英五 ◎稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
*マイカー山行
展望良。雨天決行

滋賀・福井県境の山
三十三間山(一般向き)
期日 9月27日(日) 日帰り
集合 福井県上中町熊川「道の
駅」8時00分
コース 今津町天増川集落より尾
根に上がり北へ向かう。
大久保三角点を経て三十三
間山へ。往路を戻る。
費用 交通費各自
地図 2万5千。熊川
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
今津町が最近整備した尾根道を
歩きます。雨天決行

但馬
コウノトリの郷から剣蛇岳
(一般向き)

期日 9月28日(日) 日帰り
集合 JR姫路駅南口バスター
ミナル9時10分
コース 姫路駅(バス)コウノト
リの郷公園一酒垂神社一
不動滝一剣蛇岳一五郎岳
一酒垂神社一コウノトリ
の郷公園(バス)姫路駅
(解放18時00分頃)

費用 約5000円(交通費)
地図 2万5千。須田・豊岡
係 ◎須藤岡 編
申込み 〒671-1126
姫路市余部区上余部50の
2の11 須藤岡 編まで
* 定員30名
2年後の放鳥を前に、コウノト
リが飛翔する姿を眺めるのにふさ
わしい剣蛇岳(4222)へ。
雨天決行

地図探み山行58
金剛・タンボ山(一般向き)

期日 9月28日(日) 日帰り
集合 南海河内長野駅バスのり
ば9時00分
コース 河内長野駅(バス)小深

自然観察山行128
北アルプス・乗鞍連峰
(中級向き)

期日 9月26日(日) 28日(日)
前後夜発1泊2日
集合 (26日) JR岐阜駅23時
00分

一本尾川口―鳥地獄分岐
―杉尾峠―タンボ山―十
字峠―蟹井八幡神社―南
海大見駅(解散)
費用 約1600円(大阪から)
地図 2万5千―五條・岩湧山
昭文社「金剛・葛城・
紀伊高野」

係 ①塚元一彦 ○中村 登
申込み 5336-10008
大阪府城東区関目4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名

新ハイキング関西支部と合同。
金剛山系には変わった名前の山が
ありますが、この山もその一つ。
静かな山道を歩いて、地形図とコ
ンパスの勉強をします。初心者飲
迎。シルバード型コンパスを持参
ください。雨天中止

比良を歩く25
葛川中村から蓬萊山(中級向き)
期日 9月28日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅タクシーのり
ば8時40分
コース 堅田駅(タクシー) 葛川
中村―オシロ谷出合―長
池―ジャガ谷出合―辻谷
キャンプ場―打見山―蓬

菜山―金ピラ峠―ゴンド
ラ山麓駅―志賀駅(解散
17時頃)
費用 約2800円(京都駅か
ら)
地図 2万5千―花背―比良山
昭文社「比良山系」

係 ①秦 康夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
鉄塔をたどる巡視路ルートをし
きます(一部本誌59号参照)。
雨天中止

飛騨・御前山(一般向き)
期日 9月28日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②JR岐阜
駅高山線ホーム6時55分
岐阜駅(電車) 飛騨萩原
駅(タクシー) 桜原登山
口―原原岩―御前山―上
村ルート―白山神社―飛
騨萩原駅(電車) 名古屋
駅(解散18時03分)
コース 岐阜駅(電車) 飛騨萩原
駅(タクシー) 桜原登山
口―原原岩―御前山―上
村ルート―白山神社―飛
騨萩原駅(電車) 名古屋
駅(解散18時03分)
費用 約4600円(吉野空ワ
イパス使用・名古屋から)
地図 2万5千―萩原・湯屋
係 ①小出良春

申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
御前山は一等三角点。高山線が
不便なため早朝の時間からでない
と日帰りできません。雨天中止

鈴鹿百山48
ザラノ・高室山・地蔵山
(中級向き)
期日 10月4日(日) 日帰り
集合 ①二級鉄道西野尻駅7時
30分/JR米原駅東口8
時00分
コース 各集合駅(車) 保月集落
先アサハ谷分岐―鉄塔
巡視路―スリバチ池―尾
根通し―ザラノ―高室山
―地蔵山―保月集落―駐
車地点(車) 彦根駅―西
野尻駅(解散)

費用 交通費各自(車代100
0円)
地図 2万5千―高宮
係 ①山田明男 ○高原芳彦
申込み 503-0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員20名程度

*集合駅を明記ください
*マイカーの方はその旨
明記ください
地図読みしながら尾根を伝って
三山を歩き、途中のスリバチ池も
見ます。雨天中止

兵庫丹波・白山から妙見山
(一般向き)
期日 10月5日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分/②JR福知
山線谷川駅10時50分
コース 谷川駅(タクシー) 大蔵
神社―白山―十字路―妙
見山―十字路―タワ―笛
路―谷川駅(解散17時頃)
費用 約3800円(鉄道記念
きっぷ使用・名古屋から)
地図 2万5千―谷川・中村町
係 ①小出良春
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

兵庫山岳連盟の「ふるさと兵庫
50山」に選ばれた播丹の名山で近
年登山者が増えているそうです。
雨天中止

○ 美濃の山4

高丸(健脚向き)

期日 10月5日(日) 日帰り
集合 ①JR大垣駅北口7時00
分/②池の又林道夜叉ヶ
池登山口8時30分

コース 大垣駅(車) 夜叉ヶ池登
山口―夜叉ヶ池登山道―
尾根取付―高丸―尾根下
降―夜叉ヶ池登山道―夜
叉ヶ池登山口(車) 大垣
駅(解散)

費用 交通費各自(車代1000
0円)
地図 2万5千―横山・谷汲
係 ①山田明男 ○高原芳彦
申込み 503-0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員10名程度
*集合地を明記ください
*マイカーの方はその旨
明記ください

昨年中止した山の再計画ですが、
ガスっていたり天候が悪くなる場
合は夜叉ヶ池・または三國岳へ変
更します。本誌の号山本氏の文を
参考に。今回は往復コースとしま
す。雨天中止

○ 室生・三郎ヶ岳から袴岳

(一般向き)

期日 10月9日(日) 日帰り
集合 近鉄榛原駅南口8時15分
コース 榛原駅(バス) 高井一仏
降寺駐車場―高室山―三
郎ヶ岳―藤原山―美徳堂
―石割峠―石割山―袴岳
―袴原登山口―袴木野―
高井(バス) 榛原駅(解
散16時05分)

費用 約2200円(上本町駅
から)
地図 2万5千―大和―高
見山
係 ①西上和 ○中村英雄
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

一般に紹介されているコースよ
りすこし足をのびして、袴岳まで
縦走します。多少やぶ漕ぎもあり
ます。雨天中止

週末ハイク2
越後の山・魚沼駒ヶ岳と八海山
期日 10月10日(日)夜13日(日)
前後発2泊3日

申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
御前山は一等三角点。高山線が
不便なため早朝の時間からでない
と日帰りできません。雨天中止

鈴鹿百山48
ザラノ・高室山・地蔵山
(中級向き)
期日 10月4日(日) 日帰り
集合 ①二級鉄道西野尻駅7時
30分/JR米原駅東口8
時00分
コース 各集合駅(車) 保月集落
先アサハ谷分岐―鉄塔
巡視路―スリバチ池―尾
根通し―ザラノ―高室山
―地蔵山―保月集落―駐
車地点(車) 彦根駅―西
野尻駅(解散)

費用 交通費各自(車代100
0円)
地図 2万5千―高宮
係 ①山田明男 ○高原芳彦
申込み 503-0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員20名程度

○ 集合

(10日) JR京都駅八条
口団体バスのりば21時00
分

コース (10日) 京都駅(バス・
車中泊)
(11日) (バス) JR小
出駅(タクシー) 枝折峠
―道行山―小倉山―駒ヶ
岳―小倉山―駒ノ湯(泊)
(12日) 駒ノ湯(バス)
八海山ゴンドラ山麓駅
(ゴンドラリフト) 山頂
駅―女人堂―薬師岳―大
日岳―入道岳―千本槍小
屋―山頂駅(ゴンドラ)
山麓駅(バス) あぜち温
泉(泊)

費用 約5000円(京都駅
からバス・タクシー・宿
泊代等)
地図 昭文社「越後三山」
係 ①野野東彦 ○瓜坂利明
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員18名(会費に限定)
*9月26日まで

紅葉が美しい駒ヶ岳に登り、ラ

○ 自然観察山行129

上檜越・高妻山と戸隠高原
(やや健脚向き)

期日 10月11日(土)13日(日)
前後発1泊2日

集合 (11日) JR岐阜駅23時
00分

コース (11日) 岐阜駅(バス)
(12日) (バス) 戸隠キヤ
ンプ場―二不動―高妻山
―一不動―戸隠キャンプ
場(バス) 戸隠村越水宿
(泊)

費用 約2800円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 昭文社「妙高・戸隠」
係 ①野野東彦
申込み 504-0828

キャンプの宿で知られる秘湯駒ノ湯山
荘に泊まります。八海山は岩留場の
山裾で鎖とハシゴを利用してハツ
峰を歩きます。迂回路もありませ
が、このルートも鎖場が2カ所あ
ります。雨天決行

各務原市蘇原村由野1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名(9月8日ま

戸隠富士とも呼ばれる高尾山を登り、翌日は戸隠高原の紅葉を楽しみます。雨天決行

八ヶ岳・硫黄岳から赤岳
(中級向き)

期日 10月11日(日)〜13日(火)
2泊3日

集合 (日) JR京浜東北線西口
8時00分

コース (日) 草津駅(バス) 坂平→夏沢駅→オレン
ン小屋(泊)
(12日) オレン小屋→
夏沢駅→硫黄岳→硫黄
赤岳→頂上小屋(泊)
阿部院→御小屋山→美
濃戸口(バス) 南諏訪
(バス) 草津駅(解散19
時頃)

費用 約30000円
*帰路に浴衣予定

地図 昭文社「八ヶ岳」
◎村田智俊 ○安貞正勝
○奥比治美

復レミゴ越へら谷一
平良谷橋(解散16時30分
頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千〜久多
◎寺井恒夫

申込み 〒604-18874
京都市中京区壬生大池町
30 寺井恒夫まで
*マイカー山行
*定員16名(会費に懸る)

三國岳から南に向かって経ヶ岳
とイチゴ谷山まで歩きます。マイ
カー利用ハイクで、乗り合わせて
行きます。便乗で参加の方はその
旨、また乗り合わせの車を出して
いただける方もハガキに明記して
ください。雨天中止

湖北・大黒山(中級向き)
期日 10月18日(日) 日帰り
集合 (国道365号線権佐峠9
時00分

コース 権佐峠→西尾根→大黒山
→南尾根→巖谷の頭→國
道権谷合(車)権佐峠
(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千〜中河内
◎金谷 昭 ○磯部 純

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名

紅葉の八ヶ岳核心部を歩きます。
雨天決行

比良
釈迦岳・ヤケ山から櫻梅ノ滝
(一般向き)

期日 10月12日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋線中央改札
口6時55分/②JR比良
駅9時40分

コース 比良駅(バス) イン谷口
→大津ワングル道→釈迦
岳→ヤケ山→オレン小屋→
寒風峠→涼峰→櫻梅ノ滝
→北小松嶽(解散16時頃)

費用 約34000円(鉄道記念
きっぷ使用・名古屋から)

地図 昭文社「比良山系」
◎小出良春

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
紅葉の大津ワングル道を登り、
孫意湖大展望の尾根を歩きます。
雨天中止

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

北園街道権佐峠より巡視路を一
部利用してフナ美林の山頂に登り
傍尾根を縦走します。やぶ漕ぎあ
り。雨天中止
*JR木ノ本駅(8時30分)にて
便乗考慮します。事前に金谷まで
連絡をTEL&FAX075(5
81)7947

若狭の山
多田ヶ岳(一般向き)

期日 10月18日(日) 日帰り
集合 小浜市野代妙楽寺境内9
時00分

コース 野代コースを往復
費用 交通費各自
地図 2万5千〜彦根
◎高島伸浩

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
雨天決行

比良を歩く26
武奈ヶ岳とコヤマノ岳東尾根

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
雨天決行

鈴鹿を歩く178
水舟の池新ルート(健脚向き)
期日 10月13日(日) 日帰り
集合 (国道421号線佐目子谷
入口広場8時00分

コース 広場→佐目子谷権佐坂→
門口→風穴谷→ハチノス
谷→水舟の池→大峠→鏡
子ノ口西峰→旧大峠→
天狗岩→ハチノス谷→佐
目子谷→姫ヶ滝→広場
(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

5月に雨のため中止変更した山
行です。ハチノス谷と水舟の池周
辺は植林の下刈りと間伐が終わ
り、お金明神の参道が一部歩けるよ
うになった。佐目子谷は前回か渡渉
します。雨天中止

フファミリーハイク30
播州・三雲山(一般向き)
期日 10月16日(日) 日帰り

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 比良駅(バス) 比良リフ
ト前→山麓駅(リフト)
シヤカ岳→大津ワングル
ル道道合→シヤカ岳→比
良道ジ横→八雲小屋→ス
スキーリフト終点→縦走
路道合→武奈ヶ岳→縦走
路道合→コヤマノ岳→シヤ
クナゲ山→金鷲峠→青ガ
ク→大山口→イン谷口
(バス) 比良駅(解散16
時半頃)

費用 約26000円(京都駅か
ら)

地図 昭文社「比良山系」
◎秦 康夫

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで
芦生杉の繁るコヤマノ岳東尾
根を歩きます(本誌58号参照)。
雨天中止

紀泉・四石山(一般向き)
期日 10月19日(日) 日帰り

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

集合 新大阪駅→階止口構内
7時00分
コース 新大阪駅(バス) 山崎イ
ンター(バス) 三雲高原
青少年野外活動センター
登山口→三雲山→登山口
(バス) ちくさ高原(バ
ス) 新大阪駅(解散)

費用 約35000円(バス代)
2万5千〜西河内

地図 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*定員20名(会費に懸る)
小説「孤高の人」の加藤文太郎
が兵隊乗鞍と呼んだ兵庫東第二位
の高峰に登る。下山後ちくさ高原
温泉に立ち寄ります。雨天中止

平日ハイク(特別)
朽木・三國岳から経ヶ岳
期日 10月16日(日) 日帰り
集合 JR京都駅近鉄百貨店前
7時30分

コース 京都駅(車) 朽木桑原橋
→下フボ谷コース→三國
岳→お茶屋峠→経ヶ岳→
ミゴ越→イチゴ谷山(往

集合 ①JR名古屋線中央改札
口6時15分/②JR和泉
砂川駅10時45分

コース 和泉砂川駅→金熊寺→鉄
塔→槌石場→四石山→
沢出合→山中沢駅(解散
16時頃)

費用 約31000円(鉄道記念
きっぷ使用・名古屋から)

地図 2万5千〜樽井・岩出
◎小出良春

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

一関(バス) 西明石駅
(解散18時頃)
費用 約4500円(西明石駅
からバス代等)
地図 2万5千円寺前
係 ◎古賀慶一◎岡田昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山の上681
の33・17A/B
古賀慶一 まで
*定員22名

雪彦山の岩場は関西屈指のロッ
ククライミング場。2つのコース
に分かれて登ります。鹿ヶ登はい
くつもの天然障子があります。コー
ス番号は人数限定して登ります。
雨天中止。

自然観察山行130
遊覧 三方岩岳(中級向き)
期日 10月24日(日)25日(月)
前夜発日帰り
集合 (24日) JR岐阜駅23時
00分
コース (24日) 岐阜駅(バス)
(25日) (バス) 馬場ヶ
下駐車場→白川郷展覧館
地→木松→三方岩岳
三方岩岳駐車場(バス)
岐阜駅(解散)

*帰路に浴衣予定
費用 約10000円(岐阜駅
からバス代等)
地図 昭文社「白山」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員24名

豊かなブナ林の紅葉に身を染め
て白山を望む頂を目指します。時
間があれば白山スノー林道で紅
葉狩り。雨天決行

近畿百名山に登る(第63回)
台高・伊勢辻山と透岳
期日 10月25日(日)26日(月)
1泊2日
集合 (25日) 近鉄八木駅北口
広場8時00分
コース (25日) 八木駅(バス)
大又→三度辻小屋→伊勢
辻山→雲ヶ瀬山→高見峠
(バス) 香肌峽スミール
(泊)
(26日) スミール→飯盛
山→透岳→往路→スミ
ール(入浴・バス) 八木駅
(解散19時頃)

費用 約22000円(バス・
宿泊代等)
地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ◎村田智俊 ◎呉比呂美
◎安倉正勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名

一日目は伊勢辻山から高見峠へ
縦走し、二日目にスミールから透
岳に登ります。雨天決行

地図読み山行59
六甲・蛇谷北山(一般向き)
期日 10月26日(日)日帰り
集合 阪急芦屋川駅8時30分
コース 芦屋川駅(バス) 東お多
福山登山口→東お多福山
→土樋割山→蛇谷北山→
石の宝殿→船坂峠→清水
谷→船坂→阪急宝塚駅
(解散)
費用 約12000円
地図 2万5千円宝塚
昭文社「六甲・摩耶・
有馬」
申込み ◎塚元一彦 ◎中村登
〒536-0008
大阪市城東区関目4の14

の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
新ハイキング関西支部と合同。
蛇谷北山(750円)は芦屋市の
最高峰です。東お多福山から回っ
て、石の宝殿・船坂峠を歩きなが
ら地形図とコンパスの勉強をしま
す。シルバード型コンパス必携。
雨天中止

美濃・橋ヶ谷山から天狗森山
期日 10月26日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央本線⑧
番ホーム8時00分
コース 名古屋駅(電車) 恵那駅
(電車) 阿木駅(タクシー)
風神神社→宮林署小座
尾根分岐→橋ヶ谷山→天
狗森山→尾根分岐→宮林
署小座→風神神社(タク
シー) 阿木駅(電車) 名
古屋駅(解散17時55分頃)

費用 約3500円(寄券ラリー
バス使用・名古屋から)
地図 2万5千円美濃橋山
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

風神神社から宮林小屋まで林道
を歩きますが、阿木山の溪谷美を
見ながらの道なので気にならない
と思います。雨天中止

鈴鹿を歩く179
油日岳・那須ヶ原山・高嶺山
(健脚向き)
期日 10月26日(日) 日帰り
集合 鈴鹿峠越え8時00分
コース 鈴鹿峠(車) 油日岳
登山口→油日岳→三園山
→那須ヶ原山→三頭山→
坂下峠→清平山→高嶺山
→鈴鹿峠(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・彦仙・
伊吹」
係 ◎石野 明 ◎山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

大バノラマと変化に富んだ滝流
鹿の山々。秋たけなわを一気に縦
走します。雨天中止

集合 散電出町柳駅8時30分
コース 出町柳駅(電車) 鞍馬駅
→扶桑橋→百井谷→百井
峠→天ヶ岳→大原分岐→
シヤクナゲ尾根→小出石
(解散・バス) 地下鉄国
際会館前
費用 約10000円(交通費)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎真山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
林道歩きが多いですが、自然も
豊かで、秋の紅葉を楽しめます。
雨天中止

倉骨山・高室山新ルート
(鈴鹿を歩く167)
4月29日(日) 晴れ
集合 佐目トンネル西口広場8・
15(車) 東口広場8・20 倉骨山
10・00 P75010・40 高室山
11・20(昼食) 12・20 林道12・
30 サンショウの尾根12・50 佐
目14・15 広場14・40(解散)
杉林を出ると草付きのケヤキの
疎林に変わって見上げるような急
登が続いた。倉骨山の大展望を楽
しみ、東の峰(P750)を廻っ
て高室山の登りにかかる。ウラ
ビ探りに夢中。下りの尾根ではサ
ンショウの新芽摘みにひとときを
過ごした。
(参加者) 湯浅康夫 湯浅みや子
小松志信 磯部 純 松上美代子
池田繁美 大石将美 奥野太一郎
岩本健二 小林 稔 加納由紀子
武村千鶴 堀 寿江 友田美保子

山行報告
(5・6月号)
新ハイキングクラブ関西

九州大分の山
祖母山・嶺山・鶴見岳
5月1日(内夜)5日(祝朝)
4泊5日(船中2泊含)
(1日) (集合) 神戸六甲アイラ
ンドフェリターミナル17・00
50(フェリー泊)
(2日) 晴れ(フェリー) 大分
港6・00→10(バス) 五ヶ所8・
20→30一の鳥居9・30 北谷登
山口10・00→10千間平11・00
茶屋場11・15 園観峰11・35→50
→祖母山12・20(昼食) 13・00
園観峰13・30→五百目小屋14・40
→50→神原15・50→55(バス) 竹
田16・15(泊)
(3日) 晴れ 竹田7・00(バス)
九折山登山口7・45→55 林
道出合9・50 九折越10・45→11
00 後傾山12・05 傾山12・15
(昼食) 13・10 アオス谷源頭
水場13・55→14・05 三ツ坊主ル
ト出合14・35→45 三ツ尾15・05
→林道出合15・50→16・05 九折
登山口16・40→50(バス) 上柳17・
00(泊)
(4日) 晴れ 上柳7・00(バス)

島居9・00 火男火流神社9・30
35 鶴見岳10・55 (昼食) 12・
00 (ロープウェイ) 12・15 鉄輪
温泉12・30 (入浴) 14・00 (バス)
大分港15・00 16・10 (フナリー
泊)

(5日) 神戸六甲アイランド港5・
30 (解散)
(2日) 茶屋場から相母山までの
稜線はアケボノツツジを羨しみな
がらの登山となった。下山はルー
トを変更し、木谷をアケボノツツ
ジを見ながら滑りやすい急斜面を
神原へ下った。

(3日) 満開のヤマツツジを見な
がらカンカケ谷を詰め、谷と分か
れるとミツバツツジに変わり九折
越に到着。傾山の岩峰へ続く稜線
を歩き始めると、三ツ坊主から傾
の密状の岩峰斜面は一面に満開の
アケボノツツジのピンク色が新緑
の隙間に映えていた。岩が多く足
場が悪い三ツ坊主の歩き道からア
シビのトンネルを抜け、急斜面を
登山口へ周回した。

(4日) オマケの山にしては登り
がきついとの不満を聞きながら
早咲きのミヤマキリシマが開花し
観光客で賑わう御見居に到着。別
府で最も古い鉄輪温泉で3日間の

疲れを流し九州を後にした。
(参加者) 石川 敏 石倉真佐子
吉嶺 清 吉本泰之 田中善雄
仲谷社司 栗橋崇吉 栗橋君子
山本京子 船越利明 船越みよ子
小林 桂 森本淳子 三浦真左子
関口恵子 ○瓜取町明
◎狩野東彦 (計17名)

奈良・園見山
5月1日(日) 晴れ
(集合) JR奈良駅10・10 11
(バス) 田原横田11・10 12
磨原11・31 日吉神社12・05
(昼食) 12・45 塔の森12・52
園見山13・20 春日神社14・
02 矢田原14・15 46 (バス)
近鉄・JR奈良駅15・30 (解散)

奈良市・天理市の最高峰園見山
へ。1年前に新聞で紹介されたこ
の機会に行ってみたいと言っ人も
いた。塔の森からのミニ縦走路は
ササが適当にあり、快適な山道だ
った。
(参加者) 尾崎光子 藤本桂吉
佐野信江 若林文夫 前川和博子
永富律子 井中幸子 宮崎美智
荒木光雄 中村英雄 本間 隆
山根弘美 中田年子 東久保隆彦
初田隆子 土井隆夫 竹田勝英

桐山直江 斎藤幸子 和田直樹
奈良邦子 長塚重子 ◎小出良春
(計23名)
鈴鹿・鎌ヶ岳
(ファミリィハイク24)
5月1日(日) 晴れ
(集合) 新大阪駅7・00 (バス)
武平トンネル西広場9・35 45
三ツ口谷人口10・30 長石尾根取
付11・45 鎌ヶ岳12・30 (昼食)
13・00 武平峠13・50 14・00
御在所岳14・50 15・05 武平峠
15・40 武平トンネル西広場15・
50 (バス) 狩野温泉16・10 (入浴)
17・10 (バス) 大津駅18・50 (バ
ス) 新大阪駅19・50 (解散)
ハルリンドウやイワウチワに励
まされ鎌ヶ岳への谷道を登った。
全山を桃色に染めるアカヤシオは
淵息が出るほどの華やかさ。鎌ヶ
岳から御在所岳への黒崎尾根の踏
場や岩場ではアルペン気分を満喫
した。縦走路から振り返ると鎌ヶ
岳の鋭峰が輝いていた。
(参加者) 多田陽子 宮村孝次郎
柏木孝子 岩本彩子 瀬川内伸子
妹尾一正 中山峰雄 桂 久美子
美村孝治 中川光雄 井上由紀晴
木村 豊 松尾麗子 光川一美子

眞田久子 森本幹雄 成川みさお
加藤啓二 岩城豊子 中澤ちず子
西條良彦 松井明忠 山中あさみ
本間昭恵 市野博文 田所真由子
山科厚彦 西 洋美 西 悦子
盛 敏子 斎藤義人 斎藤百合子
中江清剛 ○中村友昭
◎木村太郎 (計35名)

奥高野・冷水山と玉置山
(近畿百名山に登る第55回)
5月3日(日) 5日(日) 2泊3日
(3日) 晴れ (集合) JR・南
海橋本駅9・30 40 (バス) 護摩
壇山駐車場11・40 護摩壇山12・
00 (昼食) 12・30 ワイルドライ
フ林間広場への分岐13・10 衣掛
岩13・50 14・00 六里ヶ峰林道
終点14・10 立石分岐14・40 殿
垣内展望台15・30 (バス) 花園温泉
17・10 (泊)

(4日) 晴れ 花園温泉6・10
(バス) 滝本宮スパー林道果
無橋9・00 冷水山9・15 20
カヤン10・10 八向谷の頭10・
50 55 ミヨウガタワを通過した
広場11・45 (昼食) 12・25 プナ
の平13・05 14・00 右地方山13・40
45 奥無峠14・10 30 観音堂
水場14・50 15・00 16 津川温泉

伊東ナナ子 岩本いすゞ
○中村 登 ◎塚元一彦 (計17名)
5月5日(日) 晴れ
(集合) 三蔵大安駅8・20 紅葉
尾崎崎橋9・15 (車) 林道赤尾川
分岐9・30 35 1 級基標点9・
58 1 刺山東の尾根11・15 1 三角点
11・22 1 刺山最高点11・35 1 不老
堂手前分岐12・00 (昼食) 12・55
1 不老堂13・10 1 2 級基標点14・
25 1 神崎橋14・30 40 (解散)
シャクナゲを目当てに行っていたが、
蕾も少なく花は咲いていなかった。
しかし、尾根の下から上まで
イワカガミが咲いていた。
(参加者) 茨木良雄 伊藤重美子
▽西村文男 小林 稔 山野志保江
栗本敏夫 村田紀生 穴戸喜久江
西村正春 藤堂国男 南 智恵子
森脇貞義 湯瀬井 豊
◎高原芳彦 ○山田明男 (計19名)

上湯湯橋16・30 40 (バス) 下湯
湯橋園 17・00 (泊)

(5日) 晴れ 「徳秀園」7・40
(バス) 林道折立分岐登山口8・
30 1 玉置山9・00 10 1 宝冠の森
10・15 30 1 玉置山11・15 (昼食)
11・55 1 玉置神社駐車場12・10
(バス) 星のくにロッジ14・35
(入浴) 15・30 (バス) 近鉄八木
駅17・00 (解散)

新緑のブナ林が続く奥無峠道路
を冷水山から奥無峠まで歩いた。
ブッシュもなく歩きやすい道沿い
にはミツバツツジやアケボノツツ
ジも満開だった。玉置山ではシャ
クナゲが咲いていた。宝冠の森へ
のクサリ場は緊張させられたが、
皆んな元気に通過した。3日間共
快晴で山と温泉が堪能できた。
(参加者) 川田洋子 宮本真幸
宮本悦子 片山克博 片山茂代子
竹田英美 緒方由子 武部美英子
小谷和子 馬場信盛 中嶋日出男
吉嶺啓二 多賀久子 森 美香子
坂原貞織 山高英治 山高多恵子
魚田一江 松尾麗子 野里マン代
◎安倉正勝 ○真比格美 (計26名)
◎田田賢俊

タンポと雷倉(美濃の山2)
5月3日(日) 夜 4日(日)
前夜泊日帰り
(3日) (集合) 白倉林道入口車
止6・00 (泊)
(4日) 晴れ 白倉林道入口6・
45 1 タンポ 雷倉分岐8・50 1 タ
ンポ9・25 30 1 タンポ 雷倉分
岐9・55 10 1 林道終点11・
25 1 雷倉11・45 (昼食) 12・40 1
林道終点12・55 1 タンポ 雷倉分
岐14・15 1 白倉林道入口15・30
(車) 大垣駅16・40 (解散)
とても長い林道歩きではあった
が、花も多くて(60種)変化に富
み、帰りに山菜も採れた。
(参加者) 竹田博美 大須賀 實
小松志信 森脇貞義 佐古田文子
小林 稔 炭田明美 加納由紀子
山田妙子 白木良弘 白木やす子
後藤久美子 ○高原芳彦
◎山田明男 (計14名)

湖北・虎前山と荒神山
5月3日(日) 晴れ
(集合) JR 虎前駅9・30 1 矢合
神社9・50 1 虎前山10・20 1 三
角点10・45 1 虎前山11・25 (昼食)
JR河瀬駅12・18 1 登山口12・47
(昼食) 13・15 1 Cコース 荒神山

5月3日(日) 晴れ
(集合) 阪急御園川駅9・00 10
1 穂谷入口9・37 1 四ノ目岩11・
10 1 ころころ岳11・25 (昼食) 12・
15 1 奥池13・05 1 1 観音山13・
40 1 45 1 繁林寺14・20 1 北山
公園15・20 1 阪急甲陽園駅15・50
(解散)
地形図の読図とコンパスの使い
方を勉強しながら、六甲山系前山
の变化の多いコースを楽しんだ。
(参加者) 須藤啓子 佐々木輝子
岩田育士 早野慶子 山根木 榮
西井博直 前田栄三 山根木 希子
澤田惟之 澤田幸子 竹安豊代子
楠原良彦 前田幸子 横川ゆり子
西村孝男 梅田久子 徳田千代子

南紀・子ノ泊山(三重の山67)
5月10日(日) 11日(日) 1泊2日
(10日) 晴れ (集合) 道の駅海
山 9・30 (車) 浅里・子ノ泊山
登山口11・30 12・07 衝立岩壁
ノ滝12・55 (昼食) 13・30 1 ヤケ

宮崎一尾根道大分岐点14・15
子ノ泊山14・52・15・05一尾根道
合流分岐点一尾根コース一尾根道
登山口16・00(車) 桐原(車) 尾
尾志(車) 小川口(車) 湯の口温
泉17・30(白炊道)
10日のシクナゲ、その夜の酒、
11日の滝、田植え進行中の千枚田、
全てよかった。入鹿窟ではオオヤ
マレンゲの花一輪、これもよかつ
た。

(参加者) 平 龍一 平 幸子
永戸鉄治 高橋止人 石田真由美
岡本美千子 ○桶川逸夫
◎尾崎英五 (計8名)

武奈ヶ岳・コヤマノ岳から
シクナゲ山(比良を歩く22)
5月11日(日) ◎桑 康夫
*雨天のため中止しました。

笠松山・織笠の滝・永禪の滝
扇子野の石垣
5月11日(日) 雨
(集合) 佐目千谷広場8・00(車)

谷林道一石山10・40一横尾辻一
横尾12・20(昼食) 12・50一五ツ
辻13・00一石湖寺分岐13・30一編
笠山14・00一徳坊山15・00一十
日野16・10(バス) 河内区警署16・
45(解散)

新緑がしっとり雨に濡れ、一
段と鮮やかさを増していた。
(参加者) 古川裕子 石倉真佐子
岩本彰子 若林文夫 木村千代子
山根木蕨子 ○中村美雄
◎西上利和 (計8名)

紀北・矢野岳
(ファミリーハイイク25)

5月15日(日) 雨のちくもり
(集合) 新大阪駅7・00(バス)
田原分岐林道・麓ノ川遊歩道分岐
9・25・35一麓ノ川遊歩道9・55一
登山口10・30一矢野岳12・00(昼
食) 12・40一登山口13・40一林道・
遊歩道分岐14・20・40(バス) 中
津温泉14・50(入浴) 15・50(バ
ス) 新大阪駅18・30(解散)

ダムサイト公園8・20一笠松山8・
45一水鏡の滝9・20一織笠の滝9・
45一水鏡寺東門10・45一グムサイ
ト公園11・20(昼食) 12・20(車)
牧広場12・30一石垣13・20一広場
14・00一公園14・15(解散)
80%の降水確率のためコース変
更して実地、水鏡寺集雨施設探勝
歩道と扇子野の石垣を散策。しと
しと降る緑の雨に新緑は映え、
水鏡と織笠の滝は見事。ワラビを
摘み、ジャケツイバラやクニワツ
ギ・エビネの花を愛でながら、古
代遊歩扇子野の石垣も散策し、楽
しい山行となった。

(参加者) 服部 亮 松上美代子
池田繁美 磯部 純 三上伸夫
後藤康幸 武村千鶴 吉村 昭
杉山雅久 栗本敏夫 友田美保子
友田 毅 加藤潤計 網本美恵子
原 光一 原 幸子 炭田明美
○山田景三 ◎吉野 明 ◎19名

吉野・竜門ヶ岳
5月11日(日) ◎小山良春
*雨天のため中止しました。
鈴鹿・鳥帽子岳
(近畿百名山に登る第56回)

へ歩く。昼食時には雨も上がり、
三度目の正直で山行ができた気粉
れな矢野岳、別れを告げた。
(参加者) 吉藤孝次 沖 伸
角田一江 小谷和子 宮村孝次郎
保田 正 高木忠夫 山本千鶴子
植木美子 竹田善英 波多野恵子
須藤裕子 岩城豊子 松上美代子
中山峰雄 森本健雄 成川みさお
眞田久子 森本悠子 光川二美子
山口寿一 山口富子 中上紀代子
松尾蘭子 木村 豊 千葉千枝子
多賀久子 上西信子 金藤千恵子
小川明美 馬場直盛 中澤ちず子
中山光郎 木下照子 岩村春子
青木一雄 兼田幸子 君塚郁子
原 文子 松村雅子 本間昭恵
白田孝子 澤田高治 竹田善英
秋葉正人 ○中村友昭 (計17名)

中世・高ボッチ
(自然観察山行1-8)

5月16日(日) 17日(日)
前後発日帰り
(16日) (集合) 岐阜駅23・00
(バス)
(17日) 晴れ(バス) 高ボッチ
高原駅 岐阜駅3・30(解散) 5・
20(バス) 高ボッチ山荘5・30

(集合) J R京都駅八条口7・40
く45(バス) 時山バンガロー村9・
40一鳥帽子岳手前ピーク11・
30(昼食) 鳥帽子岳手前ピーク11・
30一バンガロー村13・30一14・00
(バス) J R野洲駅15・30(解散)
希望者は「ほほえみの湯」入浴
小雨の登山となったが、山頂一
帯はシクナゲが満開で、多くの
花に出会って感動した。雨が強く
なったので、三國峠から鞍掛峠へ
の縦走は中止し、早自に下山した。
解散を野洲駅にし、駅前の温泉で
汗を流した。

(参加者) 吉藤孝次 瀬戸内伸子
宮本真幸 宮本悦子 石倉真佐子
多田陽子 岩田育士 桂 久美子
狩野東彦 木村 豊 佐々木輝子
秋田博樹 美村孝治 武部美英子
森 現代 栗橋崇吉 栗橋君子
松村雅子 白田孝子 上田久子
西尾俊弥 高岡信男 宮尾信子
入江武史 粟木光雄 宮村孝次郎
山根弘美 奥村寛裕 竹内喜久子
太田鉄弥 太田広子 山崎多恵子
磯野重治 小林 桂 中嶋日出男
長沢佑美 長尾節子 小谷和子
多賀久子 角田一江 岩本彰子
堀房香織 ○呉比呂美 (計14名)

湖西・大御影山
(平日ふれあいハイイク8)
5月13日(日) 晴れ
(集合) 京都駅八条口7・40(バ
ス) ビラデスト今津9・20・37一
滝谷山分岐10・55一林道11・30一
大御影山12・30(昼食) 13・15一
林道14・00一滝谷山分岐14・35一
ビラデスト今津15・50・16・15
(バス) 京都駅17・50(解散)

くもり空で景色は楽しめなかつ
たが、近江坂は艶やかに光る若葉
とイワカガミ・ウスキヨウラク・
シクナゲなど多くの花々が楽し
ませてくれた。
(参加者) 堀田輝子 山本千鶴子
吉藤孝次 栗橋君子 井上由紀晴
市野博文 松尾蘭子 砂原美恵子
伊藤淳子 榎 照司 榎 美奈子
本間 隆 本間響子 山根弘美
妹尾正一 橋本 守 木下朝子
安良陽子 谷 薫 岩城豊子
岩本彰子 藤井祐子 菅生愛子
布施清美 中尾博子 小河美奈子
田中善雄 角江朝子 三上須美恵
嶋田幸子 ○川上久堅
◎等井恒夫 (計12名)

紀東・三石山から一徳坊山
5月15日(日) くもりのち雨
かつて単人がたどった山頂御堂
の参拝道跡を登り、原生ブナ林の
新緑と山菜採りを楽しんだ。
(参加者) 三井敏一 松上美代子
森脇直哉 後藤康幸 竹田鶴男
緒方由子 光川博史 光川二美子
瀬井洋子 木下朝子 谷 守
岩本彰子 入江一光 湯浅みや子
林 一夫 池田繁美 ○磯部 純
◎金谷 昭 (計18名)

三河・常葉山から舟着山
5月18日(日) 晴れ
(集合) J R名古屋駅7・00・05
(電車) 長篠城駅9・13・15一平
平登山口10・15一竹ノ輪合流点10・
46一常葉山10・07・10一松山峠11・
47一舟着山12・11(昼食) 12・45
一漁入沢コース一西尾登山口13・
22一J R三河東郷駅14・12(電車)
名古屋駅15・52(解散)
本長篠駅に常駐のタクシィ会社
が営業し、一つ手前の長篠城駅から
大平集落まで、山を一つ登った
ような高地に大平はある。常葉
山から舟着山は植林の山道でだれ
にも合わず、かえってそれが思い
出深い山になった。
(参加者) 岩城豊子 宮崎喜久江
池田繁美 岡本美千子

渡辺美代子 ◎小出良春(計9名)

東橋羅・千ヶ峰
5月18日(日) 晴れ
(集合) J R 西明石駅 7:40~55
(バス) 岩塚神9:20~40 登山口9:55~小滝10:30 唐滝10:40 扇形所10:50 縦走路11:15 一雨乞石11:40 千ヶ峰12:05
(集合) 13:00 右馬場登山口13:35 越知谷登一小学校14:13 35 グリーンエコー笠形14:45 (入浴) 16:05 (バス) 西明石駅17:10 (解散)

東山燈夫 森 現代 松上美代子

松村雅子 森本淳子 前田喜久子
小林 桂 原 文字 田所真里子
堀尻香織 柳川常雄 ◎福岡 章
◎古賀慶一 (計27名)
白尾山(京都北山歩き108)
5月18日(日) 晴れ
(集合) J R 京都駅八条口7:40 (バス) 北・かやぶきの里9:20 津ノ本峠11:10 25 途中中川 40 (昼食) 12:40 白尾山13:10 30 林道終点15:05 20 大内 15:30 42 (バス) 京都駅17:35 (解散)

奥美濃・大日ヶ岳

5月24日(日) 晴れ
(集合) J R 大津駅 8:00~20 (バス) ウィングヒルスキー場11:40 リフト終点12:20 (昼食) 13:10 水後山14:00 大日ヶ岳15:05 タイナランドスキー場15:00 (バス) 大津駅20:00 (解散)

朽木・三國岳から経ヶ岳

(北山ちよと歩き45)
5月21日(日) 晴れ
(集合) J R 京都駅八条口7:30 (バス) 古原橋9:50 林道分岐 10:20 岩倉峠11:30 三國岳12:20 (昼食) 13:50 林道トッポ谷 下山14:45 桑原橋15:15 30 (バス) 京都駅17:00 (解散)

比良・鳥谷山から打見山

(週末ハイイク49)
5月24日(日) 晴れ一時曇り
(集合) J R 志賀駅 8:50 井財 天9:30 35 中谷出合9:50 水場10:10 20 荒川峠11:30 鳥谷山12:00 萬川越12:20 (昼食) 13:00 比良岳13:15 木戸 峠13:40 打見山14:15 20 ク ロトノハゲ14:40 天狗杉15:10 志賀駅16:20 (解散)

雨乞岳・七人山

(鈴鹿を歩く169)
5月25日(日) くもり
(集合) 武平峠西広場 8:00 郡 境尾根 8:30 沢谷峠 8:45 い いなのコバ 9:25 東南の岳 10:10 雨乞岳 10:20 一人寄りのコバ 11:05 (昼食) 11:50 七人山 12:10 クラ谷 12:30 沢谷瀬頭 13:30 広場 14:20 (解散)

角江朝子 仲谷弘司 山本千鶴子

藤部 純 谷 守 湯浅みや子
岩本彩子 中尾博子 山盛加奈子
竹田司 ◎本間 隆
◎川上久堅 ◎妹尾正一
◎真山繁三 (計57名)
山梨・三ツ峠山と黒岳
(自然観察山行119)
5月23日(日) 25日(日)
前夜発1泊2日
(23日)(集合) J R 岐阜駅 23:00 (バス)

角江朝子 仲谷弘司 山本千鶴子

藤部 純 谷 守 湯浅みや子
岩本彩子 中尾博子 山盛加奈子
竹田司 ◎本間 隆
◎川上久堅 ◎妹尾正一
◎真山繁三 (計57名)
山梨・三ツ峠山と黒岳
(自然観察山行119)
5月23日(日) 25日(日)
前夜発1泊2日
(23日)(集合) J R 岐阜駅 23:00 (バス)

雨乞岳・七人山

(鈴鹿を歩く169)
5月25日(日) くもり
(集合) 武平峠西広場 8:00 郡 境尾根 8:30 沢谷峠 8:45 い いなのコバ 9:25 東南の岳 10:10 雨乞岳 10:20 一人寄りのコバ 11:05 (昼食) 11:50 七人山 12:10 クラ谷 12:30 沢谷瀬頭 13:30 広場 14:20 (解散)

雨乞岳・七人山

(鈴鹿を歩く169)
5月25日(日) くもり
(集合) 武平峠西広場 8:00 郡 境尾根 8:30 沢谷峠 8:45 い いなのコバ 9:25 東南の岳 10:10 雨乞岳 10:20 一人寄りのコバ 11:05 (昼食) 11:50 七人山 12:10 クラ谷 12:30 沢谷瀬頭 13:30 広場 14:20 (解散)

角江朝子 仲谷弘司 山本千鶴子

藤部 純 谷 守 湯浅みや子
岩本彩子 中尾博子 山盛加奈子
竹田司 ◎本間 隆
◎川上久堅 ◎妹尾正一
◎真山繁三 (計57名)
山梨・三ツ峠山と黒岳
(自然観察山行119)
5月23日(日) 25日(日)
前夜発1泊2日
(23日)(集合) J R 岐阜駅 23:00 (バス)

南山城・鷲峰山

5月25日(日)くもり
(集合) J R宇治駅 9:10~16
(バス) 雑中前 9:50 信内原 10:22 金胎寺 11:57 (昼食) 12:30 鷲峰山 12:37 一等三角点 13:00 赤明神社 14:00 雑中前 15:17 (バス) 宇治駅 16:00 (解散)
金胎寺での昼食時に行列通りに行く人が受付に来ていて、寺の人から「今までで多死亡していて難しい行場ですよ」と言われていた。一等三角点と行場で有名な山だと知りました。
(参加者) 中村啓一 藤原 邦 長谷川 鈴木敏彦 木村千代子 山岸勝雄 嶋田民彦 高岡富美子 飯田良子 中村英雄 岡本美千子 林 信男 山口喜弘 小野典子 土井隆夫 山田修子 川上久登 牧 和夫 相田直樹 山上重隆 山上和代 ○京下淳一 (計23名)
◎小山良春 (計23名)

12:57 鮎掃りの滝 13:11 大山水吊橋 13:14 木地原敷跡 13:34 大山水 13:40 14:10 一向平 14:53 15:05 (バス) 自然の家 16:20 (散)
(一日) 雨 自然の家 5:05 船上山 6:01 船上神社 6:22 勝田ヶ山 6:15 20 船上神社 9:44 船上山 10:05 自然の家 10:40 11:10 (バス) 大山寺 12:00 (昼食・入浴) 14:27 (バス) 三ノ宮駅 18:00 (解散)
一向平では、指導員から大山水やこの地方の貴重なお話を伺った。楽しみにしていた縦走は、台風崩れの雨のため勝田ヶ山で折り返した。霧雨に煙るブナ原生林は幽玄の世界で、ヤマボウシの花が咲き誇り、これが希に見る大木ばかりであった。
(参加者) 岩田育士 渡辺一雅 岩瀬健司 石田高教 金森節子 吉藤孝次 岡本佳子 竹田博美 美村孝治 小谷和子 田辺弘子 栗橋原吉 栗橋野子 口石かおる 石川 敏 森 瑞代 松上美代子 川島敬也 堀尻香織 佐々木輝子 小川 桂 角田一江 石倉真佐子 中島 隆 山根弘美 砂原恵美子 三井 敏一 松村雅子 前田喜久子

前川 一 富田満子 岡田恵美子 光川一美子 ○狩野東彦 ○東山澄夫 ○岡田 昇 (計37名)
◎古賀慶一
生駒・生駒山から飯盛山 (地図読み山行57)
6月1日(日)くもり時々晴れ
(集合) 近鉄生駒駅 9:10 15 宝山寺 10:20 59 (ケール) 生駒山遊園地 11:15 生駒山 12:00 (昼食) 13:00 阪奈湯出合 13:10 宝池園地 13:40 桶水 14:50 15:00 飯盛山 15:10 20 野崎観音 16:10 20 J R 野崎駅 16:35 (解散)
台風4号の通過後で尾根筋には風があった。少し長いコースだったが、地形図とコンパスの使い方を勉強しながらのんびり歩き、初夏の新緑を楽しんだ。
(参加者) 小林 稔 染矢つや子 三上伸夫 三上泰子 竹安寛代子 西居俊彦 西原裕子 岩本いすゞ 楠原良彦 松田 久 名倉マサ子 中井秀一 須藤信子 伊東ナナ子 西井博道 川上久登 上田千枝子 入江武史 橋本広子 田中三恵子 岩本健二 岩本彩子 高月ミツヨ 北川良子 澤田惟之 徳田千代子

○中村 登 ◎塚元一彦 (計28名)
紀泉・三石山
6月1日(日)雨のち晴れ
(集合) 南海紀伊崎駅 11:10 一の神 11:46 三差路 12:12 三石山 12:32 (昼食) 13:05 丸尾橋 14:25 南海御幸辻駅 14:39 (解散)
前日に南海の時刻が変更になり、予定時間に全員集まることができなかった。三石山で労山のクリーンハイクの人たちに出会った。御幸辻駅までは自然林の道だった。
(参加者) 中島純一 川田洋子 竹田勝美 荒木光雄 野里マツ代 徳田暢子 藤本桂吉 渡辺美代子 永富律子 片山克博 片山喜代子 林 信男 東村由美 川北恵美子 前田栄三 山本博子 石井恵美子 森 明代 高岡信男 中尾美智子 ◎小山良春 (計21名)
但馬・水ノ山 (ファミリーハイック26)
6月5日(日)晴れ
(集合) 新大阪駅 7:00 (バス) 水ノ山園路 ロッジ前登山口 10:10 20 東尾根遊小原 10:45 55 1 入谷谷場 11:25 35 神大ヒュッ

テ11・55 12・05 水ノ山 12・30

(昼食) 13:35 水ノ山 越 14:15 25 地蔵堂 14:55 15:05 親水公園 15:40 50 (バス) 養父温泉 16:30 (入浴) 17:30 (バス) 新大阪駅 19:50 (解散)
青葉鮮やかなブナと耳飾りのようなベニドウダン、緑と花のシンフォニー奏でる東尾根をゆっくり登った。「単独行」の加藤文太郎が名づけた兵隊橋の頂上での昼食タイムもゆっくりとれた。山頂で兵隊アルプスの眺めを楽しみ、名残を惜しみつつ下山した。帰路は養父温泉まで汗を流した。
(参加者) 沖 伸 尾崎光宇 飯田良子 高木中実 吉藤孝次 須藤野子 美村孝治 砂原恵美子 多田陽子 川上久登 細野欽也 眞田久子 加藤元彦 井上藤子 木村 豊 上西信子 成川みさお 白根清子 岩村春子 井上由記晴 山根弘美 棚田勝子 千原千枝子 山科邦彦 長尾一令 桂 久美子 藤井裕子 河野 弘 山中あさみ 長田恵子 松井明志 山根邦枝 加藤浩一 西條良彦 盛 敏子 中山峰雄 岩本彩子 青木一雄 ○中村友昭 ◎木村太郎 (計40名)

中宿・霧ヶ峰 (自然観察山行120)

6月6日(日)7日(日)
前後発日帰り
(6日) (集合) J R 岐阜駅 23:00 (バス)
(7日) くもり (バス) 八島山荘 4:30 (朝食) 6:15 八島湿原 鏡ヶ池 7:45 8:00 物見岩 8:45 9:00 蝶々深山 9:20 車山 10:35 55 車山 11:30 45 (バス) すずらんの湯 12:00 (入浴) 12:50 (バス) 緑野 13:00 (昼食) 14:00 (バス) 岐阜駅 17:30 (解散)
車山のレンゲツツジ群落が満開だったが、八島湿原は夏前の静かなひととき。点々と咲くサクラミレとシロスキミレを楽しんだ。
(参加者) 石田賢二 井林寿彦子 岩城節子 岡田春美 加納由紀子 金森節子 栗橋原吉 栗橋野子 小松志信 竹田博美 砂原恵美子 長塚恵子 夏山春子 中上紀代子 奈良邦子 原 幸子 船本裕子 馬場昌盛 水谷信子 三上須美恵 宮本真幸 宮本悦子 森 美香子 宮西和子 若松明子 早野野子 ○岡田直規 ○田中 明 (計29名) ◎鷺見守康

京都西山・ボンボン山

6月8日(日)晴れ
(集合) J R 高槻駅 9:50 10:06 (バス) 川久保 10:35 川久保登山口 10:50 釈迦岳 12:26 (昼食) 13:00 ボンボン山 13:27 1 本山寺 14:20 30 神峰山 15:30 1 神峰山 15:53 (バス) J R 高槻駅 16:30 (解散)
ボンボン山に新しく地元の川上リーターが山頂で待っておられ、ボンボンと鳴るのは「ここだ」と言われ、足を踏んでみると不思議な音がした。下山の本山寺と神峰山寺は一度は訪れてみたい山寺だったので大変感激した。
(参加者) 井手利美 渡辺美代子 中村英雄 市野博文 岡本美千子 飯田良子 多賀久子 四ノ宮陽子 山口喜弘 中川光郎 口石かおる 山岸隆雄 嘉瀬井 豊 ○福岡 章 ◎小山良春 (計19名)

岳二角点 11・40 泉境線 12・45

6月8日(日)晴れ
(集合) J R 上郡駅 ホーム 9:30 40 (電車) 大原駅 10:20 30 大原本陣 竹山城登山口 11:00 1 宮本武蔵駅 11:25 1 神井神社 11:45 (昼食) 12:45 宮本武蔵生家 1 釜坂峠 13:30 豊福 14:40 豊福越 14:55 1 延吉 15:10 1 平福駅 15:30 (解散)
入梅前の快晴。武蔵の里は混雑で暑いこと。NHKの威力を思い知らされるが、その後の成り行き

ノタンノ坂から巡視路にのるとヒキノまではアツプタウンの連続。しかし、随所で大バノラマが展開した。右手には端正な天狗堂が続き、コアシサイやウノハナ、そして緑の深い樹林を十二分に満喫した。

- (参加者) 服部 堯 三上伸夫 小林 稔 大石秀美 奥野太一郎 小林 桂 柳田勝利 内田康夫 金谷 昭 堀 芳江 永戸鉄治 栗木敏夫 白木良弘 白木やす子 池田隆一 林 一夫 石田眞由美 吉岡 仁 友田 毅 友田美保子 田尾 肇 田尾瑠子 湯浅みや子 今井武司 炭田明美 細木美重子 岩木彩子 ○山田昌三

撰津・最勝ヶ峰から天上ヶ岳 6月22日(日) 雨のちくもり (集合) JR茨木駅 9・15・20 (バ) 新家 9・50 勝尾寺 11・27 最勝ヶ峰 12・03 ビジターセンター 12・45 (昼食) 13・30 天上ヶ岳 14・25 上ヶ岳 14・50 57 滝谷合出合 16・00 阪急箕面 駅 16・27 (解散)

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広げましょう。「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で12年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿料もすべてワリカンです。会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お送りします。四季の自然に触れながら歩き、

ら雨も小降りになり、東海自然歩道西の起点のビジターセンターに着くと雨は上がった。天上ヶ岳まで来たときがに疲れた人も出て、サプリターのオアションコースはあきらめざるをえず、途中サルに出会いながら真面に向かった。

- (参加者) 岩田育士 小原きぬ子 本間 隆 牧 和夫 市井ユリエ 岩村春子 山根弘美 吉條孝次 小田桐子 黒河内東洋明 楠原良彦 山岸勝雄 入江武史 岡 嘉子 吳山繁三 水本加津栄 和田直樹 須田久子 磯野重治 中村英雄 眞田久子 倉島扶美子 前田初雄 藤 聖子 岡本美子 白根清子 柳田隆子 武部美美子 中村豊香 小林 昇 岸 すみ子 佐野隆江 青木 雄 岩木いすゞ 北井健二 中尾博子 四ノ宮陽子 林 信男 平蔵孝子 中尾美智子 兼田孝子 中川光郎 石井恵美子 山口喜弘 上飯知子 野口 修 朝倉裕雄 ○宮下淳一 ○市野博文 ○小出良春(計50名)

新入会員(定期購読者)紹介

若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人ともみなさんご入会いただけます。入会金 500円(パツジ代) 年会費 3000円(送料共) 入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号確実にお手元に届きますので便利ですよ。切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。 ○山行リーダー募集 リーダーは2ヶ月に1〜2回程の山行例会を計画・実施していただきます。無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアルリーダー必読」をご参考に戻ります。

京都北山・朝日峰から峰山 6月29日(日) 晴れ (集合) JR京都駅 8・55 9・00 (バス) 高雄 9・51 浪切不動尊 10・09 六号橋 10・37 松尾峠 11・39 朝日峰 11・59 林道 12・15 (昼食) 12・45 林道終点 13・18 峰山 13・42 高山寺 14・36 峰山から鳥獣戯曲で有名な高山寺に下山し、見学できた。

- (参加者) 岩田育士 小原きぬ子 楠原良彦 蓮井洋子 武部美美子 岩鶴健司 市野博文 岸 すみ子 中村英雄 柳川常雄 高岡富美子 川田洋子 柳田隆子 野々山寛 井手利美 橋田和代 野々山寛 藤木桂吉 前田栄三 中尾美智子 東中次夫 多賀久子 川北恵美子 土井隆夫 山口喜弘 岩木いすゞ 本間勝子 森澤昭子 ○青條孝次 ○小出良春 (計30名)

訂正とお詫言

71号(盛夏) 71ページ下段9行目「どんよりと雲雲に……」は「どんよりと雲雲に……」が正しい。 71号(盛夏) 96ページ三段8行目の参加者「榎木金三」は「榎木金三」さんが正しい。(編集室)

大トチの点在するコメカイ道を地蔵峰に登った。蛇谷ヶ峰への尾根道はヤマボウシの白花が多かった。急な階段道をとんくう温泉にくたって汗を流した。

- (参加者) 大西幸孝 桂 久美子 小林 稔 小林 桂 市井ユリエ 黒河内東洋明 加地美子 長尾節子 中井秀一 中嶋日出男 山下明美 秋田龍樹 口石おたる 奥村嘉裕 山根弘美 伊東ナナ子 木下初子 山下定夫 松上美代子 岡崎短子 田中幸子 河原美代子 田中常雄 前田初雄 猪狩美穂子 磯野重治 入江武史 福岡あや子 青木 雄 牧 和夫 堀本 章 長尾一合 竹田博美 林 陽子 西尾久枝 ○安倉止勝 ○奥比呂美 ○村田智俊(計38名)



毎月お求めになりたい方へ 前もって書店に毎月ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。購読月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。